

出石藩

御用部屋日記

弘化二年一月

出石町公民館蔵

弘化二年巳年

御尊

日記

早川公藩

正月小

清年志  
辭小雅  
山石  
少  
同  
少  
少  
少  
少  
少

少

少

早川  
休  
國部  
加  
古  
下  
竹  
少  
中  
松  
為  
務  
分

全  
加

古  
丹

元日

其元日

一 守内名臣任事

杨嘉 法叔 松系

空天 上

右少卿 清代名臣任事

国部

一 守内名臣任事

上

中九

一 守内名臣任事

守内名臣任事

守内名臣任事

守内名臣任事

一 守内名臣任事

一 守内名臣任事

一 守内名臣任事

一 守内名臣任事

守内名臣任事

守内名臣任事

守内名臣任事

守内名臣任事

上之國を為す年慶院後主守為湯と書慶の  
ハハハハハ

宗徳内親王の御孫多良王の御孫多良王の御孫  
存

一 下之國を為す年慶院後主守為湯と書慶の

ハハハハハ

宗徳

10 院の御孫多良王の御孫多良王の御孫  
宗徳内親王の御孫多良王の御孫多良王の御孫

宗徳内親王の御孫多良王の御孫多良王の御孫

宗徳内親王

宗徳

一 宗徳内親王の御孫多良王の御孫多良王の御孫  
宗徳内親王の御孫多良王の御孫多良王の御孫

宗徳

宗徳内親王

宗徳内親王



二日

一日

法科部  
四日

仙石  
長國

三日

一日

四日

一日

佐藤院様

法科部  
六日

仙石  
長國

石

法科部

六日

仙石

一 江蘇省立圖書館  
二 江蘇省立圖書館

各分書

張幹

二九年

二九年

二九年

二九年

各分書

二九年

二九年

二九年

二九年

二九年

各分書

各分書

大...

仙...

孫...

王...

中國...

杜...

小...

伴...

國...

松...

一 計の... 事務... 人員...

一 事務...

事務... 事務... 事務... 事務... 事務...

二月十日 事務...

事務...

事務...

六日

休日

事務...

右の年月... 事務...

事務...

事務...

田中...

七日

休日

少中又出山外

休安集如  
子川居者

八日

休日

少中又出山外

休安集如  
子川居者

九日

少中又出山外

休安集如

十日

口之致分多候

田中作

森公同少中出山外  
少中又出山外  
少中又出山外  
少中又出山外

二月

山吹の如く

清方少の痕  
白け

本

新編後集の分は成りし 尾のしるしは其の如く

しるしを大急少年よりしるし

一日

清方少の  
大海集

古詩別集の序 清方少の序の如くしるし

但し清方少の如くしるし

九日

一日

一日

古詩別集の序 清方少の序の如くしるし  
中田の序の如くしるし  
清方少の序の如くしるし  
清方少の序の如くしるし  
清方少の序の如くしるし

清方少の

一日

清方少の序の如くしるし

別處之... 濟南...

一... 濟南...

濟南...

濟南...

一... 濟南...

濟南...

濟南...

一... 濟南...

一... 濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

濟南...

表の行々各社各回所

山物見下本

阿部信隆

表大正元年四月五日

山物

阿部信隆

表大正元年四月五日

山物見下本

山物

阿部信隆

表大正元年四月五日

山物

休日

山物見下本

阿部信隆

表大正元年四月五日

山物

一 休日

一 休日

一 休日

休日

一 休日

一 休日

一 休日

一 休日

休日

一 休日

休日

一 休日

休日

休日

一 休日

休日

休日





Vertical text on the far right edge, possibly bleed-through or a separate column.

一 月 廿 九 日 午 時 賀

山 本 氏 廣  
字 人

賀

山 本 氏 廣 賀

賀

山 本 氏 廣 賀

子 國 奉 賀

山 本 氏 廣 賀

山 本 氏 廣 賀

山 本 氏 廣

山 本 氏 廣

山 本 氏 廣

山 本 氏 廣

山 本 氏 廣

山 本 氏 廣 賀

竹葉青牛一紙年一紙存一紙為方格紙  
可矣

似多似少以廣開卷之目以好觀之

一 亦通美在字之西漢後

山陰  
竹葉青

亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後

亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後

山陰  
元中

亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後  
亦通美在字之西漢後

山陰  
元中

中日交年平定... 此上... 存

存

中日交年中... 此上... 存

存

中日交年中... 此上... 存

存

中日交年中... 此上... 存

存

中日交年中... 此上... 存

一、...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...





摩多

中五石  
石谷  
石谷  
石谷  
石谷  
石谷  
石谷  
石谷

十六日

二十日

清見家為... 取極其...

清見家... 清見家...

清見家... 清見家...

清見家...

清見家... 清見家...

清見家...

清見家... 清見家...

清見家...

清見家...



八段

方道松竹梅

松竹梅

七段

松竹梅  
竹梅松  
梅松竹

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

六段

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

五段

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

松竹梅

春乃

口

秋月夜

一柳

仙

松

五

右

羊

一

出

何

松

松

門

大

春

大板書  
大板書

古井古松人  
古井古松人

大板書  
大板書

本

本

大板書  
大板書

大板書  
大板書

大板書  
大板書

平川

中

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

平川

清成在格の...  
...  
...  
...  
...

五洲

十九日

休日

...  
...

五洲

...  
...

大正少年  
松井...  
...  
...  
...  
...  
...

...

白雲山房  
石室山房

國不之堂  
中山山房  
高橋山房

草

一列別室

山房  
石室山房

一折山房  
中山山房  
石室山房  
石室山房

石室山房  
石室山房

大石山房

松井山房

國不之堂

石室山房  
石室山房  
石室山房

清宮し御方  
在り  
川島修善

中居同、香入

五十年平上原の石書御方  
修善

五十年中上原の石書  
一正

北米の石書  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

石書の北一正  
修善

たふあき年一たふあき人  
たふあき年一たふあき人

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後

山作ノ後



法華之旨為萬法之宗故本之於法華者不可不察也  
及夫少川之序以之為宗則其宗之所在可知矣

### 口上覽

弘治二年十月

清原君受其德也其德之所在不可不察也

子孫承之者不可不察也

清原君受其德也其德之所在不可不察也

弘治二年十月

清原君受其德也其德之所在不可不察也

弘治二年十月

清原君受其德也其德之所在不可不察也

弘治二年十月

清原君受其德也其德之所在不可不察也

弘治二年十月

弘治二年十月

少川

仙居

仙居

仙居

仙居

仙居

弘治二年十月

弘治二年十月

仙居

弘治二年十月

仙居

一 卷三下中  
五房後

北東海左

大連 津島 杉山 志一 氏

一 山崎 年可 氏

今川 宗正 氏 今川 宗正 氏  
養正 宗正 氏 今川 宗正 氏

養正 宗正 氏  
今川 宗正 氏  
五房 宗正 氏

今川 宗正 氏 宗正 宗正 氏  
大川 宗正 氏

宗正 宗正 氏  
今川 宗正 氏  
今川 宗正 氏  
今川 宗正 氏

今川 宗正 氏  
今川 宗正 氏  
今川 宗正 氏

今川 宗正 氏

大連 宗正 氏 今川 宗正 氏

一 今川 宗正 氏

今川 宗正 氏 今川 宗正 氏

今川 宗正 氏

今川 宗正 氏

今川 宗正 氏

今川 宗正 氏

今川 宗正 氏 今川 宗正 氏

一 此道非家法也

子孫世傳

加意守持

此道非家法也  
亦非家法也  
亦非家法也

此道非家法也

文者

此道非家法也

右師承之義也

又此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

右師承之義也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

此道非家法也

後  
陽田重行

父也其為也何也

始乃心之公好後何也

清室也

清免也

以集也

也

休也

也

也

也  
也

也

也

也

下(連)行所(十)心(全)

元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)

元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)

下(連)行所(十)心(全)

元(全)心(全)

元(全)心(全)

下(連)行所(十)心(全)

元(全)心(全)

元(全)心(全)

元(全)心(全)

元(全)心(全)

元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)

元(全)心(全)  
元(全)心(全)  
元(全)心(全)

元(全)心(全)

六六八頁

あらはにこれらを見れば  
 願同むすべし此れも  
 ありふりしはもつれ  
 せんもつれせんもつれ  
 せんもつれせんもつれ

仙舟

五ノ目 仙舟のりしは  
 仙舟のりしは  
 仙舟のりしは

仙舟

仙舟

仙舟のりしは  
 仙舟のりしは

仙舟

仙舟のりしは  
 仙舟のりしは

仙舟

仙舟のりしは

仙舟

女四日

例列左

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

出考

仙客

一 考名知族

仙客

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

仙客

一 考名知族

一 考名知族

一 考名知族

此乃... 乃... 乃...

本...

...

左...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



仙苑

天竺山子下教三國記以爲家也昔年曾與友  
如九弟一化摩火之友及後也

一 友之由心務務子力之實人之友

三友之友

德如  
漢如

一 友之由心務務子力之實人之友

三友之友

大八

德如

三友之友

以加利二友

皇苑

德如  
漢如

一 友之由心務務子力之實人之友

三友之友  
以加利二友

德如

一 友之由心務務子力之實人之友

三友之友  
以加利二友

但此孔出所名也... 七之... 松...

化三...

少...

以...

子...

元...

...

...

...

...

...

...

古...

...

体...

...

...

...

古...

例...

...

...

...

一 守りて

近江の  
うらまひ

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

守りて

右ノ趣ニ於テ得ル所ニ在リ

右ノ趣ニ於テ得ル所ニ在リ

一 仁徳

仁徳ノ行ハルニ由リテ徳ヲ得ル

仁徳

仁徳

仁徳ノ行ハルニ由リテ徳ヲ得ル

仁徳ノ行ハルニ由リテ徳ヲ得ル

一 仁徳

仁徳ノ行ハルニ由リテ徳ヲ得ル

仁徳

一 仁徳

仁徳ノ行ハルニ由リテ徳ヲ得ル

仁徳

仁徳

仁徳

仁徳ノ行ハルニ由リテ徳ヲ得ル

仁徳

石川内子

国信

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

石川内子

右...  
...  
...

一...  
...

右...  
...

右...  
...

右...  
...

右...  
...

右...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



一 新島新んと也  
一 新島新んと也

一 新島新んと也  
一 新島新んと也

一 新島新んと也  
一 新島新んと也

一 新島新んと也  
一 新島新んと也

一 新島新んと也  
一 新島新んと也

一 新島新んと也

一 新島新んと也

一 新島新んと也

新島新んと也  
新島新んと也

新島新んと也

一 新島新んと也

新島新んと也

新島新んと也

新島新んと也

新島新んと也

新島新んと也

新島新んと也

新島新んと也



出石藩

御用部屋日記

弘化二年二月

出石町公民館蔵

弘化元年巳年

御用

日記 城野宗次

二月大

沙用者  
沙遊人  
沙物在  
吉侯施  
吉聚外  
所其外  
吉勤業  
吉徒士  
吉義外  
吉月付  
吉賢付  
吉勤元  
免意天

咸建之所次  
小出大分  
國治在  
國色勤  
言心是  
法更勤  
竹村德  
行地志  
山地勤  
西山善  
後山三  
約升川

火消

國治勤

廣南

河野忠

朔日

一 例刊在

一 津久野梅方、當朝、以京極連為、公卿

津久野  
津月人

右一河津月、用、公卿

一 當、公卿

今、公卿

一 家門、公卿

先、公卿

好、公卿

一 以、公卿

之、公卿

好、公卿

一 府、公卿

仙、公卿

一 以、公卿

一 府、公卿

一 府、公卿

中、公卿

一 府、公卿

小、公卿

福士宗信

一 山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信  
山崎宗信  
山崎宗信

山崎宗信  
山崎宗信

山崎宗信  
山崎宗信  
山崎宗信

山崎宗信  
山崎宗信

山崎宗信  
山崎宗信

山崎宗信  
山崎宗信

一 山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信

一 山崎宗信

一 山崎宗信

二日

一休

初年舟中感  
神代系五劫在十生

伴四脚蓬

一山自舟蓬

例年通挂舟月  
中蓬  
神代系五劫在十生

二日

一例到出仕

信春院極  
自相院極  
天真院極

仙石在焉

信春院極  
自相院極  
天真院極

早川在焉

右沙志自有分作  
神代系五劫在十生

神代系五劫在十生  
神代系五劫在十生  
神代系五劫在十生

夏次

一 七味、家の中へ申上り、親父様、松平様、

此の如く申上り、御座候、

作、息、院、候、方、申上、

返書、申上、

一 友、女、

此の如く申上、

申上、

一 友、女、

此の如く申上、

申上、

申上、

一 友、通、

此の如く申上、

申上、

申上、

申上、

申上、

大書、

田中、

生田、

給、

申上、

一 阿部貞重

左田忠之助

二 守屋久直 守屋久直 守屋久直 守屋久直

三 守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

守屋久直

奇夜 彦公

奇夜 山神三

小谷 山神三

栗尾 山神三

久畑 山神三

登尾跡 山神三

小神系 山神三

一 山用八世

右 通 山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三

山神三



六日

一 休日

一 印表先月其日出火後並其

印表 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

沖奥探蓋沖城源氏成建先以成印表

一 沖志為...  
 一 沖志為...  
 一 沖志為...  
 一 沖志為...

六日

一 休日

長岡 存  
 長岡 存

早川 存  
 長岡 存  
 張 存

七日

一 例別出仕

高田 存  
 高田 存

友 存

高田 存  
 高田 存

小林 友 存

一 方々通啓勤有

沖志 存

辰年  
三十五年  
亥年  
三十八年  
巳年

長尾景春  
三十九年

三十九年

三十九年

三十九年

三十九年

三十九年

但右統元、三十九年以後

一方通切、江内村、三十九年、  
但右統元、三十九年以後

長尾景春

長尾景春

長尾景春

長尾景春

仙石右馬助  
早川左衛門  
長岡右仲

右三人

杉原源藏

小出左衛門

伴野助

長尾景春

長尾景春

江内人

江内人

江内人

一 山家可生

友之也昔四口欲得序十餘年

一 子次  
敬先

和所

吟田也

治和

八本歌

希以結不

叙平

張治也事

勇平

香田可

表為不

了也

二 一 三  
子次  
敬先

一 節維輝 冲安樂一節向

但求、町協之公 節、一之之公如重、後、以、事、在、後、事、付、卷

用入

自也

以小人左

右 冲安樂一節向 本書院之場也

冲安樂一節向

但求、町協之公 冲安樂一節向

一 冲安樂一節向 冲安樂一節向

一 本書院之場也 冲安樂一節向

一 此為場下段人系之件其條件信以集自村三人  
之由の別裁件仕事。

一 表沙の内外傍の補給仕事

一 沖敷裏の田段は沙月段の如様仕事一院の田段は裏  
おのり仕事

但此等より段人上各仕事

一 沖田間田段の 沖田為石田段の田段は裏  
了傷由了様仕事也表沙の田段は

沖田出成八木田下也田段は裏仕事

沖田の田段は田段仕事

一 田段の境と田段の段人仕事段人

有之仕向仕事

田段の

一 田段村沙林の  
田段の田段

田段段人

田段村

田段

田段

田段

田段

田段

沙上  
粟花

沙上  
久相

沙上  
登り尾跡

沙上  
小跡系

沙上

沙上

右通り

沙上

沙上  
沙上

沙上

沙上

沙上

沙上

沙上

沙上

右通り

沙上  
沙上

沙上

沙上

沙上  
沙上

一 津波樂部

津波樂部

津波樂部

津波樂部

津波樂部

津波樂部

一 津波樂部

津波樂部

一 津波樂部

一 津波樂部

津波樂部

一 津波樂部

一 津波樂部

一 津波樂部

津波樂部

津波樂部

津波樂部

津波樂部

一 津波樂部

一 津波樂部

一 少年勇健 志氣昂揚 文武兼修 志存遠大

但此等名聲 乃一時之盛

一 壯年以用 舍大日 亦不為憂 志氣愈壯

但此等

一 強年以用 則心氣 必自壯矣 志氣愈壯

亦不遠了 終年

但此等

一 強年以用 則心氣 必自壯矣

一 壯年以用 則心氣 必自壯矣 志氣愈壯

壯年以用 則心氣 必自壯矣

一 壯年以用 則心氣 必自壯矣 志氣愈壯

壯年以用 則心氣 必自壯矣

壯年以用 則心氣 必自壯矣

一 壯年以用 則心氣 必自壯矣 志氣愈壯

壯年以用 則心氣 必自壯矣

壯年以用 則心氣 必自壯矣 志氣愈壯

壯年以用 則心氣 必自壯矣



柳井良亮

右京書院簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

大岩小年

簿記法例と通算の事

井上徳亮

右京書院簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

右京書院簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

柳井良亮

右京書院簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

出版

柳井良亮

右京書院簿記法例と通算の事

簿記法例と通算の事

六十九方九方百三枝

下三十九方百枝

布通沙紫神三集

冲羽

一 大小琴

右自有及全月年

一 羅子年十古在

句

一 方有八全

等和

日 全集

古

日 全集

山

日 全集

松

一

左

節

紙

日

周

ありり

少  
三  
山  
山  
山

一 方通山在... 法... 法...

義倉... 法... 法... 法...

方... 法...

二...

一 方通山在... 法...

義倉... 法... 法... 法...

方... 法...

二...

改地...

山...

方... 法... 法... 法...

一休日

八日

海江津津浪地人遊遊  
丹之介又自美原來春  
子誠有精進前乃法也  
於今至金品川形勢也

丹之介

但衣身更候違事 活於活處 候上然 事多 人下 事多 月日 文  
形勢中 候 月日 候 候

一休日

九日

一休日

但候今 形勢 候 候  
形勢中 候 候

形勢

一休日

十日

一休日

十一日

一 印表表先月十日引致事

取指給 沖野指首津城源流成法其具の記述

其の事世法の事

海口の橋

松前志摩の事

本番の約束を為し旅費の計を以て 沖野同様に

其の事世法の事

今日指首 沖野指首の事 沖野元老指首の事

沖野指首の事

一 東野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事

一 沖野指首の事



佐渡古沢山麓家而紅信傳る候山申儀未だ肥後古沢山並  
唐尾町有之由也此等は其の種科類を言ひ及之交野原  
原處種失麻布一上町は傳は秋物種山前山家所の氷川河  
原町原種山一市村町有之由を言ひ候由は其の種科類  
也付松平市原山より其處之原種を言ひ候由は其の種  
科類不町家樹木を言ひ丹波山儀を言ひ候由は其の種科類  
白根山儀を言ひ候由は其の種科類也此等其の種科類を  
板松平大和山儀を言ひ候由は其の種科類也此等其の種科類  
也此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也

山儀其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也  
此等其の種科類也此等其の種科類也此等其の種科類也

一

十一日

一 例刊出在

者七日也

大若山年

一 方通以得

節惟極成今叙一係甲為積多引紙即以此類  
是歲也

津安樂以遊名也 作此數月則其意成後  
之也

以上叙人然其意成矣

二月十日

後世之矣

一 節惟極成今叙一係甲為積多引紙即以此類

自負意常古回若也

但尚言周

妻徐言

金律

而合



此是白少子歌後  
安後男子出生  
能納舟是也  
休是也  
海後也

板井吉印

當の心

此歌の如故  
可なり

布衣用人を以て

此作中  
此書は其の  
下中

此は後  
此は其の

右田忠

此は其の

河野  
本間半次

老

手

此は其の  
此は其の  
但し其の

長岡一  
其系  
大肥安  
陸水半  
川口  
其

右一  
此は其の  
此は其の  
此は其の

一 日記の巻

東京から江戸へ来た

三月四日 長谷川

同日 判形 早稲

同日 長谷川 桑畑

同日 判形

同日 長谷川 桑畑

同日 判形 桑畑

同日 長谷川

同日 判形 桑畑

養父邸

同日 長谷川 桑畑

同日 判形 桑畑

一 節 雑記

津波襲来の事

明治十一年

干綱

山打七末

仙居合...

一 友通 山月人...

山打合...

山打...

山打...

山打...

一 山月人

友通 山月人

山打...

山打...

山打...

山打...

仙居合...

一 柳 互程

山打...

早川...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

山打...

一 田舎

上野村の田舎

田舎小治政

井上徳次

一 田舎の生活

一 田舎の生活

田舎の生活

田舎の生活

一 田舎

田舎の生活

田舎の生活

田舎の生活

田舎の生活

田舎の生活

田舎の人

田舎の生活

敢極 冲奥極 因縁起 後矣

一 可也 可也

左之通 後也

婆放之

八重

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

心筆 少矣

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

可也 可也

一 望 表 上 邊 後 亦 上 沙 月 狀 是 對 以 人 上 表 後

一 節 准 據 進 之 言 即 沙 以 誠 身 為

冲 出 之 法 於 稻 葉 矣 他 寺 之 後 寺 也 念 寺

冲 之 法 也

他 寺 之 後 寺 也 念 寺

一 有る名君に就ては、南へ去るに在りて、北に往くこと多し  
中今三人は、南に在りて、北に往くこと少し

二 山月入道

方一也 山月入道 山月入道 山月入道

山月入道 山月入道 山月入道  
山月入道 山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

山月入道 山月入道

十一日

一 休日  
二 山月入道

山月入道 山月入道  
山月入道 山月入道  
山月入道 山月入道

山月入道 山月入道  
山月入道 山月入道

一 介舟と林松  
節取振落た楸高延年と、後高と、其高と、  
許高橋と、海の中一、其高、今、その心、

十四日

一 体の上の葉、少くも、何れに在

一 鮮網、二尾  
一 尾、一尾、

後、早、角、

但、其、高、也、

有、空、間、并、之、葉、老、之、由、而、心、之、葉、在、其、前、面、也、  
一、間、之、心、口、吸、為、尾、科、短、長、成、之、後、今日、也、  
一、吸、中、之、後、葉、之、由、出、書、院、之、間、也、  
等、之、也、

但、七、子、一、也、  
一、書、院、は、序、古、に、神、也、而、合、之、也、

一 沙、養、料  
一 金、重、上、  
一 竹、間、及、之、

山西林、  
一、竹、間、及、之、  
一、山西、林、  
一、竹、間、及、之、

右今且 已略致于同也 因世國者 料此 蒙  
賜中 因房 長子 及 接 致

古言

一 麻下不着月例列在

一 節雖極末十句

冲發樂言 作出沙後後 於各 係 爲 云 云 云

節雖極冲發樂言

作出有麻末 云 云 列 在 以 以 候 云 云

中 卷 序 云 云

一 柳 直 徑

節雖極冲發樂言

作出有麻末 云 云 列 在 以 以 候 云 云

沙 山 流 水

沙 用 人

一 麻下不着月例列在 其 外 然 然 而 而 切

沙 山 流 水 云 云 列 在 以 以 候 云 云

者 云 云 云 云 云 云

是 云 云 云 云 云 云

云 云 云 云

全 係 順 而

一 節雖極十分 冲發樂言 卷 序 云 云 云 云 云 云

云 云



横濱市北區中野町

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本

山本

山本 太郎

山本 太郎

一 山本太郎

山本太郎 山本太郎

山本太郎 山本太郎

山本太郎 山本太郎

山本太郎

山本太郎 山本太郎  
山本太郎 山本太郎  
山本太郎 山本太郎  
山本太郎 山本太郎

山本太郎

一 山本太郎

山本太郎

山本太郎

山本太郎

山本太郎

山本太郎

山本

山本

山本

右有申分おかし  
石原先生法

日田先生

二 田用入甚

右は通事院に申上申

少部令身杜揚文

幸田先生

奥平

少部令身杜揚文

幸田先生

一 沖免

一 直 義

一 赤坂八公少時在指

沖免 赤坂八公少時在指

中法寺中法寺... 少時在指

以 沖免若菜少時在

沖免若菜少時在

沖免若菜

十六日

一 休日

一 沖免若菜少時在

敬極始 沖免若菜少時在

二十九年七月廿七日

十七日

一 例刊在

右查此係沙...

沙...

仙...

一 友...

以十八日

...

...

...

...

...

...

...

一 友...

...

...

...

...

及指 冲寒梅... 一枝独放

一 柳花梅... 一枝独放

中 柳花

中 柳花

中 柳花

柳花

右二月二日... 一枝独放

一 沙... 一枝独放

中 柳花... 一枝独放

公... 一枝独放

中... 一枝独放

中... 一枝独放

一... 一枝独放

一... 一枝独放

及... 一枝独放

左... 一枝独放

右... 一枝独放

小... 一枝独放

一枝独放

中山

中山

中山

中山

中山

中山

中山

中山

中山

中山

中山

中山

口授古直上人  
序

久保氏

一 月有在

益友女以

中西

一 月有在

友之題

吾友之題  
以友之題  
以友之題

古和

一 月有在

節惟極口日 汝發樂 汝發樂 汝發樂

一 月有在

友之題

以友之題  
以友之題

古和  
解

一 月有在

汝發樂 汝發樂 汝發樂

但更河津金樂沙遊公海船是丁其河田房大守并  
其公與出仕中人

十八日 陸子麻下守

一節 惟梅 沖安樂舟出仕

一節 惟梅 其外

沖安樂梅方 沖安樂沙後松本源家是也

出仕者乃松本源家  
中道

沖中知房守

一柳 一 出仕

一節 惟梅 其外  
乃其外也

沙山遊  
沙用人  
日核也

一節 惟梅 其外 沖安樂沙遊

一節 惟梅 其外 沖安樂沙遊

沖安樂沙遊 沖安樂沙遊  
沖安樂沙遊 沖安樂沙遊

沖安樂沙遊

一節 惟梅 其外 沖安樂沙遊

仕事

但世宗の一方宗氏と西面の事は宗氏が統率する事

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事

但世宗

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事

但世宗が宗氏に送る事

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事

但世宗が宗氏に送る事

宗氏が宗氏に送る事

宗氏が宗氏に送る事

宗氏

一 柳直

宗氏が宗氏に送る事

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事

宗氏が宗氏に送る事

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事

宗氏が宗氏に送る事

一 宗氏が用人目録を宗氏に送る事



終く後之西ノ義也

仁以年方天再復中命也

前之世也

終く後之西ノ義也

一 後之西ノ義也

一 沙海舟ノ以教高ノ一

五ノ一

為ノ一

麻見秀也

津ノ一

一 用人也

御座候

津ノ一

山崎人  
山口俊士

一 月也

生れ

の

不圖也

沙ノ一

大若也

ノ一

小林也

ノ一

一 淨土宗 念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

十九日

一 休日

六日

一 例利先住

淨土宗 念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

念佛往生 念佛往生 念佛往生 念佛往生

有以願書員令  
至而即日令書了

令津安也

一方通下後以自付者有月何事也

出町北本町裏  
高橋寺の御免  
津免

後井次物

右代々

西山平左衛門

柳町四の御免  
津免

二女左馬三

右代々

向中左衛門

# 用人達

山崎科 合平正  
尾子 一ツ丸

丹後縣丹波郡  
津和野  
細見左衛門

右代々物多しは百五紙有也

但右代々物に於て中右代々系有也之に取替元紙統  
其に近身兼長病に於て右代々紙は別紙再建也  
其に元多代々之紙は自力信の御平様列に據然  
力の多代々合下而書付有也其紙は元系も合下  
其に元多代々之紙は元系も合下而書付有也其紙は元系も合下  
其に元多代々之紙は元系も合下而書付有也其紙は元系も合下

一 寺社名の巻

高橋寺

此寺は古くは神子寺と云ふに遷りて高橋寺と改稱す  
號は徳願と改稱す中は眼寺と云ふは  
名代おれ勤王の御代

一 源五郎は長門の山王の御代  
作付りる其の由は長門の山王の御代

大一日

一 休日

一 以月付巻

西の宮の御代  
以月付巻の御代

植松友実

大二日

一 休日

高橋寺

高橋寺

有久矣生也。年以沙集不勤。勤為沙田。勤  
子誠中。本以沙集不勤。勤為沙田。勤

一大革命部總理

沙集不勤

行國新苑

為沙集不勤。勤為沙田。勤  
沙集不勤。勤為沙田。勤  
沙集不勤。勤為沙田。勤  
沙集不勤。勤為沙田。勤  
沙集不勤。勤為沙田。勤

二月十日

一為沙集不勤

沙集不勤

二月十日

六二日

一休日

美余者。沙集不勤  
沙集不勤

秋田之友

一 五月廿五日

今日秋後秋後  
今日秋後秋後

今日秋後秋後  
今日秋後秋後

一 西遊記の物語は今日秋後秋後

一 西遊記の物語は今日秋後秋後

西遊記の物語は今日秋後秋後

一 西遊記の物語は今日秋後秋後

但此の物語は今日秋後秋後

一 四月廿五日

一 志村の物語は今日秋後秋後

志村の物語は今日秋後秋後

一 例列在

大田

一 志村の物語は今日秋後秋後

志村の物語は今日秋後秋後

一 志村の物語は今日秋後秋後

志村の物語は今日秋後秋後

櫻井正平父世系家系

の年向一居即下系系傳系

信吉清の父元正の系系傳系

の系中中村貞元の系系傳系

の系系傳系の系系傳系

多田忠元

繁正系系系系系

の系中中村貞元の系系傳系

の系系傳系の系系傳系

の系系傳系の系系傳系

但書系系系系系系系系系系系

中西清子

一 豊島正平の系系傳系

節正系系系系系系系系系系系

一 側年正平の系系傳系

法正系系系系系系系系系系系

一 右の系系傳系の系系傳系

の系系傳系の系系傳系

後山正平

右の系系傳系の系系傳系

の系系傳系の系系傳系

一 左の系系傳系の系系傳系

清江先生手札

他處公一其家書以月日為記

法師尼

月了之法

吾友蘇州吳門吳大造先生之書  
清江先生書之書之書之書之書  
書之書之書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書

他處公一其家書以月日為記

清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書

法師尼

吾友蘇州吳門吳大造先生之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書  
清江先生書之書之書之書之書

清江先生

清江先生

清江先生

法師尼

月了之法



長安府

一柳 芳吉

藏神 深刀

吾後應酬名も一柳

津屋の事も一柳

只百廿二枚文紙に書ける

一柳

吾後有因

一方の書院之間に描きし日

一箇の如く也中

長門

長門

吾後應酬名も一柳

津屋の事も一柳

只百廿二枚文紙に書ける

一柳

長安府

今日名も一柳

長安府

長安府

右之向、業沙日書、下用、此乃、也、

各及、善、則、也、也、

也、也、也、也、也、也、也、也、

位、也、也、

一、所、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

一、体、也、也、

一、口、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

一、日、人、也、也、

也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、

一、也、也、也、也、也、也、

右元

山中書  
兼

右書中可取事也○及月部後  
火部右部  
古部集了活  
一也

但事亦不為別事也

右部 右部

部 部

右部 右部  
右部 右部

大六日

休日

休日 休日  
休日 休日

問中 問中

廿七日

一 例刊生住

志古堂云云板井

一 志古堂云云板井

一 志古堂云云板井

多田物元

一 日比地云云板井

今澤家也

一 志古堂云云板井

一 志古堂云云板井

間中今也

一 志古堂云云板井

一 志古堂云云板井

板井良然

一 志古堂云云板井

志古堂

心知和吉

一 志古堂云云板井

一 志古堂云云板井

一 志古堂云云板井

但此後志古堂云云板井

志古堂

宝篋寺

改信 四ノ丸

善法女未成少元結言後世當以元少火  
如少後後元少并如少後後世復未成不意合  
其後以結言後世當以元少火

二ノ丸

為新二也

大八日

一 休日

海大元結言後世當以元少火

信者大元少  
書岡右伴

一 山家集

身和以村

大元 改信

二ノ丸 文書

大元結言後世當以元少火  
海大元結言後世當以元少火  
元少并如少後後世復未成不意合

一 山家集  
元少并如少後後世復未成不意合

元少并如少後後世復未成不意合  
元少并如少後後世復未成不意合  
元少并如少後後世復未成不意合

一 目録  
中世影本

一 〇  
此書は、  
中世影本の

一 〇  
七  
中世影本の

一 〇  
七  
中世影本の

大月村

此書は、  
大月村に  
あり、  
中世影本の

一 〇  
七  
中世影本の

此書は、  
中世影本の

此書は、  
中世影本の

一 〇  
七  
中世影本の

一 志府・向志・安部・白糸・新井・山田・安部  
中野五教一也

一 山田五教一也  
(山田五教一也)

一 山田五教一也  
(山田五教一也)

一 山田五教一也  
(山田五教一也)

一 山田五教一也  
(山田五教一也)

一 山田五教一也  
(山田五教一也)

一 山田五教一也  
(山田五教一也)

志府五教一也

志府五教一也

志府五教一也

志府五教一也

志府五教一也

志府五教一也

志府五教一也

初後お後了事

右日行

休おあのみ  
たひり

日列休位お後相法今之森  
此後通成之暇おあのみ

前二日

三二日

一  
左  
右  
下  
作  
日  
中  
間

山  
中  
の  
行

山  
中  
の  
行  
月  
夜  
の  
行

九

小林三三

佐藤周吉

岩虫記

道園年表

河合与市

西川久松

小川流雲

古後求見

荒木物次郎

女屋重吉

岩中一馬

新井十斗

徳吉治

杉三三

山辺人

佐土目

佐土

西村

香居





身大分 沖舟丸に接連して  
位出及今且多事而一日中

二八

日三回多島外

大目付に

身大分 沖舟丸に接連して

桂姫君様へ

沖舟丸方より引接つて  
了

二八

一 沖舟丸より引接つて今日

高友 沖舟丸に接連して

沖舟丸に接連して

沖舟丸に接連して

高友 沖舟丸に接連して

但信忠 高友 沖舟丸に接連して

右より

但信忠 高友 沖舟丸に接連して

松平海兵衛  
申度次第

川口松平  
申度次第

三 信利  
三 信房  
申度次第

右の事

一、少政の旨を中絶し、其の事

此の如く是れ其の事

名実の相違

西澤林破  
信口河江

山前

山前

山前

山前

山前  
山前  
山前

廿九日

一、休日

二、休日

休日の旨を中絶し、其の事

休日

休日

一、休日

春先院

清江先生書

仙石有書

右今稱 清江先生勅

右今稱

國語書

右今稱 仙石有書勅

右今稱

仙石有書

右今稱 仙石有書勅

仙石有書勅

仙石有書勅

仙石有書勅

右今稱 仙石有書勅

仙石有書勅

仙石有書勅

仙石有書勅

仙石有書勅

本也 敬修市 中流

云 秋 惟 留 多 敬 修 志

以 不 留 留 ( 候 候 候 候 候 候 )

候 候 候 候 候 候 候 候

候 候 候

候 候 候 候 候 候 候

留 入 候 候

田 候 候 候

田 候 候 候

云 云

候 候 候

候 候 候

川 候 候 候

候 候 候

候 候 候

田 候 候 候

候 候 候

候 候 候

出石藩

御用部屋日記

弘化

二年

三月

出石町公民館蔵

弘化二乙巳年

御用  
日記

仙石家蔵

三月小

洪年壽  
牛海廣人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人  
山陰人

火清

皇心以海

仙石右馬助  
伴正實  
國部長官  
加友正實  
下河内正實  
高田正實  
國部正實  
河内正實  
松井正實  
松本正實  
高田正實  
田中正實  
谷中正實

皇心以海  
加友正實

皇心以海  
加友正實

一 例列左

一 清江浦地方在清江府之南者實上

一 此等地方之實

中山縣人

一 今雖 清江見題 是為別多之實

一 今身年 清江見題 是為別多之實

一 今身年 清江見題 是為別多之實

一 今身年 清江見題 是為別多之實

相與

一 所與之

一 今身年 清江見題 是為別多之實

一 今身年 清江見題 是為別多之實

一 今身年 清江見題 是為別多之實

一 今身年 清江見題 是為別多之實

清江府之南者實上

此等地方之實

中山縣人

中山縣人

中山縣人



一 友と通じたる者

三 友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

一 友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

友と通じたる者

山崎三郎  
斎藤三郎

小川君  
斎藤三郎

小川君  
斎藤三郎

小川君

山崎三郎  
斎藤三郎

村田三郎

中村三郎

折川三郎

一頁

五友集

川原

右 清君台為妙心

清免美表清君台為妙心  
清免美表清君台為妙心

清免美表清君台為妙心  
清免美表清君台為妙心

村田三郎  
清免美表清君台為妙心

清免美表清君台為妙心  
清免美表清君台為妙心

一頁

清免美表清君台為妙心

清免美表清君台為妙心

清免美表清君台為妙心

家信

大山中子月信... 此信...

一 寶月

一 月... 念...

毒公

一 月... 念...

一 月... 念...

玉友臨

一 月... 念...

一 月... 念...

寶月

一 月... 念...

一 月... 念...

一 月... 念...

一 月... 念...

一 月... 念...

一 月... 念...

一 月... 念...

一 月... 念...

居る所より

二日

一日

三日

二 上より下へ向ふ

一 清い水は上より下へ向ふ

上より下へ

折る

水質

質

日毎

在りて向ふ上より下へ

一 水質は上より下へ向ふ

一 水質は上より下へ向ふ

上より下へ向ふ

上より下へ向ふ

上より下へ向ふ

一 願くは在りては我々の心を

此れ何れぞ

一 大書院の集書は其の多し其の速し一日に其の書

と字充てられたる書は其の上は其の速し其の多し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

陽気

一 大書院の集書は其の多し其の速し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

此れ何れぞ其の速し其の多し其の上は其の速し其の多し

一 大書院の集書は其の多し其の速し

右の通りに入らぬこと

三月三日

仙臺本馬場

宣旨

秋本より國書にて申上り候事

但前所届の事は御座り候事

一 今白の事申上り候事

御座り

宣旨の事候事

宣旨の事候事

宣旨

宣旨の事候事

宣旨の事候事

宣旨の事候事

宣旨の事候事

宣旨の事候事

於後所及感

田原中道

少後人大

後事也

一 少年時教之 必是受人所教 必是受人所教

後事也 少年時教之 必是受人所教

一 少年時

少年時

少年時 少年時 少年時

少年時

一 少年時 少年時 少年時 少年時 少年時

少年時 少年時 少年時 少年時 少年時

少年時 少年時 少年時 少年時 少年時

少年時

少年時

少年時

秋以病中... 宜有... 友...

一 友也...

五 枯... 清... 伊...

五 枯... 大...

大... 友...

國... 友...

本... 友...

高... 友...

麻... 友...

平... 友...

由... 友...

谷... 友...

平... 友...

山... 友...

秋... 友...

弱... 友...

了... 友...

偏... 友...

王... 友...



青田

青田

山代

大田

平山

既梅し所云云又中おれは又  
初由は云々無事ありしは  
喜ばれぬと云々人云々云々  
既し云々云々云々

大田

山

休日

化力云々云々云々云々云々云々

伝来

伝来

伝来

伝来

山代

山代

山代

山代  
山代  
山代

山代

一 大塚 謙

山崎 謙  
大塚 謙

大塚 謙

一 大塚 謙

山崎 謙

中山 謙

山崎 謙

大塚 謙

大塚 謙

山崎 謙

大塚 謙

大塚 謙

大塚 謙  
山崎 謙

一 大塚 謙

大塚 謙  
山崎 謙

大塚 謙

大塚 謙

一 大塚 謙

信

一 休日

一 友へ宛て 清く静かに心を遣ふ事

五言 友へ宛て 清く静かに心を遣ふ事

何れも心は  
静かに遣ふ事

五言 友へ宛て 清く静かに心を遣ふ事

五言

山系亦有為  
石田亦有為  
是皆心遣事  
海内亦多矣  
此在吾心矣

谷村馬也

一 賞

横尾宗三公相様御事  
三行 賞

少善信書

七日

一 休日

一 友へ宛て 清く静かに心を遣ふ事

中書院  
小保書道

寶全  
山人

田下  
山人

休若  
山人

心齋  
山人

山陰  
山人

長谷川  
山人  
作公

一 大書院之圖  
方中並其目為了圖

山人  
作

山陰  
山人  
作

長谷川  
山人

思公之子思公之子

一 身之也 此 札 實 必 心 一 也

二十五年

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

二十五年

守 德 德 德

守 德 德 德

守 德 德 德

二十五年

守 德 德 德

河田仁彦  
高田好助

正徳順正

後年平多助中一考之誠意之在感心成  
正 昌之層之流海乃少言也  
實係之通在也

吉原人  
國部重吉

中ノ公後之林格之在河田仁彦  
昌之層之流海

吉原人  
石川信若

各所原林也至中者  
石川信若

○ 石川信若  
高田好助

石川信若

麻見好助

石川信若  
石川信若

石川信若  
石川信若

石川信若  
石川信若

石川信若  
井上信若

夜去林樾不為成  
夜去林樾不為成  
思君夜半下仙舟  
思君夜半下仙舟

阿丹仙舟

山陰度  
阿丹仙舟

夜去林樾

了刺箋  
思君夜半  
長風一  
阿丹仙舟

阿丹仙舟

夜去林樾不為成

思君夜半下仙舟

阿丹仙舟

夜去林樾不為成

思君夜半下仙舟

阿丹仙舟

阿丹仙舟

夜去林樾不為成

作名

田中  
松平  
山本  
山本

田中

松平

山本

左田

岡部

後方

山本

谷田

山本

一 山本

山本

一 山本

山本

山本

山本

一 山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本



石海寺之堂名曰觀音堂其後

# 一 宗廟廟道

宗廟廟道之所在北地以古曰  
宗廟廟道之所在北地以古曰  
宗廟廟道之所在北地以古曰

宗廟廟道

此乃宗廟廟道之所在北地以古曰

# 一 宗廟廟道

此乃宗廟廟道之所在北地以古曰

宗廟廟道

# 一 宗廟廟道

此乃宗廟廟道之所在北地以古曰

此乃宗廟廟道之所在北地以古曰

# 一 宗廟廟道

此乃宗廟廟道之所在北地以古曰

此乃宗廟廟道之所在北地以古曰

有子之民必以心之誠而後能信之也  
十有九年及九年

一 實地

實地之在在實地也  
實地之在在實地也  
實地之在在實地也

王及德以

一 田賦

田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也

田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也

田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也

田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也

田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也  
田賦之在在實地也

一 實地

實地之在在實地也  
實地之在在實地也

實地之在在實地也  
實地之在在實地也

元中市物  
王及德以

一 口部 子

子部 子

三 子 子

り 子 子

子部 子

三 子 子

り 子 子

子部 子

子部 子

子部 子

一 子部 子

子部 子

子部 子

子部 子

子部 子

子部 子

子部 子

子部 子

子部 子

在清江与相女道系初月本之色也其年所司色也其年所司

一 宋应修之

少科为定也 中之色也 亦司是使 亦修也

亦有其 亦所 亦之 亦修也 亦之 亦修也

以 亦修也 亦修也 亦修也 亦修也

亦修也 亦修也

少科修之也

八口

一 休日

一 少修月修之

山之年一也 亦修也 亦修也

相修也 亦修也

少修月修之

九口

一 休日

一 少修月修之

善修也 亦修也 亦修也

亦修也

善修也

一 善修也

此道口梅かたきなり

山尾信清

一 古社奉行と

正高

右九折村梅かたきなりと云ふは其の事なり  
此の事も亦一古社奉行の事なりと云ふ事も在り

一 江戸表江戶上野区別所

所原喜 清具原喜所成徳居其元徳

室町奉行

一 清具原喜は此の事なりと云ふ事なり  
清具原喜は此の事なりと云ふ事なり

一 所原喜は此の事なりと云ふ事なり  
所原喜は此の事なりと云ふ事なり

一 大般喜は此の事なりと云ふ事なり  
大般喜は此の事なりと云ふ事なり

一 所原喜は此の事なりと云ふ事なり  
所原喜は此の事なりと云ふ事なり

一 所原喜は此の事なりと云ふ事なり  
所原喜は此の事なりと云ふ事なり

此の事なりと云ふ事なり  
此の事なりと云ふ事なり

十日

一 休日

之矣其中心之憂也父公其為及初也  
其後必其相與中不為不難也  
先其必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也

子山年為

一 少部年為

其在位之時必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也

十一日

其在位之時必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也  
依田國以

一 古社年為

古社年為

其在位之時必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也  
其後必其相與中不為不難也

一 古社年為

河津山は林のふもと  
にありて

山陰道

十二日

一 例別表

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

一 大正十一年の相模支店

大正十一年の相模支店

係以候下... 下... 下...

一 右... 係... 係... 係...

一 右... 係... 係... 係... 係...

一 右... 係... 係... 係...

一 右... 係... 係... 係... 係...

一

右... 係... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...

右... 係... 係... 係...



一 中野正行

乃由少康名而得正之名也

一 松本十太

山崎

一 日守十太

山崎

一 日守十太

山崎

右并延命才也

三十二年四月廿八日  
少坂人

右分

清意

清意

清意

清意

清意

山崎

山崎

山崎

山崎

一 江長

一 守

守

守

十二日

休日

山形大学病院

佐石有島

海新

弘道館

日人

一所飛行

遊下  
私免

山形  
佐石  
佐石  
佐石  
佐石

一所飛行

山形大学病院  
山形大学病院

山形大学病院  
山形大学病院

山形大学病院

山形大学病院

上は春の文前より及ぶ迄  
五所分也

信長集

一 四月

日北迄は林の公の書也

信長集

十

休日

少多不元のりゆ  
つらたの結 門代赤の結

不問集

内利し後より山4  
口付赤の結

不問集

右の行 赤の結  
山付赤

不問集

他初めは元知の書なり

一 崇徳の赤の書なり  
赤の書なり  
赤の書なり  
赤の書なり

十

一 佛列左

一 清見年修方 嵩嶺北系厚修方 修方

一 方之通 修方北系厚修方

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

修方北系

化古 竹下 山書 舟中 舟中 舟中  
清光 藤原 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中

一 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

舟中

此道亦有不白之人  
久留亦何如  
下月亦有不白之人

山傳書

浙地下道行以界定  
多事且亦受人之  
少亦在何處

山傳書

他年必不在此  
山傳書  
計之及至  
亦不在此

右月即  
何處亦不在此

山傳書

化  
下傳書

山傳書

山傳書

山傳書  
六十年以上

山傳書  
六十年以上

右月即  
何處亦不在此

其後有身方以力之為中一在東業上為一在東業  
 農心於此以兩之於村方之入之進上而進者以  
 清心悲想之進也 以有身之於其後之者以  
 此之身之於其後之者以  
 一 亦在東業上之進也 亦在東業上之進也  
 前二破生之身之進也

白首下  
 身方之身方

田原也

化以信世身方為其後生之身方

身方之身方

進之身方之身方  
 身方之身方

身方之身方

身方之身方

他身方之身方  
 身方之身方

身方之身方  
 身方之身方

法地所 身方所  
 谷山 身方所

右為身方所物身方身方身方身方身方身方身方身方  
 身方身方身方身方身方身方身方身方身方身方身方身方

一 亦在夜中過行...  
 山... 亦在夜中過行...  
 亦在夜中過行...  
 亦在夜中過行...  
 亦在夜中過行...

一 亦在夜中過行

亦在夜中過行... 亦在夜中過行...

亦在夜中過行... 亦在夜中過行...  
 亦在夜中過行... 亦在夜中過行...  
 亦在夜中過行... 亦在夜中過行...

一 亦在夜中過行



唯此以師有之節  
去多如以修為之場  
正心以正名

心修為政字物及

禮之入心  
正心以正名

一乃進為相所為及實家所友

火快

其為

金平何也  
國治如也

其為

加者以也  
不山平也

唯此以師有之節

其為

河海也  
公之入也

其為

丹平也  
正心以正名

一修為也心由人正也望人修為也  
其為也心由人正也望人修為也

一 日記の行記

近年の行記は、  
病氣の癒えを、  
少くは、  
勤勞の功を、  
勤勞の功を、  
勤勞の功を、

志願書

五七

一 五粒の赤い丸、  
十七日の日記、  
十七日の日記、

一 日記の行記

日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、

一 日記の行記

日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、

日記の行記

日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、

十六日

一 日記

日記の行記、  
日記の行記、  
日記の行記、

清月向家麻主の  
表より申すに所見は  
一七〇

山本春馬

後山秋の重厚なる意同然可

此等事類は及ぶ所中一掃尾流に於て  
先志既成る事皆違ふ所也  
可なりとの事一々不し出さる

後山秋の重

此等事類は及ぶ所中一掃尾流に於て

此母及毎母多則る事少川海等

中島宗元

事一物より不の事なる事  
此等事類は及ぶ所中一掃尾流に於て

此母及毎母多則る事少川海等

友作富

少抄古之なる事一掃尾流に於て  
勿論貴人出さる  
此等事類は及ぶ所中一掃尾流に於て

十七日

位別上仕

此等事類は及ぶ所中一掃尾流に於て

後山秋の重

友之類  
清心為其類也

一 守其正

書及皇方松平仍舊仍以此中  
此水也之所也亦尚存以此其意也  
道為其也也

井上友之

在道之類也其類也其類也其類也

一 友之類也其類也

仙書也其類也其類也其類也其類也

其類也其類也其類也

大正

九年

其類也其類也其類也

九年

九年

其類也其類也其類也其類也其類也

其類也其類也其類也

九年

九年

其類也其類也其類也

一 友之類也其類也其類也其類也其類也

其類也其類也其類也其類也其類也其類也

其類也其類也其類也

其類也其類也其類也

天竺の地味  
阿彌陀仏

天竺の地味

天竺の地味

天竺の地味

一 万葉集

天竺の地味  
阿彌陀仏  
天竺の地味  
阿彌陀仏  
天竺の地味  
阿彌陀仏  
天竺の地味  
阿彌陀仏

六番

阿彌陀仏  
天竺の地味  
阿彌陀仏  
天竺の地味

六番

阿彌陀仏  
天竺の地味

天竺の地味  
阿彌陀仏

阿彌陀仏  
天竺の地味  
阿彌陀仏  
天竺の地味

天竺の地味

阿彌陀仏  
天竺の地味

天竺の地味

阿彌陀仏  
天竺の地味

三才

三才

三才

三才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

一才

し感ふべき事あり

此中何れも又人の道に在り

古く申す所の如く高しきものなる

一 下り

如新

一 下り

一 此中何れも又人の道に在り

古く申す所の如く高しきものなる

一 下り

此中何れも又人の道に在り

古く申す所の如く高しきものなる

一 下り

一 下り

一 下り

古く申す所の如く高しきものなる

一 下り

一 下り

此中何れも又人の道に在り

一 下り

如新

古く申す所の如く高しきものなる

一 下り

如新

一 下り

一 下り

一 竹脚の所を  
山名表に記す

大八人

一 山名表に記す  
山名表に記す

久保名表

山名表に記す  
山名表に記す

一 山名表

山名表に記す  
山名表に記す

山名表

一 山名表

山名表に記す  
山名表に記す

山名表

山名表に記す  
山名表に記す

山名表

山名表に記す  
山名表に記す



十二日原抄卷五

十八日

一 休日

一 寺社奉行と

社内御子輩等々人衆連年御  
大徳の御徳を御座り候御座り

金剛院

相承御子大御方御奉行候御座り  
御座り候御座り候御座り候御座り

此後御子御座り候御座り候御座り候御座り

一 高尾松屋御奉行と高尾松屋御奉行と高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と

高尾松屋御奉行と



一 右ノ在リ少頃似下少候ニテ其ノ旨ト申上ルノ事トモ  
一 吹田忠成公ノ下米陽下ノ所為所聞ヨリ其旨トモ  
所下ノ名ノ一ニシテ小海揚目之任トモト申上ルノ事  
此旨トモ之旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ  
下ノ事トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ

何れ也

右ノ旨トモ之旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ  
如智成之也

二 其旨申上ルノ事トモ 海島 津島

三 其旨

後ノ旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ  
其旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ  
其旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ  
其旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ

三 其旨 其旨

一 其旨

其旨トモ申上ルノ事トモ申上ルノ事トモ  
其旨トモ

一 家藏書

因於公院上下山各處多有相名錄等  
二 如於山各處多有相名錄等

一 山名錄

因於山各處多有相名錄等

一 所藏書

因於山各處多有相名錄等

十九日

二 錄

一 乃通定底在正山各處

清利山各處多有相名錄等  
山各處

二 山名錄

山各處多有相名錄等

山各處

智見各處  
法村各處  
悟因各處  
山各處

正堂の御用掛に在りては  
石巻國の御用掛に在りては  
清原公経の御用掛に在りては

昔

一 仙州公仕

古より仙州公仕の御用掛に在りては  
正堂の御用掛に在りては  
石巻國の御用掛に在りては  
清原公経の御用掛に在りては

高上公経

一 石巻公仕

石巻公仕の御用掛に在りては  
正堂の御用掛に在りては

正堂公経

石巻公仕

石巻公経

石巻公仕の御用掛に在りては  
正堂の御用掛に在りては

石巻公経

石巻公仕の御用掛に在りては  
正堂の御用掛に在りては

石巻公経

石巻公仕の御用掛に在りては  
正堂の御用掛に在りては

石巻公経

一 有通比月分の友

大友の友  
大友の友

山崎の友  
加藤の友

大友の友  
大友の友

山崎の友

大友の友  
大友の友

山崎の友

一 有通比月分の友

大友の友  
大友の友

山崎の友

一 有通比月分の友

光緒年... 清... 大元... 仕... 大元... 大元...

山崎の友  
加藤の友

有通比月分の友  
大友の友

山崎の友

及 有通比月分の友  
大友の友

山崎の友

存身如地之在田  
解原之 竹石一

笑人

存身如地之在田

解原之 竹石一

笑人

存身如地之在田

解原之 竹石一

存身如地之在田  
解原之 竹石一

笑人

存身如地之在田

存身如地之在田  
解原之 竹石一

存身如地之在田  
解原之 竹石一

一 乃道 作台於野山

日月の中

とる

一 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道

乃道

一 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道

乃道 乃道 乃道

乃道

乃道 乃道

乃道

乃道 乃道 乃道

乃道

乃道

乃道

乃道



此書所記  
諸事之始末  
自為傳記之始

田

正日

一 休日

一 休日

此書乃在彼地之人  
所記其地之  
清風乃為其地之  
人所共知也

二 友德氏

正日

一 休日

此書乃在彼地之人  
所記其地之  
清風乃為其地之  
人所共知也

三 友德氏

一 休日

此書乃在彼地之人  
所記其地之  
清風乃為其地之  
人所共知也

正日

一 休

此道能為序也

仙居

一 山

久矣侯也及國法也

仙居

一 山

古蹟也

古蹟

古蹟

一 例

古蹟也

古蹟

古蹟也

古蹟也

古蹟

古蹟也

古蹟

山道行記  
三海行記

山道行記

石 山道行記

山道行記  
山中行記

山道行記  
山中行記

一 山道行記

山道行記  
山中行記

山道行記

一 山道行記

山道行記

山道行記  
山中行記

山道行記

一 山道行記

山道行記

山道行記

山道行記

大例に于て道程取原と云ふは廣きことなるに  
似たりしに其の道程取原の事  
其の道程取原の事

古事記

一 休日

少中更下武臣の事

後述の事

多量に記す事

古事記

一 名古事記の事

神代卷の事

火程の事

其の事

其の事

其の事

一 古事記の事

一 古事記の事

啟者本行...

...

...

...

一 育...

...

...

...

一 休...

...

...

一 小...

...

...

一 山部まゆみ

山部まゆみ  
まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

一 山部まゆみ

山部まゆみ  
まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

一 山部まゆみ

一 山部まゆみ

山部まゆみ  
まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

山部まゆみ  
まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

山部まゆみ  
まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ  
まゆみまゆみ

此乃...  
...  
...

...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

三病由者  
又小舟

小舟由者  
七空川原春

一 望園七在伊奈中代間(家)

原原の 内書事多原知海年位と事多原事多  
十及物多事多

一 望園事月之

お(通)お願之通也(お)お願之  
松小原事多 望園事多 望園事多

望園事多  
望園事多  
望園事多  
望園事多  
望園事多

一 望園事月之

父事多望園事多望園事多望園事多  
望園事多望園事多望園事多望園事多  
望園事多望園事多望園事多望園事多  
望園事多望園事多望園事多望園事多

父事多望園事多望園事多望園事多  
望園事多望園事多望園事多望園事多  
望園事多望園事多望園事多望園事多



一 實録

此物は... 二... 三...

又田代

右の... 左の...

此物は...

小澤

此物は...

此物は...

下

此物は...

小澤

此物は...

此物は...

此物は...

小澤

此物は...

此物は...

御家人に奉書部大補次以事年松平  
徳茂書道に事奉りて是れ御家人の御書  
に在りて不世に傳ふべき御書  
に事奉りて不世に傳ふべき御書

松田左衛門

一 在田御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書

少将人

少将人 大進に事奉りて不世に傳ふべき御書

御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書  
一月に御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書  
元治二年十一月に御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書

二日

升上御家人

大進書御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書  
御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書

御家人

御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書  
御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書

御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書  
御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書

大進書御家人に事奉りて不世に傳ふべき御書

十一日

一 休

此乃... (faded vertical text)

打... (faded vertical text)

此乃... (faded vertical text)

打... (faded vertical text)

此乃... (faded vertical text)

一 月

此乃... (faded vertical text)

此乃... (faded vertical text)

一 月

此乃... (faded vertical text)

此乃... (faded vertical text)

一 月

一 月



唐梅在  
清見山と見し

他古より今も其の姿は変わらぬ

岡部信介

一 少和月

昔は清見の山と見し  
今も其の姿は変わらぬ

梅松在史

他古より今も其の姿は変わらぬ

一 竹

竹は昔より今も其の姿は変わらぬ  
竹は昔より今も其の姿は変わらぬ

高松在史

竹は昔より今も其の姿は変わらぬ  
竹は昔より今も其の姿は変わらぬ

高松在史

一 竹

竹は昔より今も其の姿は変わらぬ  
竹は昔より今も其の姿は変わらぬ

高松在史

出石藩

御用部屋日記

弘化

二年

四月

出石町公民館蔵

弘化二年己巳年

沖浦奇

日記

早川庄書

四月大

四月中

沙年分  
山小姓  
山小姓  
山小姓  
山小姓  
山小姓  
山小姓  
山小姓  
山小姓

同日

早川  
小出  
同知  
高橋  
波多  
高橋  
高橋  
高橋  
高橋  
高橋  
高橋

火消

噴喉口痛之場

加茂

西山

河野

淺村

四月廿一日 收

一 例刻出仕

一 冲定身极方上 嵩安松系 海古号 志中 元

一 月沙用部 唐古 志中

一 嵩安 志中

一 冲管信 志中

今相 冲做 志中 志中 志中 志中

一 宗门 志中

次月 冲 志中 人 冲 嵩 志中 志中 志中 志中 志中

一 冲 志中

冲 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

此 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

宗行 志中

冲 志中

又 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

志中 志中

一 冲 志中

自 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

志中 志中

志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

志中 志中

志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中 志中

长 志中 志中

一 冲 志中



男の子は三村田平と云ふ二男は公家  
志已十一歳の子は幼少の體態に在り  
佐藤子結成の儀は前月未だ有らば  
別人の子と教ふるも、然るに其の  
七歳の子は其の言ふ如く、法を修むる事

田中平秀

一 山崎子外連

角力が能くお所い有今日七歳入仕度也

二 日 是

一 体 白

一 山崎子外連

山崎子外連の事  
山崎子外連の事

山崎子外連  
山崎子外連

一 山崎子外連

山崎子外連の事  
山崎子外連の事

山崎子外連  
山崎子外連

一 山崎子外連

山崎子外連の事  
山崎子外連の事

山崎子外連  
山崎子外連

一 山崎子外連

右ノ様久御付御り此方奇抜行  
其ノ様久御付御り此方奇抜行  
其ノ様久御付御り此方奇抜行

山崎子外連  
山崎子外連

三日早 小五南丸

一 休日

江戸後港新三舟出立  
手合義勇会出立

仙石右馬助

以 江戸後港新三舟出立  
形立名目出立

竹村徳兵衛  
市村徳兵衛

同方中多兵衛助者樽次郎中村原

物田吉市郎

徳兵衛中多兵衛助者樽次郎中村原  
形立以 江戸後港新三舟出立

江戸後港新三舟出立

木岡源次郎

江戸後港新三舟出立  
但 江戸後港新三舟出立

一 江戸後港新三舟出立

江戸後港新三舟出立  
但 江戸後港新三舟出立

吉田徳兵衛  
市村徳兵衛

江戸後港新三舟出立  
但 江戸後港新三舟出立

市村徳兵衛  
市村徳兵衛

一 江戸後港新三舟出立

江戸後港新三舟出立  
月番おあき

市村徳兵衛  
市村徳兵衛

江戸後港新三舟出立  
江戸後港新三舟出立

市村徳兵衛  
市村徳兵衛

一 江戸後港新三舟出立

江戸後港新三舟出立

市村徳兵衛  
市村徳兵衛

一 江戸後港新三舟出立

江戸後港新三舟出立

交泰院梅沙志六三付思寺

大皇院梅沙志月三付思寺

天真院梅沙志日三付思寺

信卷院梅沙志月三付思寺

貞武院梅沙志月三付思寺

右今細古氣口修中進

美經口修中進

高口修中進

中進

高口修中進

中進

用口修中進

中進

興代音

仙石右馬助

金次半次

波多助次

杉原源次

心月人進

右月口中進

田中平次

長岡右仲

右月口中進

右月口中進

右月口中進

右月口中進

所用人

右月口中進

右月口中進

破箱口石田氏

所用人

中野人  
杉本徳太郎

右以 河原田同志の側面より其の及ぶ日頃 奮出主は月計月

部會に於ては終中並に活用者強し

但活明に右伸活然し内應有力有り別任不致候

中野人等

田中 幸彦

右同以 但右同以

一 山小姓の進

山小姓の進  
山小姓の進  
山小姓の進

依田 義典

池田 中太郎

中野 徳太郎

一 山小姓の進

山小姓の進  
山小姓の進  
山小姓の進

山小姓の進  
山小姓の進  
山小姓の進

一 右に付乃 進山小姓の進

右に付乃 進山小姓の進  
右に付乃 進山小姓の進  
右に付乃 進山小姓の進

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

四月四日

小川彦彦

四月廿日

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

左田忠彦

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

四月廿日

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

加藤武部

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

佐田信彦

四月廿日

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

山口信彦

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

右ノ通シテ其ノ事ハ各々ノ事ナリトシ

長岡石彦

六日 月夜

一 休日

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

河橋武生

右白紙四角人上十枚

酒井左四郎

一 右白紙四角人上物所出月日之文字亦成其後中

一 中紙五枚

九ノ寸

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

一 右白紙四分所出月日之文字亦成其後中

河橋武生

右白紙四分所出月日之文字亦成其後中

酒井左四郎

酒井左四郎

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

酒井左四郎

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

所用之紙皆為今午所書者也  
其紙之厚薄與形亦甚相宜也

右：自秋秋光送入吾知吾知吾知吾知吾知吾知

河洛武德中

二日同耕

二日同夕

二日同耕

方

山地勘定

王肩

年

谷中一子

喜里

解之各病

河开春中耕

喜里

子依德在

日

竹村德之

同

宗成尤在

喜

中德德在

信

矢德不定

二日同夕

二日同耕

右同夕

二日同夕

即夕

地系

地

田中德在

右：吾知德气二及吾知吾知

一：自通少人吾知吾知吾知吾知吾知吾知

河洛武德中

用每

水德德在

通海

右德德在

但山同夕吾知吾知

一：自通少人吾知吾知吾知吾知吾知吾知

河洛武德中

右德德在

右德德在

右德德在

中務注名

差印本

日八官

乙公印

日人

始善人

江戸書引使天正寺月成寺好丹法為持名有之  
右仲以名教史公在申之為法為三

六日

休日

江戸書引使天正寺月成寺好丹法為持名有之

但此書也亦市井所不也

長是右仲

松原清久

以月人連

右月人

何能以書和不及其後分  
謂六時也此月人志中後

右月人乃乃月人志中後

田中一

麻尾冬之助

矢野水尾

以月人連

江戸書引使天正寺月成寺好丹法為持名有之  
但此書也亦市井所不也

何能以書和不及其後分

右月人乃乃月人志中後  
大正通中後

日八官

乙公印

日人

始善人

長是右仲

松原清久

田中一

麻尾冬之助

矢野水尾



一 何利生

何利生和不及其後皆生也

一 口田人

口田人とは

口田人とは

一 布之通 仁村百秋は

仁村百秋

仁村百秋は

仁村百秋は

仁村百秋は

仁村百秋は

一 舟は

舟は

一 舟は

舟は

舟は

舟は

舟は

舟は

舟は

舟は

舟は

山地

山地

山地

池田

池田

池田

池田

池田

池田

池田

池田

一 山名

昔中角力具以仕多和國在修城仕有之其多行中  
十二月清負之より下之座極人極多此之証及之全  
角力証九の二日具の証九の一日角力証也具の証九の一日  
極ノ通ノ大文字其後其後中角力証九の一日具の証九の一日  
汗汗家多其の証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

増生此証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
此物証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其用証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

其証九の一日

一 山名

此証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

其証九の一日

一 山名

其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

其証九の一日

一 山名

其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

其証九の一日

一 山名

其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

其証九の一日

一 山名

其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日  
其証九の一日具の証九の一日具の証九の一日

彼方勸定

去日... 此亦... 乃... 他... 十...

九日 收信

休日

四月廿五

彼方勸定

去日... 乃...

梅井...

又... 乃... 但...

...

去日... 乃...

十日 收信

休日

十一日 收信

休日... 乃...

...

去日... 乃... 乃... 乃...

...

乃... 乃... 乃...

一 出の... 者先... 企... 司... 関... 係... 者... 自... 今... 日... 迄...  
 一 出の... 者先... 企... 司... 関... 係... 者... 自... 今... 日... 迄...  
 一 出の... 者先... 企... 司... 関... 係... 者... 自... 今... 日... 迄...  
 一 出の... 者先... 企... 司... 関... 係... 者... 自... 今... 日... 迄...

十二日 快晴

一 俗刺出仕

主人... 俗刺出仕... 母... 弟... 兄... 弟... 弟... 弟... 弟... 弟...

一 斥通話

斥通話... 斥通話... 斥通話...

斥通話... 斥通話... 斥通話...

一 乃 通 流 河 岸 中 流

河 岸 中 流 河 岸 中 流 河 岸 中 流  
河 岸 中 流 河 岸 中 流 河 岸 中 流

不 利 之 生

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

本 同 德 寺 住 持  
古 田 志 公 信

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

竹 村 德 志

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

同 德 寺 住 持

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

改 建 池 堂

一 乃 通 流 河 岸 中 流

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

倉 田 德 志

一 乃 通 流 河 岸 中 流

竹 村 德 志

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

竹 村 德 志

竹 村 德 志

昔 年 十 月 十 日 在 中 山 山 麓 建 寺  
山 麓 建 寺 山 麓 建 寺

竹 村 德 志

右 記 述 出 入 一 件 自 久 矣 後 長 古 流 極 其 壯 麗 亦 覺 人 之 入

下 條 亦 甚 壯 麗 亦 覺 人 之 入 下 條 亦 甚 壯 麗 亦 覺 人 之 入

一 乃 通 流 河 岸 中 流

一 乃 通 流 河 岸 中 流

一 乃 通 流 河 岸 中 流

七月廿日 收帳一

一 休日

一 山形寺行進

四十日吉文初普修所  
年寄延由方入分紙紙多也

一 本の手紙を紙紙の紙中進

法教寺  
山形寺の紙中進

一 法現寺宗式の紙中進

一 山形人進

山形寺の紙中進  
山形寺の紙中進  
山形寺の紙中進

山形寺の紙中進  
山形寺の紙中進

一 山形寺行進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進  
山形寺の紙中進

十四日 收帳

一 休日

一 山形寺行進

山形寺の紙中進  
山形寺の紙中進  
山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

山形寺の紙中進

十一月 收帳

例別出仕

山小姓氏

一 同日計別記帳の氏名

改野海太郎

一 十二月計別記帳の氏名

古肥嘉吉

一 同日計別記帳の氏名

右田忠吉

一 同日計別記帳の氏名

小堀源吉

一 同日計別記帳の氏名

藤平俊吉

一 同日計別記帳の氏名

山小姓氏

一 同日計別記帳の氏名

一 同日計別記帳の氏名

一 同日計別記帳の氏名

中村源太郎

一 同日計別記帳の氏名

一 同日計別記帳の氏名

中村源太郎

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

右所付新田二年貢成一段... 正月廿九日 冬方不其然...

一 山内付通

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

一 山内表正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

一 右山内書付通

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...

正月廿九日 冬方不其然...



正月十日  
法衣教書云云  
中一乃以上

二月十日

許君

一右方乃山陽宮中

節婚極結事  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

二月十二日

張新九印

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日

許君妻因共八日  
許君妻因共八日



二月廿五日  
九月十五日  
一 九月十五日  
一 九月十五日

細川能生  
直後對  
山崎之

二月廿五日  
一 九月十五日

九月十五日

九月十五日  
九月十五日  
九月十五日

九月十五日  
九月十五日

二月廿五日  
九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

一 九月十五日

九月十五日  
九月十五日  
九月十五日

一 九月十五日

二月廿五日

九月十五日

九月十五日

九月十五日

九月十五日

九月十五日

九月十五日

右 新 御 前 御 行

月十八日 新 御 前

御 行 御 前

戸田 山 藏 守

加 判 之 列

杉 平 和 泉 守

右 大 御 前 御 行

杉 平 信 重 守

大 右 衛 門 代

右 御 行

月廿日

新 御 前

大 御 前

古 坂 丹 后 守

甲 府 前 御 前

御 前 御 前

御 前 御 前

御 前 御 前

御 前 御 前

御 前 御 前

御 前 御 前

右 御 前 御 行

十六日 御 行

一 御 前

一 御 前

御 前 御 前 御 前 御 前 御 前

御 前 御 前

一 御 前

御 前 御 前 御 前 御 前 御 前

御 前 御 前

一 御 前

御 前 御 前 御 前 御 前 御 前

為二地用大... 不其利... 二... 不... 不...

池口中忠

廣休更剛

古... 中... 所...

十七日

此... 中...

例別出仕

大... 德...

許代者

取...

一... 因... 及...

如...

中國甘...

本... 月...

言...

三... 二...

取...

如... 中...

池...

三... 二...

小...

山...

五... 和...

山... 山... 山...

山... 山...

但...

十八日 性修

一 休日

海教二日  
以乃彼止如席

仙石右馬助

一 山月日進

七日迄路物候成老言然然  
生此神心今乃新吾也

山村御代

一 山月日進

岩崎若二所及山月記取城傍初  
御堂付仕老言止乃病月天候様子  
以乃六七日迄多仕老言乃老老  
以乃十日迄多利新候中候

永井主藏

但此新候了二方止山月記取城傍初

十九日 朝政

一 休日

山崎若二所及山月記取城傍初

山崎若二

山崎若二所及山月記取城傍初

山崎若二

山崎若二所及山月記取城傍初

一 山月日進

山崎若二所及山月記取城傍初  
山崎若二所及山月記取城傍初  
山崎若二所及山月記取城傍初

山崎若二

一 山月日進

山崎若二所及山月記取城傍初  
山崎若二所及山月記取城傍初

山崎若二

一 山月日進

山崎若二所及山月記取城傍初

山崎若二

山崎若二  
山崎若二  
山崎若二

本日 收帳

一 割別仕

法光院指

法光院指 御座候事

許代者

仙石石馬助

小泉御意

浪取御座候御座候事

御座候事

御座候事

一 町奉行仕

町奉行仕

九右衛門

七

御座候事

一 町奉行仕

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

一 江戸指廻御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

中興集

程叔文之述其略之曰公中其為乃其所以也

一 布之述曰帝為一柳五現上叙而為十也

世之述廣右所叙當

許國之述曰帝為一柳五現上叙而為十也

許國之述曰帝為一柳五現上叙而為十也

一 齊社之述

齊社之述

西之述

西之述曰後世之述其略之曰公中其為乃其所以也

右之述

西之述曰後世之述其略之曰公中其為乃其所以也

齊社之述曰後世之述其略之曰公中其為乃其所以也

竹村之述

一 山之述

乃之述曰此曰許房十有也

乃之述曰此曰許房十有也

出右之述中

一 山之述

乃之述曰此曰許房十有也

井上之述

乃之述曰此曰許房十有也

山之述

乃之述曰此曰許房十有也



廿一日 性略

休日

廿二日 性略  
前日年為病... 性略

金以牛虎

廿二日 性略

休日

廿三日 性略  
前日年為病... 性略

古肥古馬

廿三日 性略

休日

廿四日 性略  
前日年為病... 性略

許代者

仙石古馬

廿五日 性略  
前日年為病... 性略

海新... 性略

破野古竹

廿六日 性略  
前日年為病... 性略

金以牛虎

廿七日 性略

廿八日 性略  
前日年為病... 性略

水升古樹

一 山崎氏

又十年後... 山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

一 山崎氏

山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

山崎氏

一 山崎氏

一 山崎氏

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

山崎氏... 山崎氏... 山崎氏...

一 以用入道

友道也 仁者居十海也

并上卷 金世以入道如中  
以要物如中

信田無次

一 今七時沙月番於子刻在池光夜也  
以於金何名也月廿二日一守年云乃通在池光

河橋武吉  
名代 形誠海吉

比身如成信也 何月金如成也

河橋武吉

一 有也 何名也沙月番於子刻在池光夜也

比身如成信也 何月金如成也  
比身如成信也 何月金如成也

河橋武吉

比身如成信也 何月金如成也  
比身如成信也 何月金如成也

河橋武吉

又又日 朝之也

一 体日

一 沙島全所成りて森不能成序

一 比月如也

比身如成信也 何月金如成也

河橋武吉

比身如成信也 何月金如成也

河橋武吉

一 以用入道

比身如成信也 何月金如成也

河橋武吉

廿六日晴

一 休日

福家村及土佐郡松山町の松山町  
の町をめぐりて見ゆ

河津村

廿七日 晴

一 物別生仕

松平 忠元

右治七番忠元おとろに在りて地を是より教ふ月海席に  
物別生仕の事

海席

吉又知  
廣吉相

日村 治七  
想た馬

右治七番忠元おとろに在りて地を是より教ふ月海席に  
物別生仕の事  
事海席言はれし月村段へ是より教ふ月海席の事  
一 物別生仕の事

但田畑を賣却するに海席の事  
事海席

一 治七番忠元おとろに在りて地を是より教ふ月海席の事  
事海席  
右治七番忠元おとろに在りて地を是より教ふ月海席の事  
事海席  
治七番忠元おとろに在りて地を是より教ふ月海席の事  
事海席

一 乃通致... 乃通致...

注用... 乃通致... 出京

解... 乃通致...

因入

右... 乃通致... 乃通致...

一 乃通致...

乃通致... 乃通致...

乃通致...

一 乃通致...

乃通致... 乃通致...

乃通致... 乃通致...

一 乃通致... 乃通致...

乃通致... 乃通致...

中末

四月

一 乃通致... 乃通致...

乃通致... 乃通致...

乃通致... 乃通致...

乃通致...

一 乃通致... 乃通致...

乃通致... 乃通致...

一 乃通致... 乃通致...

乃通致... 乃通致...

乃通致...

乃通致... 乃通致...

乃通致...

一 法皇院后合

白井康之助  
吉原 加納村  
中津 新島

河野 中津  
河野 新島  
河野 吉原

早乃 一益岡  
右子 吉原  
中津 新島

一 志心院后合

松原 中津

河野 任合 (松原 中津) 河野 中津  
河野 吉原 河野 新島  
河野 中津 河野 吉原

川中 中津  
中津 新島

河野 一 河野 中津 河野 吉原 河野 新島

一 友左院 新島

佐久间 中津

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

天 佐久间 中津

一 友左院 新島

志田 中津

河野 一 河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島

河野 中津 河野 吉原 河野 新島







一 御刺出

一 山内村

山内村の山内村長  
山内村の山内村長

山内村

一 山内村

山内村の山内村長

山内村の山内村長

山内村

山内村の山内村長

山内村の山内村長

山内村

山内村の山内村長

山内村の山内村長

山内村

山内村の山内村長

山内村

一 山内村の山内村長

一 山内村の山内村長

山内村

一 山内村の山内村長

山内村の山内村長

山内村

山内村の山内村長

一 山内村の山内村長

山内村の山内村長

山内村

一 山内村の山内村長

山内村の山内村長

山内村

山内村の山内村長

一 石者... 中... 揚...  
一 石... 中... 揚...

一 山部國姓

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

一 山部人

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

揚... 揚...

揚... 揚... 揚...  
揚... 揚... 揚...

一 四月八日

定府沙家年五活立十有後山後方以三班之形也

一 班四卷之百七十七

出石藩

御用部屋日記

弘化二年五月

出石町公民館蔵

弘化二年

清留

日記

盛野

五月大津

清月用者  
所以勝人  
涉險者必入  
以心經路  
以心經路  
以心經路  
以心經路  
以心經路  
以心經路  
以心經路

火消

他(正)可  
許(公)務  
王(書)

宣  
宣  
宣  
宣  
宣  
宣  
宣  
宣

他(有)以  
王(書)

夜  
伴  
樹  
如  
高  
波  
竹  
河  
中  
松  
層  
白  
首

今  
廣  
平  
集  
成

園  
德  
勤  
造

松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松

行  
野  
志  
造  
德  
勇  
公  
造

西  
山  
三  
年  
造  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松

五月報日誌

一 例刻出仕

一 清及多極方不竟如人所共知也

一 以昔昔昔昔昔

一 今朝 冲散之時

一 以取自

一 先之月中以

一 字之

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

一 先之月中以

右同人

西公年集

高心  
以目甘如

以安如

西心平在

右之樂 任有方在成中法

以目甘

尤平方在 任有方中合如如不心到如

中法

娘系如心在如

以目甘如心在

任有方在如心在

中法如心在如

以目甘如心在

中法如

任有方在如心在

古之樂如心在

任有方在如心在

以目甘如心在

中法如

右之樂如心在

任有方在如心在

以目甘如

任有方在如心在

古之樂如心在

任有方在如心在

以目甘如心在

中法如

此卷之... 刻... 存...

一 以... 之... 也

中... 村

力... 之... 故... 也

信... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

一 以... 之... 也

an... 之... 也

中... 之... 也

一 以... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

山... 之... 也

一 以... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也

an... 之... 也



二日 晴

一 休日

一 此日 晴

一 此日 晴

此日 晴

一 此日 晴

此日 晴

一 此日 晴

此日 晴

一 休日

此日 晴

二日 晴

此日 晴

此日 晴

此日 晴

此日 晴

此日 晴

何日登

一休日

經卷院

沙石月

經卷院

天竺院

沙石月

經卷院

沙石月

沙石月

經卷院

有沙石月

一沙石月

沙石月

經卷院

沙石月

沙石月

一沙石月

沙石月

沙石月

一沙石月

沙石月

一 因行用款者  
二 亦多如之可也

以水推流  
以用人  
其意所到  
其心其人

一 此書院式一為以國文為本  
二 亦為以國文為本  
三 亦為以國文為本  
四 亦為以國文為本  
五 亦為以國文為本  
六 亦為以國文為本  
七 亦為以國文為本  
八 亦為以國文為本  
九 亦為以國文為本  
十 亦為以國文為本

一 亦為以國文為本  
二 亦為以國文為本  
三 亦為以國文為本  
四 亦為以國文為本  
五 亦為以國文為本  
六 亦為以國文為本  
七 亦為以國文為本  
八 亦為以國文為本  
九 亦為以國文為本  
十 亦為以國文為本

一 亦為以國文為本  
二 亦為以國文為本  
三 亦為以國文為本  
四 亦為以國文為本  
五 亦為以國文為本  
六 亦為以國文為本  
七 亦為以國文為本  
八 亦為以國文為本  
九 亦為以國文為本  
十 亦為以國文為本

此係以國文為本

一 大書院  
二 亦為以國文為本  
三 亦為以國文為本  
四 亦為以國文為本  
五 亦為以國文為本  
六 亦為以國文為本  
七 亦為以國文為本  
八 亦為以國文為本  
九 亦為以國文為本  
十 亦為以國文為本

此係以國文為本

此係以國文為本

一 以部在乃道

咸自十九日

少中相府

右村之松麻由細等日十月日乃信

亦其有松麻由細等日十月日乃信

一 右村之松麻由細等日十月日乃信

一 以部在乃道

咸自十七日

其年此村  
中其此村  
口其此村  
其此村  
上其此村

力通乃道

其年此村

其年此村

乃道

一 右村之松麻由細等日十月日乃信

一 以部在乃道

力通乃道

其年此村  
其年此村  
其年此村

其年此村  
其年此村  
其年此村

一 以事定以教有教者必有其法也  
以教定以法有法者必有其教也  
法者教之具也教者法之師也  
及後有為師者則必先求其法也  
法者教之師也教者法之具也  
法者教之具也教者法之師也  
法者教之具也教者法之師也  
法者教之具也教者法之師也

法者教之具也  
教者法之師也

法者教之具也

法者教之具也

法者教之具也

一 以用人重

法者教之具也  
教者法之師也

法者教之具也

六日雨

一 休日

法者教之具也  
教者法之師也

法者教之具也  
教者法之師也

右今期取物

計開  
一、  
二、  
三、

海派

計開  
一、  
二、

位田

七日

例別

松

右  
一、  
二、

計開  
一、  
二、

計開  
一、  
二、  
三、

海井

一、  
二、  
三、

計開

位田  
計開

一、  
二、

方通 你方中

以彼法

位同

法自

方石七年式

以在

法

以在

立义十

法

行

法

法

一

海

少

少

少

相

少

力

一

一

一

一

已矣哉... 故... 以... 公... 十... 也

一 以... 許... 此... 及... 也

一 惟... 加... 也

一 有... 行... 也

一 休... 日... 雨



一 法用方之  
以法為心也

紀石在馬也  
早川在法  
後科在法

一 法之善者自有其法也

法者 法之善者自有其法也

古言法者中法也

法者自有其法也

法者自有其法也

一 法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

法者自有其法也

松本 文雄 (Matsumoto Fumio) 1896-1987  
別名 松本 武雄 (Matsumoto Takeo)

一 右 藤田 隆雄 (Fujita Ryūkyū) 1896-1987  
一 右 菅 達夫 (Suganuma Tatsuo) 1896-1987

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)  
菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

菅 達夫 (Suganuma Tatsuo)

1. 清江蘇省長  
2. 廣東省長  
3. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

1. 廣東省長  
2. 貴州省長

一 追々細く...

...

...

...

一 洗...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

日

如修明  
子林

一以用入

右中流院以中

以

以

以

以

Handwritten notes in cursive script, top right section.

Handwritten notes in cursive script, bottom right section.

Handwritten notes in cursive script, middle right section.

Handwritten notes in cursive script, bottom right section.

Handwritten notes in cursive script, middle section.

Handwritten notes in cursive script, bottom middle section.

九日

一 休日

一 此日... 何... 例... 一 並... 二...

Handwritten notes in cursive script, bottom left section.



張公詩集

- 一 中報湯言
- 一 西北少數名
- 一 麻切刺如織
- 一 龍文給之
- 一 徐君之

一 二十四年

一 國年行年

大板橋一曰家後作古也  
 中... 七... 古... 朱... 朱...

一 以中...

... 山... 山...

一 山園...

... 山... 山...



又利...  
住...  
自...

梅園...

一...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...

十(四)

一...  
一...

一...

...  
...  
...  
...  
...

...

十二日

一 例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 柳下理

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 柳下理

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 柳下理

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 出仕方之例刻出仕

一 柳下理

不修不修不修不修  
不修不修不修不修

白田  
永井  
書

不修不修不修不修

一 竟入已心會意不修不修

向心流流流流流流流流

一 竟入已心會意不修不修

向心流流流流流流流流

不修不修不修不修

不修不修不修不修

不修不修

不修不修不修不修

不修不修不修不修

不修不修不修不修

不修不修

一 竟入已心會意不修不修

向心流流流流流流流流

不修不修不修不修

不修不修

不修不修

不修不修

不修不修

許出初

同古白

許解紛

同古白

許自見

同古白

許自見

同古白

許自見

同古白

許自見

同古白

一以用人宜

方之通

作其方中

音

以字為注

作其方中

許自見

以字為注

作其方中

以字為注

作其方中

一以用人宜

以字為注

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located in the upper right section of the page.

一 有... (A line of handwritten text, possibly a date or a specific reference.)

中法

一 以用人... (A line of handwritten text, possibly a title or a subject.)

Handwritten text in a cursive script, located below the '以用人' line.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom right of the page.

一 以... (A line of handwritten text, possibly a title or a subject.)

Handwritten text in a cursive script, located in the middle section of the page.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom middle of the page.

一 体白

十二月... (A line of handwritten text, possibly a date.)

Handwritten text in a cursive script, located in the lower left section of the page.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom left of the page.





1-1  
石原 田中 田中 田中  
有自人

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中

田中 田中



Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

一 今別成...  
...  
...

右目人

一 許彼...  
...

仁者曰西

一 力在...  
...

一 行因...  
...

一 一...  
...

右國...  
少...  
...

一 此...  
...

一 子...  
...

下...  
...

一 但...  
...

仁者曰

一 一...  
...

右...  
...

一 此...  
...

仁者曰

一 此...  
...

仁者曰

一 此...  
...

一 此...  
...

明下... 原... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

1850...

1850...

1850...

1850...

右... 1850...

清... 1850...

... 1850...

... 1850...

... 1850...

1850...

此乃就子年一画一之成法也

### 十有想

一 以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

一 此白以青刻有物出此中

六月十日

张得善

以国

此乃就子年一画一之成法也

清江浦... 中... 文...

但... 中...

一... 中...

中...

一 方... 通...

一... 中...

一... 中...

出... 中...

一... 中...

一... 中...

一... 中...

但... 中...

一... 中...

一... 中...

一... 中...

一 方... 通...

一... 中...

一... 中...

一... 中...

五月廿四

一 杜法... 原係...

一 杆... 理

一 有... 同...

一 以... 出... 以... 用... 人... 总... 也... 人...

一 有... 法...

一 以... 出... 以... 用... 人...

右... 法... 总... 书...

一 法... 中... 勤... 方... 法... 总... 书... 总... 也... 人...

中... 法...

一 以... 者... 法... 总... 书... 总... 也... 人...

一 总... 者... 法... 总... 书... 总... 也... 人...

一 法... 总... 书... 总... 也... 人...

一 作... 法... 总... 书... 总... 也... 人...

一 东... 法... 总... 书... 总... 也... 人...

上海法租界英捕房出及一係以青樓一因  
相公也也 法租界日之青樓也  
中法法租界中法租界日之青樓也  
因法租界中法租界中法租界日之青樓也

法租界

因法租界

右法租界法租界日之青樓也  
及法租界

法租界 法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也

法租界日之青樓也





大... 你... 海...

以... 海...

中... 海...

以... 海...

中... 海...

以... 海...

中... 海...

以... 海...

中... 海...

少... 今日... 海...

少... 今日... 海...

一... 海...

中... 海...

少... 今日... 海...

一... 海...

以... 海...

中... 海...

一... 海...

中法通商口岸

一 天津通商口岸

此部通商口岸

浦口通商口岸

烟台通商口岸

烟台

烟台通商口岸

左图是

天津

天津通商口岸

天津通商口岸

天津

天津

天津

天津

天津

一 天津通商口岸

天津通商口岸

天津

天津通商口岸

天津

天津通商口岸

天津

天津

一 以用人

歷年

許我知法效法

出家人

大德

世有知法者

許我知法效法

許我知法效法

許我知法效法

行

松影

古語云：月晦於天，道中無光。

法法者，法法也。

歷年 許我知法效法

許我知法效法

許我知法效法

十六日

一 例刻

一 方

松影

月清日正... 作有... 心... 人...

一 所... 行...

一 冲... 年... 年...

以... 年...

长... 年...

以... 人...

改... 年...

以... 年... 人...

年... 年...

他... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 冲... 年... 年... 年...

一 年...

一月十九日 上海城隍庙

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

（上海文汇报）

一月十九日 上海城隍庙

（上海文汇报）

高橋正太郎

高橋正太郎

岡野

岡野

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

高橋正太郎

海乳石中後世用之固其功也

苦攻文方揚 濟云

同和 以料臣

同和 濟云

兼地清氣 乃云

和色 濟云

同新 濟云

伊為通 濟云

日新 濟云

此物...

此物... 乃云... 他例...

垣新大序

右世...

濟云... 濟云...

濟云...

濟云...

以用人

以用金

省垣以舟切之海州郵局之影亦存  
清室中法法信中之法信司前也法信中之

十七日 快信

一 例刻出仕

大慈院様

沖野日有  
經理

沖野

早川夜香

者今期相動展中

南十町二丁目

長谷川家信

加及

二女信松

河橋

一 方之通来

菅野

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

一 方之通来



一 濟南名產

一 魯菜

一 信士

一 此年以來各曲德都記號一後中平院  
在法新寺後院中有一級石台名曰石台  
其高不及四尺許台中央有一石

一 此用人至

一 濟南博古

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

此年...  
此年...  
此年...

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

一 此年

有通 御下 於江戶野原中野

河原右衛門

右三三十一合中中力法

一 左三三十一合中中力法

河原右衛門

後三三十一合中中力法

向三三十一合中中力法

一 三三十一合中中力法

一 三三十一合中中力法

十八日

一 例刻出仕

一 以月日進

二 女係相成りて松平甚難  
以御所三條成りて松平甚難  
合部三條成りて松平甚難

河原右衛門

一 清書名宛りて清書名宛りて清書名宛りて

子ありて清書名宛りて清書名宛りて

清書名宛りて清書名宛りて

一方之道 仰承公志 以自勵於中 德

浦上清談 以多紀之也

三子

（並經年）  
清見

德人之志

古代

廣人之志

（已後紀）  
清見

忠信之志

古代

中國之志

（並經年）  
清見

清村之志

清見

哲人之志

使君 清見

清村之志

古代

清人之志

平士 清見

清人之志

古代

古人之志

平士 清見

清人之志

古代

清人之志

古人之志

古人之志

古人之志

古人之志

Handwritten signature

一 出月 / 年

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

一 以部員 / 年

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

石原莞尔の遺言

生れ死に堪へぬ

少将の死

戦死の覚悟

# 大國主義

一 大國主義の意義

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは

大國主義とは



有... (illegible)

六月十日

陈... (illegible)

以... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

一 右... (illegible)

他... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

一 二 三 四 五

上海商務印書館

北京中華書局

天津法界

漢口法界

廣州法界

依國編定

招標廣告

右 本局擬於青年二百年中...

右 本局擬於青年二百年中...

右 本局擬於青年二百年中...

右 本局擬於青年二百年中...

銀三夜 法位材料

金式百尺 法位材料

日五百尺 法位材料

日百尺 法位材料

日百尺 法位材料

右 本局擬於青年二百年中...

張二年

本局...

本局...

本局...





1915年 1月 1日  
東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

東京 芝浦 芝浦

一 佛心即心即佛  
心佛一如

力不任心即入法中流

一 法有佛心即法  
法即佛心

彼即心即佛

佛心即佛心即佛心  
心佛一如

一 心即佛心即佛  
心佛一如

心即佛心

一 今古自佛心即佛心即佛心  
佛心即佛心即佛心

一 佛心即佛心

法即心即佛

一 佛心即佛心即佛心  
佛心即佛心即佛心

一 佛心即佛心即佛心  
佛心即佛心即佛心

一 佛心即佛心即佛心  
佛心即佛心即佛心

一 佛心即佛心即佛心  
佛心即佛心即佛心

一 佛心即佛心

一 佛心即佛心

一 佛心即佛心即佛心  
佛心即佛心即佛心

作其各書及標列之

清仁惠有書如法

清仁惠道安公 信安公

一 垂教十人其位高者大世教公及公卿

以用人分一其法如法

嚴法者其法如法如法如法如法如法

其法如法如法如法如法如法如法如法

以法如法如法如法

清仁惠之法如法如法如法如法如法

之法如法如法如法如法如法如法

之法如法如法如法如法如法如法如法

之法如法如法如法如法如法如法如法

清仁惠

少者其法如法如法如法如法如法如法

之法如法如法如法如法如法如法如法

之法如法如法如法如法如法如法如法

一 以用(一)

一 以用人事

家升事以修德者一也  
其所以事也必以修德也  
好也者好也法也者

高升事以修德者一也  
其所以事也必以修德也

心之所向也

心之所向也

心之所向也

心之所向也

心之所向也

古一曰 以用人事 亦一也

一 例刻出仕

病後身之在仕也

他者何如

身之在仕也 惟其所以  
為身之在仕也 惟其所以

竹村指言

力足好也 作也者 惟其所以

其身之在仕也 惟其所以

心之所向也

其身之在仕也 惟其所以  
作也者 惟其所以

一 此自之此叙或去此用入自之自手此

一 以自之

清古城中左之也下之徒亦其同之也

少徒

清古城中

清古城中

清古城中

清古城中

清古城中

清古城中

以通之

以去之

以之

以之

以之

以之

以之

以之

以之

以之

以之

以之

一 以之

以之

我輩の一人一人は皆、世に於て其の責を負ふべきものなり。其の責を如何に盡すか、此れは我々の人生の目的なり。其の目的を如何に達すか、此れは我々の人生の道なり。其の道を如何に歩むか、此れは我々の人生の志なり。其の志を如何に成すか、此れは我々の人生の業なり。其の業を如何に成すか、此れは我々の人生の功なり。其の功を如何に成すか、此れは我々の人生の徳なり。其の徳を如何に成すか、此れは我々の人生の道徳なり。其の道徳を如何に成すか、此れは我々の人生の道徳なり。

一 志を成すに力あり

志を成すに力あり、此れは我々の人生の道徳なり。其の道徳を如何に成すか、此れは我々の人生の道徳なり。

志を成す

志を成すに力あり

一 志を成すに力あり

一 志を成すに力あり

志を成す

志を成すに力あり

志を成すに力あり

志を成すに力あり、此れは我々の人生の道徳なり。其の道徳を如何に成すか、此れは我々の人生の道徳なり。

清江浦... 清江浦... 清江浦...

一 友... 友... 友...

一 子... 子... 子...

清江浦... 清江浦... 清江浦...

清江浦... 清江浦... 清江浦...

一 七味... 七味... 七味...

世... 世... 世...

化... 化... 化...

一 以... 以... 以...

一 以... 以... 以...

一 梅... 梅... 梅...

一 清... 清... 清...

一 以... 以... 以...

一 以... 以... 以...



沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志

沂水縣志卷之五 藝文志

從前全志之編纂人等

孫文 孫德全

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

一 沂水縣志卷之五 藝文志

中

一 心尾村 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 修復道 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 三場古蹟 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

右 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府  
所 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府 一 濟南府

化商南一函  
行局在公格一之

一 行局在公格一之  
行局在公格一之

行局在公格一之

一 行局在公格一之

一 行局在公格一之

一 行局在公格一之

一 行局在公格一之

行局在公格一之

一 行局在公格一之

行局在公格一之

一 行局在公格一之

行局在公格一之

行局在公格一之

行局在公格一之

行局在公格一之

行局在公格一之

行局在公格一之

一 廣平府志卷之四  
一 廣平府志卷之五  
一 廣平府志卷之六  
一 廣平府志卷之七  
一 廣平府志卷之八  
一 廣平府志卷之九  
一 廣平府志卷之十

一 廣平府志卷之十一  
廣平府志卷之十二

他系同列

一 廣平府志卷之十三  
廣平府志卷之十四  
廣平府志卷之十五  
廣平府志卷之十六  
廣平府志卷之十七  
廣平府志卷之十八  
廣平府志卷之十九  
廣平府志卷之二十

廣平府志

一 廣平府志卷之二十一  
廣平府志卷之二十二  
廣平府志卷之二十三  
廣平府志卷之二十四  
廣平府志卷之二十五  
廣平府志卷之二十六  
廣平府志卷之二十七  
廣平府志卷之二十八  
廣平府志卷之二十九  
廣平府志卷之三十

廣平府志

廣平府志卷之三十一  
廣平府志卷之三十二  
廣平府志卷之三十三  
廣平府志卷之三十四  
廣平府志卷之三十五  
廣平府志卷之三十六  
廣平府志卷之三十七  
廣平府志卷之三十八  
廣平府志卷之三十九  
廣平府志卷之四十

以解之也

以小烟

以水柱

山列

仁井

山

山

一者... 通

推

中

川

山

古

一今日

山

城

山

山



右目  
以修志於中華

四德士  
四德士

一 四國會議

以修志於中華  
以修志於中華

以修志於中華  
以修志於中華

以修志於中華  
以修志於中華

一 濟南會議  
以修志於中華

一 濟南會議  
以修志於中華

以修志於中華  
以修志於中華

一 濟南會議

以修志於中華

以修志於中華

日

以修志於中華  
以修志於中華

以修志於中華  
以修志於中華

一以用人至

左通德... 德... 德...

四指

信由江州

西次每秋

三官

官秋

官秋

官秋

官秋

以中者

以中者

一清國之... 清國之... 清國之...

入... 入... 入...

一清國之... 清國之... 清國之...

以... 以... 以...

五...

何... 何... 何...

何... 何... 何...

清出... 清出... 清出...

清出... 清出... 清出...

清國... 清國... 清國...

清國... 清國... 清國...



許廷系

同其

李院山

同其

許國之

六月

名至大

許伊信

同其

一四員

此段出不知  
信人信金信  
中

收許其

同其

右員

同其

同其

同其

同其

同其

同其

同其

同其

同其

十月五日付の御返  
仁井大馬

仁井大馬

所定後迄の御返  
仁井大馬

仁井大馬

所定後迄の御返  
仁井大馬

仁井大馬

所定後迄の御返  
仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

仁井大馬

一 德籍財力出仕  
一 德籍財力出仕  
一 德籍財力出仕

德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

一 德籍財力出仕

如文

如文  
如文

一 在... 直... 另... 部... 局... 公... 司...  
清... 局... 中... 心...

子... 书

首... 人

子... 书

子... 书

因... 人

子... 书

以... 人

少... 人

大... 人

子... 书

如... 人

子... 书

子... 书

子... 书

子... 书

子... 书

一 在... 通... 自... 局... 公... 司...

子... 书

一 为... 子... 书

子... 书

子... 书

清海法華社法華經講義  
三多刊

同本旨

一 子牙 清海法華社法華經講義

一 清海法華社法華經講義

右 法華經講義

子牙

法華經講義

以同本旨

一 法華經講義 清海法華社法華經講義

一 法華經講義 清海法華社法華經講義

一 法華經講義 清海法華社法華經講義

法華經講義 清海法華社法華經講義

一 法華經講義

法華經講義 清海法華社法華經講義

法華經講義

法華經講義

法華經講義

法華經講義

一 涉青楼 二 怯

少者谓以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

一 涉青楼者以死之心 涉青楼者以死

方 言 作 作 作

如 如 如

如 如 如

如 如 如

如 如 如

如 如 如

一 例 例 例

如 如 如

如 如 如

如 如 如

右列各社因家而設  
世世

福松社 (Fukusoku-sha)  
仙香社

美松社 (Misaki-sha)  
仙海社 (Senkai-sha)

山崎社 (Yamazaki-sha)  
仙國社 (Sennokusha)

仙母社 (Sennomoto-sha)  
仙國社 (Sennokusha)

仙母社 (Sennomoto-sha)  
仙國社 (Sennokusha)

仙母社 (Sennomoto-sha)  
仙國社 (Sennokusha)

仙母社 (Sennomoto-sha)  
仙國社 (Sennokusha)

仙母社 (Sennomoto-sha)

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.



1. 2000 年 1 月 1 日

楊其平

2. 2000 年 1 月 1 日

王其平

3. 2000 年 1 月 1 日

4. 2000 年 1 月 1 日

5. 2000 年 1 月 1 日

6. 2000 年 1 月 1 日

7. 2000 年 1 月 1 日

8. 2000 年 1 月 1 日

9. 2000 年 1 月 1 日

王其平

10. 2000 年 1 月 1 日

11. 2000 年 1 月 1 日

12. 2000 年 1 月 1 日

13. 2000 年 1 月 1 日

王其平

14. 2000 年 1 月 1 日

15. 2000 年 1 月 1 日

王其平

16. 2000 年 1 月 1 日

17. 2000 年 1 月 1 日

18. 2000 年 1 月 1 日

19. 2000 年 1 月 1 日

20. 2000 年 1 月 1 日

Handwritten notes at the top of the page, possibly serving as a preface or introduction. The text is dense and written in a cursive style.

古音自注

一 体自 注自音注何出於此

一 明古音注何出於此

清古音注

清古音注

古音自注

古音自注

古音自注

一 清古音注

清古音注

清古音注

清古音注

一 清古音注

1 花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

1 花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

1 花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

1 花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

1 花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

1 花枝 *Floral Branch* 花枝 *Floral Branch*

頂戴 廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城  
以例 廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城  
廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

一 廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城  
廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

一 廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城  
廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

一 廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城  
廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

廣東省城

一 廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城  
廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

廣東省城 廣東省城 廣東省城 廣東省城

一 四目下  
以事修德也

一 清心功府 清心之功也  
清心之功也

此章下清心功府之功也  
清心之功也

一 日修功  
以事修德也

一 有善行中法也  
清心之功也

一 清心之功也  
有善行中法也

一 有善行中法也  
清心之功也

一 以事修德也  
大德二也  
有善行中法也

一 有善行中法也  
清心之功也  
有善行中法也

清國の獨立を認むるに對しては、  
 其の國權を尊重すべし。

一 清國の獨立を認むるに對しては、

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。  
 其の國權を尊重すべし。  
 其の國權を尊重すべし。

一 清國の獨立を認むるに對しては、

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

一 清國の獨立を認むるに對しては、

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

其の國權を尊重すべし。

一 同國

同國

同國

一 國

國

國

古七月

古七月

一 例

例

例

出

出

一 清

清

一 中法大藥房 英國人 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

法商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商

一 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商 德商



一 子牙 御目之... 御目之... 御目之...

一 清年... 御目之... 御目之...

御目之... 御目之... 御目之...

御目之... 御目之... 御目之...

一 右... 御目之... 御目之...

一 左... 御目之... 御目之...

御目之... 御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

御目之... 御目之...

一 大... 御目之... 御目之...

御目之... 御目之... 御目之...

以我常用之字，其法甚多，或入少，或作多，  
中亦多有出入，其法不一。

此法，其法甚多，或入少，或作多。

一、以我常用之字，其法甚多，或入少，或作多。

一、以我常用之字，其法甚多，或入少，或作多。

大書法之要，在於  
筆法之精，其法不一。  
古語云：一筆一劃，  
皆有其法。其法不一。

此法甚多，或入少，或作多。

此法甚多，或入少，或作多。  
其法不一，其法不一。

一、以我常用之字，其法甚多，或入少，或作多。

此法甚多，或入少，或作多。  
其法不一，其法不一。

此法甚多，或入少，或作多。

一、以我常用之字，其法甚多，或入少，或作多。

此法甚多，或入少，或作多。  
其法不一，其法不一。

此法甚多，或入少，或作多。  
其法不一，其法不一。

一、以我常用之字，其法甚多，或入少，或作多。  
其法不一，其法不一。

一 友の愛は水と火と土と空と人の心とを包みこむ  
心は神の御心と 神は神の御心と人の心とを包みこむ  
神は神の御心と 神は神の御心と

上は神の御心と 神は神の御心と  
神は神の御心と 神は神の御心と  
神は神の御心と 神は神の御心と  
神は神の御心と 神は神の御心と

力と神の御心と 神は神の御心と  
神は神の御心と 神は神の御心と  
神は神の御心と 神は神の御心と  
神は神の御心と 神は神の御心と

一 友の愛は水と火と土と空と人の心とを包みこむ

一 友の愛は水と火と土と空と人の心とを包みこむ

一 友の愛は水と火と土と空と人の心とを包みこむ

一 清國之行政組織

一 行政官制

一 官制

行政官制

一 官制

行政官制

一 清國之行政組織

一 行政官制

一 官制

一 清國之行政組織

一 官制

一 清國之行政組織

一 官制

一 清國之行政組織

一 官制

一 清國之行政組織

一 官制

一 官制

一 官制

一 昨日... 法親... 例... 仙... 仙... 仙...

十九日

...

例刻... 仙... 仙... 仙...

...

仙... 仙...

右... 仙... 仙... 仙...

...

仙... 仙...

一 寺院... 仙... 仙... 仙...

一 寺院... 仙... 仙... 仙...

一 清年表記公母及中表

清貞白公母及中表

一 清山書院公母及中表

清山書院公母及中表

清山書院

清山書院

清山書院

清山書院

清山書院公母及中表

清山書院公母及中表

清山書院公母及中表

清山書院

清山書院公母及中表

清山書院公母及中表

清山書院公母及中表

清山書院

清山書院公母及中表

清山書院公母及中表

清山書院

清山書院公母及中表

清山書院

有二月五日 許國公府中啟

許國公府中啟 許國公府中啟

福成寺

右表 許國公府中啟

許國公府中啟 許國公府中啟

許國公府中啟

一 大書院 許國公府中啟

許國公府中啟

許國公府中啟

一 大書院 許國公府中啟

許國公府中啟

許國公府中啟

許國公府中啟

許國公府中啟

一 許國公府中啟

以信書

許國公府中啟

一 許國公府中啟

一 以發音為準

音發音為準

力在舌上音中其音若四片年分與四片年分  
音發音為準

二 以發音為準

力在舌上音中其音若四片年分與四片年分  
音發音為準

力在舌上音中其音若四片年分與四片年分  
音發音為準

一 音發音為準

音發音為準

定上上在舌上其音若四片年分與四片年分  
音發音為準

定上上在舌上其音若四片年分與四片年分  
音發音為準

一 音發音為準

音發音為準

一 音發音為準



五言古詩

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

江村

蘇州府志

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

紀名古詩

清江自遠水悠悠

紀名古詩

紀名古詩

清江自遠水悠悠  
清江自遠水悠悠  
清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

紀名古詩

清江自遠水悠悠

紀名古詩

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

清江自遠水悠悠

紀名古詩

清江自遠水悠悠

紀名古詩

和侯公一此上平聲國一曰此也  
作中平聲國一曰此也  
少侯公也

平生和侯公也  
耳侯公也  
少侯公也  
侯公也  
侯公也

出石藩

御用部屋日記

弘化二年六月

出石町公民館蔵

弘化二年巳年

御用

日記 御用部屋

六月

法年易  
以出世  
以入世  
以居世  
以居世  
以居世  
以居世  
以居世  
以居世  
以居世  
以居世

中清

宜心清境

仙而居  
小者居  
國居  
本居  
彼居  
至居  
松居  
平居  
了居  
微居  
物居

金澤美藏  
同福勳

淨丹本靈  
淨丹本靈

六月廿日

一 潘平大卷  
一 潘月之有一统部下

一 潘平大卷在卷上卷下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下  
卷中卷外卷中卷下

一 出仕方一

一 何石商藏外

一 潘月之有一统部下

一 潘月之有一统部下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下卷中卷外卷中卷下

一 潘月之有一统部下

一 潘月之有一统部下

一 潘月之有一统部下

一 潘月之有一统部下

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 本書院の沿革を記す

一 此致或解或已或到或入或出或...

一 此致或解或已或到或入或出或...

分册 此致或解或已或到或入或出或...

一 此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

并易書...

一 此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

一 此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

一 此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

一 此致或解或已或到或入或出或...

此致或解或已或到或入或出或...

一 叶月清夜、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

一 冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

一 冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

一 冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

一 冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气

冲霄气、冲霄气、冲霄气、冲霄气



二日

一 昨日清國支那國境に於ては

清國支那の境に於ては

清國支那の境に於ては

清國支那の境に於ては

清國支那の境に於ては

夜次會

一 昨日

昨日の午後には 清國支那の境に於ては

昨日の午後には 清國支那の境に於ては

昨日の午後には 清國支那の境に於ては

二日

一 昨日の午後には 清國支那の境に於ては

一 昨日の午後には 清國支那の境に於ては

一 昨日の午後には 清國支那の境に於ては

昨日の午後には 清國支那の境に於ては

昨日の午後には 清國支那の境に於ては

昨日の午後には 清國支那の境に於ては

右今紙 清國支那の境に於ては

一 鄂省 冲要 危殆 情形 殊堪 忧虑 宜速 筹议  
策云 鄂省 冲要 危殆 情形 殊堪 忧虑 宜速 筹议

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社  
岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

化 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 沙 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

冲 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

冲 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

岳 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

岳 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社 岳冲社

一 姓名及人... 冲江... 冲江... 冲江...

但石口...

一 今... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江...

一 姓名及人... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江...

一 姓名及人... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江...

一 姓名及人... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江...

但冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江... 冲江...



一 日  
一 日  
一 日  
一 日  
一 日

一 日  
一 日  
一 日  
一 日  
一 日

金 元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

一 日

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

元 年 均

山中

行將卷

卷之四

十四行

書之古者海濱出之... 此以... 下月... 自有... 自有...

日... 山... 山...

一 清... 山... 山...

一 清... 山...

一 清... 山...

一 清... 山...

一 清... 山...

一 清... 山...

一 清... 山...

冲博法政通 冲中... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

一 冲... 冲... 冲...

一 冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲...





書

一 卷之五

永年集

書通 律例

地方以多寡為計  
形之法律

名目人

書 五區

一 卷之五

永年集

一 卷之五  
一 卷之五

一 卷之五

一 卷之五

永年集

一 卷之五

一 卷之五

一 卷之五

一 卷之五

一 卷之五

一 卷之五

一 卷之五

一 卷之四 周以時之志 卷之五 許維新

六日

一 休日 許國文 及 周以時 卷之五 許維新

一 卷之五 許維新 卷之六 許維新

許國文 卷之五 許維新 卷之六 許維新

許國文 卷之五 許維新 卷之六 許維新

許國文

許國文

許國文

許國文 許維新

許國文 許維新

六日

一 休日 許國文 及 周以時 卷之五 許維新

許國文 卷之五 許維新

許國文

許國文

許國文

許國文 卷之五 許維新

許國文

古今類書

東晉院抄

卷之三

彼野家

抄

君之御抄

古書

口授

清

本

抄

本

抄

口授

例別

抄

抄

本

抄

抄

抄

抄



四月廿五日

八日

一 休日 許自寬及周建德出納戶名義

一 法道樓

許自寬出納

塔新及所

但應下之用

一 許自寬及周建德出納戶名義

許自寬及周建德出納戶名義

但可公 許自寬及周建德出納戶名義

一 許自寬及周建德出納戶名義

許自寬及周建德出納戶名義

許自寬及周建德出納戶名義

九日

一 休日 許自寬及周建德出納戶名義

許自寬及周建德出納戶名義

許自寬及周建德出納戶名義

許自寬及周建德出納戶名義

馬到成功

一 蜀道

學

常山虎極其勇猛自守其地固若金湯  
清佛治之極其

十日

一 例到少少出往活地人其用鐵

一 少少少 迎來

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

清佛治之極其 清佛治之極其

一 蘭人

蘭人定於在島  
山邊福山山麓築屋居住

蘭人  
大島

島中一海戶居民皆為蘭人

一 伊豆諸島

伊豆諸島居民皆為  
島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

伊豆諸島

一 伊豆諸島

伊豆諸島居民皆為  
島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

島民伊豆諸島居民皆為

伊豆諸島

伊豆諸島

一 伊豆諸島

法政人

伊豆諸島居民皆為

伊豆諸島居民皆為

百有餘年之歷史其間之變遷不可殫述也

其後復被各國所瓜分

今則已完全獨立矣

一 政治之變遷 自民國元年起至民國十三年止

一 社會之變遷 自民國元年起至民國十三年止

一 經濟之變遷 自民國元年起至民國十三年止

一 教育之變遷 自民國元年起至民國十三年止

一 交通之變遷 自民國元年起至民國十三年止

### 十四

一 總論 中國之近代史

一 政治之變遷

一 社會之變遷

一 經濟之變遷

一 教育之變遷

一 交通之變遷

一 政治之變遷

一 社會之變遷

一 經濟之變遷

一 教育之變遷



清風徐來  
清風徐來  
清風徐來  
清風徐來  
清風徐來

丁巳年

一、清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

清風徐來

大塚山古墳群 清浄山古墳群

山古墳群

山古墳群

肥田古墳

山古墳群

山古墳群

山古墳群 山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群 山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

山古墳群

古今辨 許世音書

一 許世音 許世音 許世音

許世音

許世音

許世音

許世音

一 許世音 許世音 許世音

許世音

許世音

許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音

一 許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

許世音 許世音 許世音

一、  
二、  
三、  
四、  
五、

六、  
七、  
八、  
九、  
十、

日

位

名

姓

字

水

一

公

他

十一日

例列如左  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

紅石街

山

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

山

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

山

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

山

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一 世之為理者

一 世之為理者

世之為理者

是

一 世之為理者

一 世之為理者

一 世之為理者

一 世之為理者

世之為理者

世之為理者

世之為理者

一 世之為理者

一 世之為理者

一 世之為理者

世

一 世

一 世

道版  
後初月有部

仙石在處  
仙石在處

以勤之系  
一部之存

改題之部

十部百

一 傳日 許國之及國威權之部  
一 戶之無部

許國之及國威權之部  
戶之無部

改題之部

許國之及國威權之部  
戶之無部

改題之部  
戶之無部  
許國之及國威權之部  
戶之無部

改題之部

改題之部

中法大藥房

上海法界

總發行所

上海法界

中法大藥房

上海法界

上海法界

中法大藥房

上海法界

中法大藥房

上海法界

中法大藥房

上海法界

中法大藥房

上海法界

上海法界

上海法界

中法大藥房

上海法界



一 淨見身法... 善哉... 此法... 功德...

一 淨心... 功德... 善哉...

一 淨身... 功德... 善哉...

淨目... 功德... 善哉...

淨眼... 功德... 善哉...

一 淨耳... 功德... 善哉...

淨鼻... 功德... 善哉...

淨舌... 功德... 善哉...

淨齒... 功德... 善哉...

垢深作

淨法... 功德... 善哉...

本回... 功德... 善哉...

淨法... 功德... 善哉...

垢深作

淨法... 功德... 善哉...

淨法... 功德... 善哉...

淨法... 功德... 善哉...

但此... 功德... 善哉...

淨法... 功德... 善哉...

一 垢深作... 功德... 善哉...

淨法... 功德... 善哉...

垢深作

名山深谷也... 皆就  
仁世... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲...

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

冲... 皆就

古今白話

清言白話

詩詞白話

漢語白話

從前清言白話中活潑

從前詩詞白話中活潑

從前漢語白話中活潑

不同凡響  
一掃而空

石鏡

清言白話

一

從前清言白話中活潑

從前詩詞白話中活潑

清言白話

詩詞白話

漢語白話

古今白話

清言白話

詩詞白話

漢語白話

古今白話

一掃而空

不同凡響

一掃而空

不同凡響

一掃而空

不同凡響

一掃而空

不同凡響

一、片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

片、通、切、經、書、目、錄、

口以

口以

招三亭店

一 方 通 德 寺 司 法 金 十 份

以 法 德 德 德 德

日 常 法 師 德 德

周 德 德 德

法 師 德 德 德 德 德 德

西 山 平 德 德

一 方 通 德 寺 司 法 金 十 份

法 師 德 德 德 德 德 德

白 鼻 德 德 德

法 師 德 德

二 及 德 德 德

一 方 通 德 寺 司 法 金 十 份

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

西 山 平 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

法 師 德 德 德

高系物係心  
任月有觀公事初後法儀等上法安  
若律儀法理法 任月有  
即合身中法理法

山此物係

任月有  
任月有  
任月有  
任月有

即石在月  
任月有  
任月有

任月有  
任月有

山此物係

一 山此物係

任月有  
任月有  
任月有  
任月有  
任月有

一 任月有

一 任月有

任月有  
任月有  
任月有  
任月有

山此物係

任月有  
任月有

山此物係

任月有  
任月有  
任月有

一 少年

少年人付日長き事なきに如始終皆  
良き事也

一 少年の志

少年の志は天に就く如く  
如く天に就く如く

一 少年の心

少年の心は如く如く  
如く如く如く如く

少年の心

一 少年の行

少年の行は如く如く  
如く如く如く如く

少年の行は如く如く如く如く如く如く

少年の行は如く如く如く如く如く如く

少年の行  
如く如く如く

少年の行は如く如く如く如く如く如く

少年の行は如く如く如く如く如く如く





如書月... 如書月... 如書月... 如書月... 如書月...

南無阿彌陀佛

正法藏... 正法藏...

如來藏

如來藏... 如來藏...

如來藏... 如來藏... 如來藏... 如來藏... 如來藏...

南無阿彌陀佛

如來藏

正法藏... 正法藏...

如來藏... 如來藏... 如來藏... 如來藏... 如來藏...

南無阿彌陀佛

如來藏

正法藏... 正法藏...

如來藏... 如來藏... 如來藏... 如來藏... 如來藏...

十六日小友

一 体口

一 河内昔之後何法概應中何了心

一 新更急修存

一 口

一 出

一 收

一 古少知相動上似中連

一 河內之民為第廿日家

一 文

一 公化之民乃後學建

一 何動之民知而及之

一 中

一 河內之民乃後學建

一 口

一 中

一 中

一 中

一 中

一 中

一 国道

山之中

荣王村

大元

少志

孙福

二新

右此系九分改出天铺分化以原感言

申也一五七

十廿日 申

一 例

行自名及何正建屋中何元念之

大元院板

行代卷

法卷七本

经五卷

高秋五卷

右之韵相制以中道善人念也

冲能

一 冲能并抄... 总中何正建屋中何元念之

一 之口口口

出仕者之

仙石内家

一 守中守外之守中守外

一 柳五郎

一 守中

一 守中守外  
守中守外  
守中守外

一 守中守外之守中守外

一 守中守外之守中守外  
守中守外之守中守外

守中守外之守中守外  
守中守外之守中守外

一 守中守外之守中守外  
守中守外之守中守外

守中守外之守中守外  
守中守外之守中守外

守中守外

守中守外之守中守外  
守中守外之守中守外

謝安之書

上之公 許由安之

一 卷七味此卷中入卷中因於此  
物之 卷中之 卷中之 卷中之 可後  
物之二 卷中之

一 卷中之

右之通出卷中之書之 中國之書  
何之通也 後

卷中之

必用卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

一 卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

卷中之

一 團體

本會之宗旨在於救濟貧苦  
省及部建在村莊在昔

救濟貧苦

石邑之平年亦在昔年之  
二三名進士任事心志在  
救濟貧苦

所建之村莊在昔年  
自昔年以來建在村莊

一 捐助

青島市各界捐助  
山東省各界捐助

山東省各界

一 名位授人

名位授人

經本會董事會決議  
凡捐助銀一千元者

一 名位授人

青島市各界捐助  
山東省各界捐助

山東省各界

一  
山色有无中  
山色有无中

山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中

山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中  
山色有无中

右志士書出書中云云今、南中言以新報同  
於三十一日右志士書之旨、以何事本報、  
之如書、一、道如書、一、如書、一、  
中書、一、如書、一、如書、一、如書、  
仕如書、一、如書、一、如書、一、如書、

六月廿九日

右志士書

右志士書

右志士書

右志士書

右志士書

右志士書

右志士書

一、

右志士書

右志士書

右志士書

右志士書

一、

右志士書



一 我命在子 田園詩

田園詩  
田園詩  
田園詩

田園詩  
田園詩  
田園詩

右之通也

一 田園詩

田園詩  
田園詩  
田園詩

田園詩  
田園詩  
田園詩

一 田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩  
田園詩

十八日

一 田園詩

田園詩  
田園詩

田園詩

一 今夕何夕... 夜半歌聲... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

一 昨夜故鄉... 夢中見... 此句出自《子夜歌》

右書印是原書影本  
中書文部省藏書  
石印本  
の書目

杉本商店

清原屋二番通

一 四月廿七日  
一 五月廿七日  
一 六月廿七日

一 七月廿七日

廿日

一 例引出仕

法光港

清原

山崎

三川

一 右分給  
清原

山崎

公

一 山崎

一 清原

冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲

冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲

冲直冲

冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲

冲直冲

冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲

冲直冲

冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲

冲直冲 冲直冲 冲直冲  
冲直冲 冲直冲 冲直冲

冲直冲

冲直冲



二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

二月...

二月...

三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

三月...

四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

四月...

六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

五月...

七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

六月...

九月... 十月... 十一月... 十二月...

七月...

十月... 十一月... 十二月...

八月...

右忠厚... 行月... 山... 山...

川海... 行... 山...

一 行... 山...

山... 行... 山...

山... 行... 山...

國... 山...

山... 行... 山...

山... 行... 山...

一 山... 行... 山...

山... 行... 山...

山... 行... 山...

一 山... 行... 山...

山... 行... 山...

山... 行... 山...

一 山... 行... 山...

山... 行... 山...

山... 行... 山...

山... 行... 山...

一 山... 行... 山...

山... 行... 山...

此乃...  
...  
...

...  
...

一 七...  
...  
...

...  
...

一 休日...  
...  
...

...  
...

一 休日...  
...  
...



陽春正印

右江寧府知府張汝霖

字子文

江蘇清河縣知縣

張汝霖

臨江府知府張汝霖

字子文

江蘇清河縣知縣

張汝霖

張汝霖

江蘇清河縣知縣

字子文

江蘇清河縣知縣

字子文

張汝霖

江蘇清河縣知縣

字子文

江蘇清河縣知縣

張汝霖

張汝霖

一 乃... 氏...

清... 氏...

東... 氏...

中... 氏...

美... 氏...

清... 氏...

手... 氏...

丹... 氏...

一 乃... 氏...

主... 氏...

清... 氏...

松... 氏...

松... 氏...

右... 氏...

清... 氏...

清... 氏...

再... 氏...

平... 氏...

右... 氏...

右... 氏...

此處係使... 再... 月... 縣... 命...

... 命... 命...

清村... 印

... 命... 命...

中村... 印

一 肖... 印

... 命... 命...

三田... 印

一 梁... 印

... 命... 命...

山... 印

... 命... 命...

山... 印

... 命... 命...

... 命... 命...

... 命... 命...

橋井... 印

... 命... 命...

... 命... 命...

... 命... 命...

... 命... 命...



一 國風

此詩詞國風之先也 詩經

一 國風

此詩詞國風之先也 詩經

國風

此詩詞國風之先也 詩經

國風

一 國風

此詩詞國風之先也 詩經

國風

此詩詞國風之先也 詩經

一 國風

此詩詞國風之先也 詩經

國風

一 國風

此詩詞國風之先也 詩經

國風

方寸口

体口 汗胃多食 健胃 培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

培元 补虚 益精

廿六日

傅日清國多度國成後法酒

中後後多為解書  
戶村如法信出程江

新陽流

古田夜更

古田用山藥酒以今揚大試之今宜之  
和無以和今昭念心少在溪則果其升  
一古田用山藥酒中其入一古田用山藥酒

廿七日

傅到在出酒公成後後

清國之人何也

古田用山藥酒中其入一古田用山藥酒  
古田用山藥酒中其入一古田用山藥酒

古田夜更

古田夜更

古田用山藥酒中其入一古田用山藥酒

古田夜更





鋼河子神

山字利七  
山字德秀  
代印本

有子名正

許國公名 行有公通字子正

以服先公為節 程中回原在正

但許國公名正 許國公名正

口名

一 山字利七

山字利七 山字利七

山字利七

一 山字利七

山字利七

山字利七

山字利七

山字利七

山字利七

山字利七

山字利七

山字利七

一 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公...

一 濟陽公知公

濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公...

本國公

一 濟陽公知公

濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公...

本國公

一 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公...

本國公

大分

一 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公...

本國公

濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公... 濟陽公知公...

一 简

右即

右冲城首之怪我冲一冲之冲也

冲之冲也

一 冲

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

一 冲

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

冲之冲也

行公之政之甲...

以...

一 右...

...

一 右...

...

右...

一 右...

...

一

...

...

右...

...

...

...

一

...

...



一 此乃... 此乃... 此乃...  
 一 此乃... 此乃... 此乃...  
 一 此乃... 此乃... 此乃...

一 山部月...

一 此乃... 此乃... 此乃...  
 一 此乃... 此乃... 此乃...

一 山部月...

一 此乃... 此乃... 此乃...  
 一 此乃... 此乃... 此乃...

一 山部月...

一 山部月...

一 此乃... 此乃... 此乃...  
 一 此乃... 此乃... 此乃...

一 山部月...

一 山部月...

一 此乃... 此乃... 此乃...  
 一 此乃... 此乃... 此乃...

他日秋來身事多  
且與君同飲  
乙未年秋

# 共九首

一 仙到如往出少烟  
且與君同飲

去去秋深  
清遠

乙未年秋

一 空手遊秋氣  
清遠

甲子年

乙未年秋

一 此時多事  
清遠

一 空手遊秋氣  
清遠

一 空手遊秋氣  
清遠

一 空手遊秋氣  
清遠

一 空手遊秋氣  
清遠

一 空手遊秋氣  
清遠

一 空手遊秋氣  
清遠

乙未年秋

右側の信札は、水戸藩中書省より  
出たものと推察される。

海防の急務に  
対応するに  
中書省より

右側結小片は、  
信札の断片と推察される。

一 信札

新島嘉十郎公に  
送るに  
付

一 信札

右側の手紙は、  
信札の断片と推察される。  
海防の急務に  
対応するに  
中書省より

信札の断片



草木之系 目録

五

口 三本

五

口 二本

五

草木之系 目録

草木之系 目録

草木之系 目録

出石藩

御用部屋日記

弘化

二年

七月

出石町公民館蔵

弘化二年

御用部屋日記

七月





一 穿社穿州 遊

十六日

高石塔崇古

十七日

心光院觀音

十八日

地藏宗

廿一日

山之天振

二 古之遊

河上祖松寺江蘇廣德寺龍興寺  
吳中三山寺多寶寺一山寺  
書月山公現之山寺

六月初六日 即光祖松

徑王寺

六月初七日 大慈院松

昌念寺

六月初八日 天眞院松

寶幢寺

六月初九日 寶相院松

六月初十日 大興院松

六月初十一日 法光院松

六月初十二日 淨光祖松寺

六月初十三日 越山松

古松寺

古松寺

一 四小姓伝

事實は却て中絶云々  
中絶は後世に傳へる

漢井物語

古蹟

行状の事は別紙に記す 長巻宛

古蹟は不文云々

中絶の事

中絶の事

中村書

目不及向

三三二部

古蹟の相

所載の上は上中絶の事は別紙に記す

古蹟 中絶の事は別紙に記す

中絶の事は別紙に記す

古蹟の事は別紙に記す

古蹟

漢井物語の事は別紙に記す

漢井物語の事は別紙に記す

漢井物語の事

此は此の御札に以て之を道九條文に  
刻すといひ書すお念ふ事

一 乃之通印白の上段

書之之通方御書者之

山之内

乃之通印白の上段御書者之

乃之通印白の上段御書者之

十月日

堀新九郎

白田守

乃之通印白の上段御書者之

一 乃之通印白の上段御書者之

乃之通

一 乃之通印白の上段御書者之

倉本柴更

乃之通印白の上段御書者之

一 乃之通印白の上段御書者之

乃之通印白の上段御書者之

乃之通印白の上段御書者之

乃之通印白の上段御書者之

乃之通印白の上段御書者之

小林新九郎

一 体白 行日非之也 固也 建德 建德  
子以也

心非正也 心非

政也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非 卷

一 体白

行日非之也 固也 建德 建德

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非

心非正也 心非





一 敬告各界  
二 敬告各界  
三 敬告各界  
四 敬告各界

敬告各界  
敬告各界  
敬告各界

敬告各界

敬告各界

敬告各界

一 敬告各界  
敬告各界  
敬告各界

一 敬告各界

敬告各界  
敬告各界  
敬告各界

敬告各界

敬告各界

一 敬告各界

敬告各界  
敬告各界  
敬告各界

寶國流板  
好意台  
昌意亭

許世英  
紅石谷

古今的相動位申途

今的昔登 許世英

天高流板

從春流板 許世英

徑立亭 東曉亭

許世英

許世英

許世英

許世英

許世英

許世英

許世英

許世英

一先月廿九日

之陳國平公

友心

節姑如家方家之弟正難  
之之之難如之之難如之  
出如如之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之

周仲若存始  
中之中之中之中之

之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之

一、...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

一、...

四

...  
...

...

...

...

一、...

...

...

...

...

...

一 白

一 体白

中月昔之後因古概流中酒之定先  
心家表先月世二日出路使此表及更  
相也之身

中表極至中概流此成法之定先  
中月表之身中法用也之通

一 前  
一 辭賦之間以中月表之身中法用也之通  
以下世代之身中法用也之通  
中月表之身中法用也之通

一  
自表流記  
中月表  
中月表  
英國中

右今胡中初也

一 六事身中表也

中月表之身中法用也之通  
中月表之身中法用也之通

中月表之身中法用也之通  
中月表之身中法用也之通  
中月表之身中法用也之通  
中月表之身中法用也之通

行附

力波子母板

三言三言  
在子 如

果亦松子以... 行... 行... 行...

二言波子母板

身母行

中看山... 行... 行...

力波子母板  
California

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

力波子母板

寶相院之取  
宗院等  
涉施院之身

一 頃今相 此父昔年結之因申續  
中不短於生

此處無二言及出矣  
丹信無生約生申村  
此處之身由他生之  
此處之身由他生之  
此處之身由他生之  
此處之身由他生之  
此處之身由他生之

Asa 曇小兩

一 古之乃為事財者必過中一節之出後  
個法概短申之  
一 所見才極少之為矣小之及也  
中一之

知在方之  
自不國受

病疑對之在分  
引之在分  
一 柳互理  
道之在分



一 法界之...

法界之...

一 法界之...

一 法界之...

法界之...

一 法界之...

法界之...

一 法界之...

法界之...

一 法界之...

法界之...

一 行系紅樹一樹年長林如也  
修身處事方寸自持不為外物所動  
精心一處自得清心寡欲之益  
少思少慮少言少動一談公口  
口談

一 口口口口

言時物人自取  
日書其知也

張其田

一 古... 口口口口

此心此

修心一處方寸自持  
出法不為外物所動

一 口口口口

身周流揚大化是事  
於心處行口口口口

一 作同司本有... 亦同司本有...

人... 景

一 作同司本有... 亦同司本有...

大自院... 信光院... 信光院... 信光院...

亦同司本有

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

亦同司本有

亦同司本有

亦同司本有

一 作同司本有... 亦同司本有...

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

亦同司本有

亦同司本有

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

一 作同司本有... 亦同司本有...

信光院... 信光院... 信光院... 信光院...

一 此書流傳之始... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄

一 此書流傳之始... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄

一 此書流傳之始... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄  
... 錄



一 友之遊 樂於遊也

山月如如

作如

西意文の事

一 西意文

西意文乃山月如如之事也

山月如如乃西意文之事也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

九日 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 友之遊 樂於遊也

一 中山先生

革命之目的

三民主義之真諦

中山先生之遺教

中山先生之革命

中山先生之民族

革命之真諦

一 國策

中山先生之革命

中山先生之民族

中山先生之革命

中山先生之革命

中山先生之革命

中山先生之革命

中山先生之革命

中山先生之革命

中山先生之革命

中山先生之革命

革命之真諦

十日晴

一 例刻出过

冲目气后何古城地出内气中上

大意院板

冲代者

冲施院板

御生六分

冲志院板

冲公法

冲中法板

冲今的

冲之

冲国

冲国

冲国

冲国

冲中

冲

冲中

冲中



一 留學歐美  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

一 留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

一 留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

一 留學歐美各國

留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國  
留學歐美各國

竹石 世尊

一 不待所到出此心物之自性

妙不可言

（即此心物）  
妙不可言

自性即心

古语曰：自心即佛，自性即心。

心即佛，佛即心，心物不二。

一 佛性即心，心即佛性。

心物不二，自性即心。

心即佛，佛即心，心物不二。

心物不二，自性即心。

心即佛，佛即心。

自性即心

古语曰：自心即佛，自性即心。

心即佛，佛即心，心物不二。

心物不二，自性即心。

一 佛性即心，心即佛性。

心物不二，自性即心。

一 篇雅俗 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

一 文政九年九月

多喜雅俗 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教

一 篇雅俗 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教 涉及法教

十二日 晴

一 例划出仕口小物已以法核数

出仕口小物 似有因故

一 出仕口小物 核数

一 出仕口小物 核数

一 出仕口小物 核数

一 出仕口小物 核数

一 出仕口小物 核数

其书按物子中必先之出者大格  
形公下以之按之由之按之有今格  
其书以先之按之由之按之有今格  
中书以先之按之由之按之有今格  
其书以先之按之由之按之有今格  
中书以先之按之由之按之有今格  
其书以先之按之由之按之有今格  
中书以先之按之由之按之有今格

已

一 聖人之道  
先其心後其言  
行而後言

聖人之行

一 君子之道  
先其心後其言  
行而後言

一 聖人之文  
先其心後其言  
行而後言

文而後言

一 聖人之言

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

已正其言  
也其入用之

四

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

定而

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

不修

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

大不修

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

不修其言  
也其入用之

一 聖人之言

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

一 聖人之言  
先其心後其言  
行而後言

一 古之海也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也

靈氣之舞 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也

乃其地之靈也

乃其地之靈也

乃其地之靈也

一 乃其地之靈也

乃其地之靈也

乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也  
乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也 乃其地之靈也

告白

夕方清雨

一 告白

一 告白  
行自是改何法補益中細心公  
一 告白

高月十日 抄取上卷出  
此知者公若知是  
行自是改何法補益中細心公  
也

告白

一 告白

告白  
行自是改何法補益中細心公

行解法

告白

行解法  
行自是改何法補益中細心公

告白

行解法  
行自是改何法補益中細心公

告白

告白

行自是改何法補益中細心公

告白

十五日 西平版

一 佛经云：法用善牛，其时亦在

此牛，何人主，何人主，何人主

一 且云云：法出，定云云云云云云

佛公结法也

法出之，法出之，法出之

法出之，法出之

法出之，法出之

法出之，法出之

何上

一 盆中，有佛刹，有佛刹，有佛刹

被，作出，作出，作出

作出

十五日 平版 大雨

一 例刻，刻在佛刹，刻在佛刹，刻在佛刹

申上



一 御兄方振方官為賀小出上候書信上

一 例之通 御月見夜

作付申候斗少院被遊河上可項本之任

守月見之夜  
者賀小出

御小姓廣

守月人

櫻井一平

十六日

一 休日 御月見夜何時被遊河上可項本之任

十七日

一 例刻先在小出御月見何時被遊河上

大急院振方官

仙石不馬助

去若院振方官

一 友之親 御儀者相勤御儀上

仙石内儀分

御儀者

御儀者  
御儀者  
御儀者

田中勘兵衛

其人必自是而通於天下者也

者公

弘道版七緯設初

少書編後

才因三難

右之道

作有法會之月地志存心也

者公

弘道版初

引書後

真所化書

右之道

作有法會之月地志存心也

三書編後

作有法會之月地志存心也

弘道版

相和名葉公之友

少序以後

他書

作有法會之月地志存心也

弘道版

少序以後

若中友下友

海作

若因及爾

乃之道於少月地志存心也

弘道版

若中友下友

若因及爾

若及若他分以余亦少月地志存心也

若及若他分以余亦少月地志存心也

同人

若及若他分以余亦少月地志存心也

但亦有遠之若以講新舍侯也候何若勤也

石通云 你曾言及今秋及

但石通云所說及今秋及

石通云所說及今秋及  
石通云所說及今秋及

石通云

石通云

石通云所說及今秋及  
石通云所說及今秋及

石通云

石通云

石通云

石通云所說及今秋及  
石通云所說及今秋及

石通云

石通云

石通云

石通云所說及今秋及

抄心好... 抄心好...

七月廿七日

抄心好...

抄心好...

抄心好...

抄心好...

抄心好... 抄心好... 抄心好...

十一日 抄心好...

抄心好... 抄心好... 抄心好...

十一日 抄心好...

抄心好... 抄心好... 抄心好...

抄心好...

抄心好...

古之教家也乃為之誠為其後世之師也  
形書之公乎列於西海之北也  
其心也

一 古之教者言出之則使今使只使  
相違り也

所為極其法極其法極其法極其法  
其行亦其法極其法極其法極其法

一 古之教者言出之則使今使只使  
相違り也  
其行亦其法極其法極其法極其法

12  
古之教者言出之則使今使只使  
相違り也

古之教者言出之則使今使只使  
相違り也  
其行亦其法極其法極其法極其法

一 古之教者言出之則使今使只使  
相違り也

Handwritten text in cursive script, likely a preface or introduction, starting with characters like '予' and '公'.

Main body of handwritten text in cursive script, containing several lines of prose.

Second section of handwritten text in cursive script, appearing as a separate paragraph or entry.

Final section of handwritten text in cursive script, possibly a signature or concluding remarks.

下午九

前日經廣濟社主任  
汪精衛先生之批

汪精衛

即前日經廣濟社主任汪精衛先生之批  
汪先生對本會之批評，其詞甚切，實為本會之  
前途着想，誠為難能可貴。本會同人，當即  
集議，決定由本會同人，分頭向各機關，請  
示意見。以期改進。此致 汪先生 敬啟

一 留世日

貞慕流梳頭 2022  
行書好 123456789  
清石代 123456789  
家大人 123456789

書日 恒者

一 留世日

法光院板  
沙志の序  
東漢寺の序

磯野の序

白雲の院板  
沙志の序  
信公の道今細修の序  
竹代香相勅

松石の書物

孝老の相板の序  
助女地系取書取札  
の序  
四所書後吉地系 海國の

竹村の書物

山崎の書物

法光院板  
沙志の序  
東漢寺の序  
磯野の序  
松石の書物  
竹村の書物  
山崎の書物  
竹代香相勅  
信公の道今細修の序  
助女地系取書取札  
の序  
四所書後吉地系 海國の  
孝老の相板の序  
助女地系取書取札  
の序  
白雲の院板  
沙志の序  
東漢寺の序  
磯野の序  
松石の書物  
竹村の書物  
山崎の書物  
竹代香相勅  
信公の道今細修の序  
助女地系取書取札  
の序  
四所書後吉地系 海國の

古の序の文の板の序の書物



高野一孝先生の遺稿

第一巻 世情

一 傳

行内先生の自傳

一 家内傳

高野一孝先生の遺稿

中絶一巻

編者高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

高野一孝先生の遺稿

今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也

今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也

今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也

今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也  
今年来未出外由往來之山都之方是  
一程之山都之方外山都之方也

此乃我之真面目也  
非我之真面目也  
非我之真面目也

古今中外  
海内  
海内  
海内

一 行名  
一 行名  
一 行名

姓名  
姓名  
姓名

姓名

一 姓名  
一 姓名  
一 姓名

曹公 解

一 体

行日名及何正...

大雲院板

...

...

古今的相動...

...

...

...

...

一 世...

...

...

...

一 友之通...

...

...

...

...

...

...

...

古雨約

備維姑且子其心其日其公其其和

此為 七言

啟和 許其年其公其其德

其年其公其其心其其德

一 其之德也 其年其公其其心其其德

中國也 許德

德維姑且子其心其日其公其其和

其年其公其其心其其德

大書其年

但少其年其公其其心其其德

其年其公其其心其其德

一 松意流松其心其日其公其其和

其年其公其其心其其德

許其德也其心其日其公其其和

其年其公其其心其其德

大書其年

其年其公其其心其其德

其年其公其其心其其德

一 山園詩

山園詩  
山園詩  
山園詩

山園詩

山園詩

一 何刻也此山園詩

何刻也此山園詩

何刻也此山園詩

一 右之詩也此山園詩

右之詩也此山園詩

右之詩也此山園詩

一 松海流柳詩

松海流柳詩

一 山園詩

山園詩

一 山園詩

山園詩

行海 其言 行海 其言 行海 其言

宗其

古有之通之曰性之曰精之曰  
身之曰中之曰精之曰中之曰精之  
也

出州人

出州人

出州人

出州人

出州人

古有之通之曰性之曰精之曰  
身之曰中之曰精之曰中之曰精之  
也

此法通中之物其法如也  
其法如也其法如也其法如也  
其法如也其法如也其法如也  
其法如也其法如也其法如也

一 舞

一 舞

行月之河向吉城海平納也心

一 涉新物信於身  
信於心 國語表公

一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

427

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也

一 一 右之期相親也



之...  
...

七月十二日

...

...

...

...

...

七月十二日

...

...

七月十二日

...

...

...

...

...

...

1575

無中

承

承

長

右

代

抄

一

行

國

中

一

所

一

為

為



1. 11月11日 星期一 晴  
今日无事

今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事

今日无事  
今日无事

今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事  
今日无事

1. 11月11日 星期一 晴  
今日无事

今日无事

今日无事  
今日无事  
今日无事

少時

四  
山  
入  
心  
友

長安同籍  
 周中修出  
 在書白事  
 定日角志  
 中區署寫  
 小林亦亦如  
 陳村書又  
 如剛修志  
 梳田地師  
 晉書書之  
 村山張知  
 城口新中  
 沙里原以和  
 漢拜家  
 山林志志  
 多系書  
 年回書  
 書修修

國日書院  
書院

書院

一 例於也止出...  
一 行國之...  
一 軍武何之...

書院

書院

書院

書院

古於...  
作身之...  
一 例於也...

書院

古於也書院...  
物也...

敬極...  
行德...

一 乃之...  
...

行信收  
書  
廣之通

定日通  
核心通

四行  
四全收

田村書

廣之通  
書  
廣之通

廣之通  
書  
廣之通

村山書

廣之通  
書  
廣之通

廣之通  
書  
廣之通

廣之通

小村書

地

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

廣之通

宣统元年  
十月五日  
申台书初八

江西书申台  
宣统元年十月五日  
申台书初八

河南书公同  
宣统元年十月五日  
申台书初八

湖南书公同  
宣统元年十月五日  
申台书初八

一 宣统元年十月五日  
湖南书公同  
宣台书初八

宣台书初八  
宣台书初八  
宣台书初八

宣台书初八  
宣台书初八  
宣台书初八

宣台书初八

宣台书初八  
宣台书初八  
宣台书初八

宣台书初八  
宣台书初八

宣台书初八

宣台书初八

宣台书初八

宣台书初八

宣台书初八



片裝板竹之類

山林之類

枕田之類

新對之類

重由者亦亦

曲則值之類

如有事及之類

中西之類

海陸之類

名聲之類

山何多之類

中西之類

中西之類

中西之類

中西之類

一 古自多皆書有 西出書人皆書 西人

中西之類

一 古之通也 西人中西之類 古之類

中西之類 古之類 西人之類

中西之類 古之類 西人之類

中西之類 古之類 西人之類

到者持券本票以  
商

宣統元年

得此券者之始幸  
所應之持券人持券  
者其之與之七年者  
其年一也 其年一也  
其年一也 其年一也

一 乃之通台也

宣統元年

其年一也  
其年一也

宣統元年

其年一也  
其年一也

宣統元年

其年一也  
其年一也

宣統元年

其年一也  
其年一也  
其年一也  
其年一也

其年一也  
其年一也  
其年一也  
其年一也

不若其地之... 亦不若其地之...

七月廿九日 新影部

山内市

一 古之... 亦不若其地之...

一 所... 亦不若其地之...

一 如... 亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

一 亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

一 亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

亦不若其地之...

一 因 事

七ノノ通於係房中ノ事

上ノ秘因ノ事  
下ノ命ノ事  
中ノ事

此等ノ事  
事七ノ事  
秘因

多ノ事  
中ノ事  
改ノ事

此等ノ事  
事七ノ事  
秘因

改ノ事  
中ノ事  
多ノ事

此等ノ事  
事七ノ事  
秘因

多ノ事

此等ノ事

多ノ事  
中ノ事  
改ノ事

此等ノ事  
事七ノ事  
秘因

此等ノ事

此等ノ事

此等ノ事  
事七ノ事  
秘因

廿九日 暑天未晴

一 傳

所自之何法極短中極長  
一 已中養善月去日公列使善氣  
所與極長法極短中極長  
此法中中中中中中中中

海日 晴 二 百十日

一 何刻知江中何處

一 何因氣以何子極短中上

後得我之分今日  
出仕見各區中  
若新九尋

一 何久也  
何久也  
子川公

何久也  
何久也  
何久也

善光院如  
法王太子

徑呈奉

法王太子  
聖旨

有今相本朝之臣申述事人等

所請

一 甲 姓 波 蓮

以 此 所 請 無 異 於 此 前 之

及 此 所 請 亦 亦 如 此 及

自 力 亦 善 且 利 亦 係 任 務 亦 亦 亦 亦

世 人 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

七 九 聖 旨

一 章 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

中山御所

後 御 聖 旨

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 只不姓以道

汉所为集素素

是之像人高素

才之像人

所像像之像素是素之素之素

中像也中像素之素之素

所像

素回素

素像像像素素

素像像像素素

素像像像素素

所像

素回素

素像像像素素

素像像像素素

素回素

素像像像素素

素像像像素素

素像像像素素

素回素

素像像像素素

素像像像素素

一 守子抱術

志固忠貞

古事月十日奉送

所送名帖

你公在江口為中道有為者之語。  
向之申後之公口口口口申後

以 所送名帖送呈

有保收據

以 每申編校者及送所

有保業之我些道送任也亦之我保

以 持申道



出石藩

御用部屋日記

弘化二年八月

出石町公民館蔵

弘化二年

御在藏

日記

早川店簿

八月小彼岸入十九日

清年志  
 小川庄信  
 小出正徳  
 国部長  
 不同庄内  
 不同庄内  
 波多助  
 竹村信  
 松井重  
 中山  
 杯  
 田中  
 永井

廿二日  
 陽日

早川庄信  
 小出正徳  
 国部長  
 不同庄内  
 不同庄内  
 波多助  
 竹村信  
 松井重  
 中山  
 杯  
 田中  
 永井

火消

金沢  
 国為

定規

舟木  
 法村

祝日為

一 案府出仕出納人久初出後復自來上

一 清見今極方上為賀出仕後為上

一 出仕

仙名内記

一 出仕清見初出仕今為賀

山中九平所書

一 柳正記

一 後亦助出仕久各存上

改所高以

一 存上 清見為 清見 清見 清見

一 例出通計

一 今秋 清見出仕為初出高方仕

上

一 先月平家平人別増成書之同出仕上

一 寅人之書

一 先月平家地土上仕仕高相賀上

月

一 守時出仕上

一 守時出仕上

守時出仕

守時

一 山觀武元之道

一 清世年表仙若肉感第一折且以帝元

清月見中身年山統建武河多子德本之生年

一 山書院之 清公在

清者死於此之間有月公山也及人善友

清月見中身年山統建武河多子德本之生年

一 田原之會之圖之公山也及人善友

清世年表

清月見中身年山統建武河多子德本之生年

一 大書院之 清公在

清者死於此之間有月公山也及人善友

清月見中身年山統建武河多子德本之生年

清者死於此之間有月公山也及人善友

一 山觀武元之道

右之也之公山也及人善友

御座候是 御合之儀宛所一御見也

松平左衛門守屋 上之右衛門 古伝書之儀宛所

長崎由良下十右衛門

少右衛門守

若月守之吉 宛所之儀也

十右

其

松平左衛門守屋

又右衛門

一 御見

右田守屋守之吉 宛所之儀也

右田守屋 又右衛門

一 御見

池田守屋守之吉 宛所之儀也

左田守屋

清澄 松平左衛門守屋 宛所之儀也

一 御見

松平左衛門守屋 宛所之儀也

松平左衛門

一 御見

松平左衛門守屋 宛所之儀也

松平左衛門 宛所之儀也

一 御見

中野學所  
一病 二病

方  
代  
代  
代

石 内務省

一 内務省

内務省 中野學所

二 内務省

一 内務省 中野學所

一 内務省 中野學所

所  
所  
所  
所

牧

大  
大

大  
大  
大

大

大

一 今者公之自為君子則其出矣破地之之到也公之  
實之出也公之出也公之出也公之出也公之出也  
存之也

宋江渡

新地年

卷一

出之公之出也公之出也公之出也公之出也  
出之公之出也公之出也公之出也公之出也  
出之公之出也公之出也公之出也公之出也  
出之公之出也公之出也公之出也公之出也  
出之公之出也公之出也公之出也公之出也

友國年

卷一

出之公之出也公之出也公之出也公之出也  
出之公之出也公之出也公之出也公之出也  
出之公之出也公之出也公之出也公之出也

存之也

存之也

存之也

存之也

徒是 方月又四

廿  
出有厚意

在年之... 何... 医... 相... 友... 也... 及... 系...

在... 二... 月... 九... 日... 亥... 时...

友国年

在... 所... 究... 之... 精... 义... 之... 不... 可... 少... 也... 以... 此... 故... 亦... 有... 友... 也... 乃... 在... 固... 也

一... 大... 中... 心... 之... 意... 亦... 有... 其... 在... 也... 所... 能... 因... 此... 而... 不... 足... 以... 为... 也

以... 力... 也

为... 此... 年... 之... 中... 也... 亦... 有... 其... 在... 也

出... 九... 也

此... 意... 也... 亦... 有... 其... 在... 也... 亦... 有... 其... 在... 也

固... 也

三

一... 休... 日... 清... 月... 之... 夜... 何... 哉... 亦... 有... 其... 在... 也

一... 江... 表... 亦... 有... 其... 在... 也... 亦... 有... 其... 在... 也



一 九子通六十七年九月

自是年九月五日

大德

亦有原身

友同年

一 明初出家及家所苦... 清佛... 住...

四

一 例... 住...

一 六分 所... 乞

住... 院... 松...

天... 真... 院... 松...

大... 身... 院... 松... 另...

右... 通

清... 佛... 法... 住... 佛... 通... 同... 松... 清... 覺

清... 公... 清... 佛... 九... 山... 或... 為... 松...

清... 佛... 松...

一 清河段月夜夜中流月夜生

一月夜生

楊州神功海月夜生  
少林年年生  
少林年年生

少林年年生

一 書及在楊州月夜夜生

書及在楊州

一 書及在楊州月夜夜生

書及在楊州

一 書及在楊州月夜夜生  
一 書及在楊州月夜夜生

書及在楊州

一 書及在楊州

一 書及在楊州月夜夜生

書及在楊州

書及在楊州

一 書及在楊州月夜夜生  
一 書及在楊州月夜夜生

書及在楊州

一 書及在楊州

一 書及在楊州月夜夜生

書及在楊州

一 予之志也為後世移耳目也此後學也

世之所謂

三期之入傷力也此後學也

未也

新書者有以之曰後學也

少年之徒  
今田中元

此後學也

### 右之通書人云

蓋少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也

此後學也

大坂  
比田中元

夫少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也

此後學也

一 少後人新書也古色何後學也

所引之書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也  
一 少後人新書也古色何後學也

希上先生

弘化二三年七月

信内寄寄

二六六

一 寺社奉行上

物言律中少物之松竹易布父  
乃中少松竹三年之寺社奉行上  
若乃寺社奉行上松竹三年之  
乃寺社奉行上松竹三年之  
乃寺社奉行上松竹三年之  
乃寺社奉行上松竹三年之  
乃寺社奉行上松竹三年之  
乃寺社奉行上松竹三年之  
乃寺社奉行上松竹三年之

不修也

比内寄寄

松竹三年

清仁也 清松竹三年

清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年

有也相松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年  
清松竹三年 清松竹三年

一 寺社奉行上

信内寄寄

信内寄寄  
信内寄寄

有也相松竹三年

六日

一日

清月竟後復然於中流之矣

六日

一日

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

仙居在焉

友之類

清月竟後復然於中流之矣

清月

清月竟後復然於中流之矣

一

清月竟後復然於中流之矣

清月竟後復然於中流之矣

仙居在焉

一

清月

清月竟後復然於中流之矣

仙居在焉

清月竟後復然於中流之矣

仙居在焉

一 所有分

有由

河

法教在社... 年... 後... 後... 相... 的... 笑... 之... 之...  
 一 速... 後... 年... 法... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 第... 少... 業... 相... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 教... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 知... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 亦... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 在... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 若... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 下... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 一... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
 一 下... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

八

七日

仙居山房

一 仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

一 仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

一 仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

仙居山房

右記の如く  
松平の如く

此は松平の如く  
云々  
此は松平の如く

白田

一 白田

右記の如く

右記の如く

白田

右記の如く

神田

一 白田

右記の如く  
松平の如く  
云々  
此は松平の如く  
云々  
此は松平の如く



一 友の書

一 友の書 其の書

一 友の書 其の書

一 友の書 其の書

一 友の書 其の書

一 友の書

一 友の書

一 友の書

一 友の書 其の書

一 友の書 其の書

一 友の書

一 友の書 其の書

一 友の書 其の書

此後又復多病上府公命の事

右通前名

八月

一 實全

乃通前名十餘元方山山寺

市川山房

山元月

りまて

北橋

七

一 白

休言のん秋末弘運

清山在右の山房寺在右の山房寺

山房寺

秋末弘運

弘運

仙居

山房

六月 清山弘運

清山弘運 清山弘運

清山法行... 清山法行... 清山法行... 清山法行... 清山法行...

但... 但... 但... 但... 但...

九日

一 休日 清山竟後何...

一 宿...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

清山...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

清山...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

清山...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

清山...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

一 宿... 宿... 宿... 宿... 宿...

清山... 清山... 清山... 清山... 清山...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

... 宿... 宿... 宿... 宿...

見奉るに  
御座り  
一ツツ

英國大印

大分縣 川内藩 藩政 藩政

一 大分縣 川内藩 藩政

尾張大納言 藩政

公方 藩政

在矣 藩政

藩政 藩政

藩政 藩政

藩政

藩政

英國大印

藩政 藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

藩政

大分縣 川内藩 藩政

藩政

英國大印

宋程一但

十一日

以松平起學  
尾藤大納言

右方初見  
出言分疎也

川内初見

寅入

右方初見は大切なる所也

七月廿三日

尾藤大納言之教以松平中列遊云々  
以爲七月廿三日也

右方

公方松平大納言云々  
公方松平大納言云々

七月廿三日

全平之教

山内大納言

山内大納言

右方尾藤大納言之教  
尾藤大納言之教  
尾藤大納言之教  
尾藤大納言之教

尾藤大納言

尾藤大納言

右方尾藤大納言之教

尾藤大納言之教

山内大納言

七月廿三日

尾藤大納言之教

一  
一  
一  
一

公孫孫 奕怡存為修家規也  
丙午歲次

一 丙午初九日  
丁未年

一 在國正色  
化正國正色

一 善信  
大人也

七

一 保正年  
以禮治也

一 保正年  
丁未年

六

一 公孫孫  
丙午年

七

一 丁未年

丁未年  
丙午年

古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古  
古

一 例刻在什坊山以昭其始

山北

仙岩山

一 若七言定句者多已按此所始古矣  
如法華經云其始作此句者

仙岩山

一 常身院林法寺有石公刻法出氣源寺

法佛居在 法出之界三周

法出見創之通寫要 法所 法出所

一 法所後山南山以昭其始

山北

仙岩山

一 在東山寺之南

法出之在寺 法出所

一 法出所屬在法出之南

法出大納之極之月正日

公言

右大將原法出後寺 法出之極之月正日

法出教之志來在法出之南



作書以候其意下其意也其意也其意也  
下其意也

八月十日

四川成都

此後

此後以公事元別入其意也其意也

一 右書函原為書下知下生則存相稱後為  
下其意也其意也

一 右在事行之

此後

此書中谷德如文林後下市中中其少矣  
其意也其意也其意也其意也其意也  
此心相款多何午格別之

所懷甚所評各其意也其意也其意也  
而通以公其意也其意也其意也其意也  
乃其意也

一 右書函原為書下其意也

一 八月十日

此後

法利... 中... 十八...  
... 及... 存...

一 右... 所... 所... 所...

一 中... 所...

多... 所... 所... 所...  
... 所... 所... 所...

... 所... 所...

十一日

一 休... 所... 所... 所...

一 亦... 所...

以... 所... 所... 所...  
... 所... 所... 所...  
... 所... 所... 所...

... 所... 所...

十二日

一 地... 所... 所... 所...

地... 所...

... 所... 所...

右台竹爲 泚洗木書院

泚山在公卿泚年春大田河至之同山在泚溪至

泚山在 泚山見 泚山在

泚山在 泚山在 泚山在

泚山在 泚山在 泚山在

泚山在 泚山在 泚山在

泚山在 泚山在 泚山在

人教在泚人

王教乃九十八

中乃七十八

泚山在泚山在泚山在

右子言 泚山在泚山在

小布

· 泚山在泚山在

· 泚山在泚山在

· 泚山在泚山在

· 泚山在泚山在

· 泚山在泚山在

· 泚山在泚山在

· 泚山在泚山在

一折

子川

右田

右折

折見

折見

折見

一

折見

折見

折見

折見

一

折見

折見

折見

折見

折見

折見

折見

一

若已平核見有途

田分  
光

山中  
可安

一町年行上

以也於海所本也

一教免  
有誤

一町

本國所公者  
後受勳者  
而山公者  
名名者  
川公者  
此代者

高山年者

松山公者  
約井公者  
名名者  
名名者  
此代者

少者  
名者  
新免

大徳王在之殿  
三ノ六  
八ノ年

家山 孫  
清和

一 少男之

一 又廣の市中味と道は後大九ノ山所は心平也

- 一 阪上女は右女也
- 一 一ノ武乃七本女也
- 一 一ノ口乃女也

一 又廣の市中  
味と道  
後大  
山所  
心平也

一 九ノ山

若名  
山後名  
加

川上名

右ノ山

右田名

一 右ノ山

清院名  
清院名  
清院名  
清院名  
清院名

橋井名

在角由命之刻名以少丹廣之合渡道之記名也

但丁之界引大者書局之記名  
一古之國也其人有名曰...

一 乃通山與今之記名

山由山也

山由山也  
山由山也

本間木也

山由山也

一 素在平野山與今之記名  
山由山也

山由山也

山由山也

一 古之山也

十三日

一 休日 清月竟後何處於山由山也

一 古之山也

山由山也

山由山也

山由山也

一 右方... 清月... 仙客... 良人

一 右方...

身中... 清月... 仙客...

一 右方... 仙客...

一 右方... 清月... 仙客...

一 右方...

十四日

一 右方... 清月... 仙客...

一 右方... 清月... 仙客...

一 右方...

一 右方... 仙客...

一 右方... 清月... 仙客...

一 右方... 清月... 仙客...

一 右方... 仙客...



石上道生為其子孫名之曰

十名

一 仙刻出仕少卿一子以為其長後世榮望上

一 清光寺住持者實其長後世榮望上

一 公孫

仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

一 仙刻為公

一 仙刻為公

一 仙刻為公

一 仙刻為公

一 仙刻為公

一 仙刻為公

一 仙刻為公

仙刻為公

一 仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

仙刻為公

石鼓

清卷 恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

常如少壯

三原半日收

一石如物如故

斗室半老仍居

不似在日

亦有其人

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

清卷

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

斗室半老仍居

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

斗室半老仍居

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

恒心守道者少矣任

斗室半老仍居

恒心守道者少矣任

子安 壬午十月

此可也

右通下段の各段の事

少者之反

右段の事 此は乃年午午に空に在る實力也

友

一 寅

右段の事 此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

此は乃年午午に空に在る實力也

十一

右 清月覺後復然然中雨之空

清月覺後復然然中雨之空

此は乃年午午に空に在る實力也

一 官方之

蘇州府公署公署

上海信局

二 官道之

內用之

金市紙

左之

金市紙

十七日

一 例列之

大德地

收地

春吉地

石王 清地

飛地

石田

右方

清地

清地

清地

清地

作公未嘗有及及國史月書卷之一卷之解  
所中合在

八粒年文

玉粒万十

甲子八十九  
廿多少多氣

一 有年之通

清江合在

右二概

有月 松井雄記

之 有月 麻乃見經年

七年 國西隆亮

少布

△ 田中忠守

△ 小山成以

△ 夏生常次

△ 右田光美

△ 阿井崇吉

△ 松井虎雄

△ 松井孝吉



シハクニクニシテ...

此大坂の如き丸免の如し...

...

實り

内実月ノ...

...

...

右ノ...

一 右ノ...

...

一 右ノ...

...

...

...

...

右ノ...

...

...

...





一〇

其向傳美海船の二は三は  
清原公長が書きたりしものなり  
清原公長が書きたりしものなり

千一四五

一〇

清原公長が書きたりしものなり

寛永八

一一

清原公長が書きたりしものなり  
清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

大月

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり  
清原公長が書きたりしものなり

十六

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

清原公長が書きたりしものなり

在在處處處處處處

處處處處處處處處

處處處處處處處處處處

處處處處處處處處

處處處處處處處處

處處處處處處處處處處

處處處處處處處處

處處處處處處處處處處

十九日

一 例刻在字滿之次新不山從美人之孤族兄弟途往

少說及相與在字中

處處處處處處

一 沙之亦名之字山月名之在及命命字之為也

一 新名三傳本在為之載之有部字之在是為之月

一 及命命字之在及命命字之在及命命字之在

處處處處處處

家範

免其煩

陽

此後及先... 相習... 父... 弟...

一 新... 一 許...

一 許... 一 許...

許...

許...

一 許...

許...

一 許...

許...

化...

此...

一 許...

許...

中野  
山崎

右の如く 清の如く日暮松原

清の如く

此の如く上より下迄の如くす

清の如く山崎中野松原守高の如く

山崎

清の如く 山崎

清の如く山崎中野松原守高の如く

右の如く又山崎中野松原

松原

今松原の如く清の如く

清の如く山崎中野松原守高の如く

山崎

素 清の如く山崎中野松原

山崎中野松原

右の如く 清の如く日暮松原

此の如く山崎中野松原

松原

此の如く山崎中野松原

山崎中野松原

清心之妙用為心法

心法

清心之妙用為心法

清心之妙用為心法

右生於心守為持身

持身

心法之妙用為心法

清心之妙用為心法

心法

清心之妙用為心法

清心之妙用為心法

一 清心之妙用

清心之妙用為心法

清心之妙用為心法

清心之妙用為心法

清心之妙用為心法

清心之妙用為心法

清心之妙用

清心之妙用

清心之妙用

清心之妙用

清心之妙用

右同所記並其卷下

清山石在 清山石之少日多為極高

抄本

今和後之有途江之ミテ少也了之

清山石之少日多為極高在少日多為極高

抄本

清山石之少日多為極高

清山石之少日多為極高

平部定

右同所記之少 清山石之少日多為極高

抄本

今和後之有途江之ミテ少也了之

清山石之少日多為極高在少日多為極高

抄本

右同所記

一 清山石書 清山石

抄本

清山石之少日多為極高

清山石之少日多為極高

清山石之少日多為極高

後田仁高

右山中書尾と云

清見法月高松尾

法月

者云云云云

清見法月高松尾

法月

清見法月

法月

清見法月高松尾

者云云云云

後田仁高

法月

化系中

後田仁高

右田所

法月

者云云云云

清見法月高松尾

法月

法月

清見法月

法月

清見法月高松尾

一 乃也也也也也也也也也也也

山  
山

右 清月之日  
山  
山  
山

右 清月之日

山  
山

山  
山

山  
山

右 清月之日

山  
山

右 清月之日

山  
山

山  
山

右 清月之日  
山  
山

山  
山

山  
山



有月

瑞々々々

山書稿收

山到舟A

同古行

山到舟A

山到舟A

山到舟A

右山系復成此年

瑞々

山到舟A

免之更廣

有月

瑞々々々

山到舟A

山到舟A  
子孫為記

右山系復成此年

瑞々

山到舟A  
子孫為記

一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠...

山經  
一 此年山經不遠...

山經  
一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠...

山經

一 此年山經不遠...

一 此年山經不遠... 一 此年山經不遠...

清佛路に在るは 此の如くは

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

後河三行書

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

右の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

其

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

法光院様

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

此の如くは

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

一 此の如くは 清佛路に在るは 此の如くは

貝赤虎標沙多...

清佛治心...

清山正...

清山正...

清道速比...

清道速比...

清山正...

清山正...

清山正...

清山正...

清山正...

右清道...

右清道...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

右...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

守...

一 小笠原の事

山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...

山崎の事... 小笠原の事...

一 山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...

山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...

山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...

山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...

山崎の中核

山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...

山崎の事

山崎の事... 小笠原の事... 山崎の事...



一 定得之不出舞時在出舞宿之定味之在舞代之舞  
精查湯轉方之在舞代之舞  
中在十分法出統出舞在舞代之舞  
之在舞代之舞

八月十日

比年

一 大皇少皇之舞代之舞  
而不出之舞代之舞

一 方之舞代之舞  
而不出之舞代之舞

一 原原之舞代之舞  
而不出之舞代之舞

一 法則之舞代之舞  
而不出之舞代之舞

古

一 例列之舞代之舞  
而不出之舞代之舞

之舞代之舞

之舞代之舞

一 而不出之舞代之舞

但元命五年丁未... 所定... 亦... 亦... 亦...

長... 亦... 亦...

編... 亦... 亦...

計... 亦... 亦...

報... 亦... 亦...

同... 亦... 亦...

八... 亦... 亦...

子... 亦... 亦...

山... 亦... 亦...

此... 亦... 亦...

一... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

一... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

一... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

一... 亦... 亦...



一 爲 身 中 之 道

方 亦 不 易 爲 者 爲 身 中 之 道 以 友 爲 善 以 信 爲 中 以 忠 爲 初 以 所 知 之 人 爲 友

一 友 道 之 要 則 在 此 友

友 之 道

一 善 德 不 衰

一 以 身 爲 命 而 下

一 友 之 善 德 不 衰 則 友 之 善 德 亦 不 衰 故 友 之 善 德 不 衰 則 友 之 善 德 亦 不 衰 故 友 之 善 德 不 衰 則 友 之 善 德 亦 不 衰

一 友 道 之 要 則 在 此 友

一 以 身 爲 命 而 下

友 之 道

一 友 道 之 要 則 在 此 友

一 以 身 爲 命 而 下

友 之 道

一 友 道 之 要 則 在 此 友

一 以 身 爲 命 而 下

一 以 身 爲 命 而 下

一 以 身 爲 命 而 下

書

山書

左

獨如... 之...

向... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

一... 之...

山書

右... 之...

のやまはな  
清原の 住まひは清原  
おれはなはな  
おれはなはな

不取物  
金持物

世一

例列左 山清のうらめしき

おれはなはな  
おれはなはな

一折馬記

清原のうらめしき

清原見物

おれはなはな  
おれはなはな

清原のうらめしき

おれはなはな  
おれはなはな  
清原のうらめしき

おれはな

おれはな

おれはな

子安

山内  
山内

五山

山内

山内  
山内

五山

山内  
山内

一 右之江戶の所へありし 新地  
一 耳の形もあやうし

清高

之の形もあやうし  
清高の形もあやうし  
右の形もあやうし

子安

山内  
山内

子安

山内

山内  
山内

大書

一曰

山内

山内  
山内

山内

一 乃由度福至分月心

善信出中名不心

在通少家年一多心

八月七日

山月

子月

秋名世起一十心

一 乃由心

乃由心

乃由心

川上

一 乃由心

乃由心

乃由心

乃由心

一 乃由心

乃由心

乃由心

一 乃由心

乃由心

乃由心

馬文

少林

右通... 少林... 少林... 少林...

一乃... 少林...

少林...

田中...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

一乃... 少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林...

少林... 少林... 少林... 少林...

浦口之烟舟

山花如雪  
谷田如麦

江上人家

如入桃源

山花如雪

江上人家

山花如雪

江上人家  
如入桃源  
如入桃源

山花如雪  
谷田如麦

又

山花如雪

谷田如麦

山花如雪

江上人家  
如入桃源  
如入桃源

江上人家

如入桃源

山花如雪

如入桃源

如入桃源

山花如雪

古語云... 此為月... 此為月...

三川...

右...

清...

世...

一 昏 清...

大...

清...

仙...

左...

清...

一 右...

大...

谷...

社...

石...

石...

松...

仙...

月...



後村表文

一 有...

...

山城元文  
協同...

一 守...

偶...

德...

一 守...

清...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 借  
山好福到  
海亦白

可如凡  
以之也

石好亦如春

偏非亦如春

山好亦如春

一 山好亦如春

山好亦如春

山好亦如春

山好亦如春

山好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

石好亦如春

入心 狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

# 狂言

一 例別在 狂言 狂言 狂言 狂言

狂言 狂言 狂言 狂言

狂言 狂言 狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言 狂言 狂言 狂言 狂言

狂言 狂言 狂言 狂言

狂言 狂言 狂言 狂言 狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言

狂言 狂言 狂言 狂言 狂言 狂言

仙方二仙書

仙方二仙書 仙方二仙書 仙方二仙書

一石之田... 仙方二仙書

少福成及

右字... 仙方二仙書

一石之田... 仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

仙方二仙書

所管事務迅速云々  
勢之代會

作之云々

八月廿九日

五月廿九日

山崎中

所管事務迅速云々  
支那云々

一 志 函 山 崎 中 崎 中 崎 中

所管事務迅速云々

一 志 函 山 崎 中

所管事務迅速云々

山崎中

一 志 函 山 崎 中

八月廿九日

五月廿九日

山崎中

一 志 函 山 崎 中

所管事務迅速云々  
支那云々

五月廿九日

一 守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

守身之道

儒雅深於道者其在乎  
清淨寡欲者其在乎  
其心已 清淨也

此乃在陽元之氣也

一月之內

守中守氣守神守心守性守命

守德守法

此即所謂守中守氣守神守心守性守命

守中

守中守氣守神守心守性守命

守中守氣守神守心守性守命

守德守法

守中守氣守神守心守性守命

守德守法

守中守氣守神守心守性守命

守德守法

本心 性良の性多き事可く不問其の性多き事  
月乃と云ふ事は性多き事也 性多き事と云ふ事  
也

一 性多き 性多き中 性多き事と云ふ事

性多き  
性多き事切す  
性多き事

性多き事  
性多き事

性多き事  
性多き事  
性多き事  
性多き事

性多

一 性多 性多性多性多性多性多性多

一 性多性多

性多性多性多性多  
性多性多性多性多

性多性多性多

性多性多性多性多  
性多性多性多性多

性多性多性多

性多

一 性多性多性多性多性多性多性多性多



一 後、志氣は元氣を修む。 物事も人事もよくある

海、志氣し、身、修む、三年、  
修む、五年、修む、以、先、  
不、同、也

一 仙父、仙母、の、事、も、友、も、中、一、の、約、也、記  
父、の、祀、病、も、由、一、の、事、也、母、の、病、も、由、  
父、母、の、事、も、修、む、事、也、  
同、也、  
仙父、仙母、の、事、も、修、む、事、也、  
仙父、仙母、の、事、も、修、む、事、也、

修、む、事、也

一 在、於、天、地、之、間、也、修、む、事、也、

一 仙父、仙母、の、事、也、  
一 修、む、事、也

一 一、有、事、也、修、む、事、也、  
一 一、有、事、也、修、む、事、也、  
一 一、有、事、也、修、む、事、也、  
一 一、有、事、也、修、む、事、也、

一 一、有、事、也、修、む、事、也、

言  
口  
白

翻  
正  
切

一 方 通 竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮  
竹 有 竹 似 皮

大 方 通 竹 有 竹 似 皮

一 方 通 竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

右 方 通 竹 有 竹 似 皮

竹 有 竹 似 皮

一 九三〇年 松本 松本 松本

山本 山本 山本

山本 山本 山本

一 松本 山本

山本 山本 山本

山本 山本 山本

一 山本 山本

山本 山本 山本

一 山本 山本

山本 山本 山本

一 山本 山本

山本 山本 山本

山本 山本 山本

山本 山本 山本

一 山本 山本

松本 山本

山本 山本

山本 山本

松本 山本

山本 山本

山本 山本

山本 山本

多言及此... 此言... 此言...

此言...

右の行... 此言...

此言... 此言...

此言... 此言... 此言...

此言... 此言... 此言... 此言... 此言...

此言... 此言... 此言... 此言... 此言...

此言... 此言...

此言... 此言... 此言...

此言... 此言...

此言...

此言...

此言...

此言... 此言...

此言...

此言... 此言...

此言... 此言...

此言...

此言...

右の如き其處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

一乃て此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

公使

作此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

其處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

作此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

其處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

公使

作此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

其處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

作此處に實人の如き事なきを以て其處を以て其處とす

八月

一 仙翁百子

善信亦人自修之竟

卷

光

五律詩

甲谷片

一 人生苦海无边  
浪起三叠浪无边

卷

一 仙翁百子

仙翁百子

仙翁百子

松城

廿八日

一 体日清月竟 俊何家 在个仙人家

仙父成回山家 仙父成回山家  
父仙成回山家 父仙成回山家  
仙父成回山家 仙父成回山家

仙翁百子

一 仙翁百子

仙翁百子 仙翁百子  
仙翁百子 仙翁百子  
仙翁百子 仙翁百子

仙翁百子

不列颠群岛之历史地理学  
附卷

廿九日

一 列列士在中部之行政区域上

其先世所居之

附卷

其先世所居之行政区域上

其先世所居之

附卷

其先世所居之行政区域上

其先世所居之

一 列列士

其先世所居之行政区域上

其先世所居之

附卷

其先世所居之行政区域上

一 列列士

其先世所居之行政区域上

附卷

一 田舎の子

石川道太郎

入会 叔免

藤村

澄和

一 山崎信子

一 山崎信子

山崎信子 山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子

山崎信子



右の書は又此書より一冊少く取らるる事外馬場信貞の  
手通の袋入の書に在る信貞の書と云ふ事  
し書に在る信貞の書に在る事と云ふ事

一 既見の書に在る

竹月利

一 竹月利の書に在る

竹月利の書に在る

一 竹月利の書に在る

竹月利の書に在る

一 竹月利の書に在る事と云ふ事と云ふ事  
右の書は又此書より一冊少く取らるる事外馬場信貞の  
手通の袋入の書に在る信貞の書と云ふ事

竹月利

竹月利の書に在る

竹月利の書に在る

竹月利の書に在る事と云ふ事と云ふ事

竹月利の書に在る

一 竹月利の書に在る事と云ふ事と云ふ事

竹月利の書に在る事と云ふ事と云ふ事

竹月利の書に在る

竹月利の書に在る事と云ふ事と云ふ事

竹月利の書に在る

出石藩

御用部屋日記

弘化二年九月

出石町公民館蔵

沖在蔵

弘化二年己年

日記 校註家次

九月大

声用者  
声用者  
声用者  
声用者  
声用者  
声用者  
声用者  
声用者  
声用者  
声用者

# 火消

定定定定

致世六部次  
伴四部次  
因致致致  
因致致致  
言心定志  
本间律律  
左田志志  
因致致致  
河地志志  
植松左志  
中村志志  
皆回志志  
弘升志志

杯柱柱柱  
加友四部次

西山平次  
皆男久次

九月廿日

一 例別出仕消入及御蔵通下

一 出仕通

仕者内蔵入

一 出仕通

今相 沖城之御蔵通御蔵通下

一 家内通

先月申上御蔵通御蔵通下  
おとす

一 出仕通

先月申上御蔵通御蔵通下

一 出仕通

九月中七方御蔵

十日

御蔵通

十日

御蔵通

一 出仕通

御蔵通御蔵通下

御蔵通

御蔵通

御蔵通御蔵通下

御蔵通

一 山經卷之三

九月二十日 初旬

山經

也

右例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用  
正色少則公也少則易也

左例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用  
正色少則公也少則易也

一 右例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用

一 左例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用

一 右例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用

一 左例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用

一 右例年之通也初之山椒也山椒持者不食其用

素年二年三月七日  
日四月七日  
蓮如上人三言之獲四言之獲  
方教寺

方教寺

全宗家之末葉年三月  
方教寺  
經經不換給台方教寺

方教寺

一 右の事柄に便於爲す事と爲す事との別を以てして  
中法と云ふ

一 尤も通用人の爲す法

口説き方以て有り  
即ち此等も亦廣く  
其類に在

本則本分

一 用人の在

此中未だ此の月仕切の法を以て

一 張九の言の如く

四

九を百に換へて

材料知り分

百程を二午下に

三層の爲す

十に

山崎科

一 江戸表月十日の別反表等

沖奥梅益沖安春成法此等別表等其  
別表 沖奥因房中 此等表出法別表等

一 此等表等其分表

西村 勇

孫君

孫君

右為分 沖國...

...

...

...

二日

一 傳 沖國...

...

...

沖國...

收...

...

...

一 右...

...

一 今...

...

...

收...

...

出月心候時

作何候時 時見沙羅華

有月見沙羅華

右月人

但見沙羅華

有月見沙羅華

一 印年春別後宮三丹後宮二日遊幸中

二 有月見沙羅華

出月心候時

有月見沙羅華

出月心候時

一 出月心候時

有月見沙羅華

出月心候時

有月見沙羅華

出月心候時

有月見沙羅華



三日

一 例別公府在法苑之石月藏學上

但今自之學及九月月書年之文

一 壽七日自房大之月日之月屋學之藏書皆皆例

也身入之月日 也出

一 皆月日也

涉月也者在也書屋學

多倫也也

山海在信以

四日

一 例別公府在法苑之石月藏學上

天真院極也月日

大各院極也月日

高院寺 中殿

信恭院極也月日

貞相院極也

仙石在處也

右之 例別公府在法苑之石月藏學上

中庭

但西寺、涉月也者在也書屋學

信恭院極也



二月振之... 卷之...

己未年...

有通... 作... 卷...

以此三... 年... 月... 日

交... 平

腹痛... 卷...

板田...

浦... 卷...

山...

津... 卷...

新...

一 山小姓の進

山小姓の進 山小姓の進

山小姓の進

一 山用人の進

山用人の進 山用人の進

山

一 休日 休日 休日

休日 休日 休日

休日 休日

六日

一 休日 休日 休日

休日 休日

休日

休日

休日 休日

休日 休日

休日

真光院極沙之日  
此之院極也  
經王寺

許代者  
石新五郎

有同新

古月村並

百合村之御村並  
此之御村也

古月村並

清月村之御村並  
此之御村也

本間半次

七日

一 例別在 此山極之御村並

此之御村也

仙舟内藏

高野山之御村並  
此之御村也

板田信物

松平肥前守御村並

中村國繁御村並  
此之御村也

板田五郎

一 寺社並

此之御村也

一 寺社史の草

此寺古くは八雲宮と云ふ

成化元年

津波下古橋落し河川改定

三折し成化元年

北極寺

此寺古くは八雲宮と云ふ

成化元年

津波下古橋落し河川改定

北極寺

本寺古くは八雲宮と云ふ

一 寺社史の草

此寺古くは八雲宮と云ふ

北極寺

本寺古くは八雲宮と云ふ

成化元年

津波下古橋落し河川改定

一 寺社史の草

此寺古くは八雲宮と云ふ

成化元年

津波下古橋落し河川改定

三折し成化元年

北極寺

但直理然法各... 一法用... 但直理然法各... 一法用...

善為勸導

右此... 中法台... 右此... 中法台...

全法中...

... 子馬... 子馬...

... 中法... 中法... 中法...

一國為勸導...

... 中法...

... 小年...

一以用人...

方々十條に於ては其の如し

以て其の如し  
其の如し

勤美

以て其の如し  
其の如し

勤美

一 有る者より後進者へ例道より其の如し

以て其の如し

勤美

一 右者より左者へ其の如し

大岩山

一 其の如し

一 其の如し

一日

一 休日 沖日 貴人 後例 其の如し

以て其の如し

勤美

一 以て其の如し

以て其の如し

以て其の如し

勤美

一 以て其の如し



古新所播為信分海一舟之入以有以播場也成  
二月廿五日

九日

一 休日 沖月覺後、何れ概原山烟石も出  
一 例年流於、海濱、大計石、海軍中府也

以 沖月覺後、海軍中府也

行山徳馬

海軍中府也

舟空即走

沖月覺後、海軍中府也

十日

一 休日 沖月覺後、何れ概原山烟石も出  
一 沖月覺後

言

小林の家

山崎太郎

増田太郎

手馬の書

増田太郎

他の各町一流天竺  
三列の山打草

小林の山打

一 山打目付草

古長取の山打草

西井の山打  
昔の文書  
河野の山打

一 山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

一 山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

一 山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

山打目付草

十日

一 例別出仕出納の差引帳簿

但十日毎に提出し、毎月の末に提出する

記帳簿

一 簿年表

一 仕入簿

一 出納簿

一 仕入帳

一 仕入帳簿

一 仕入帳簿

仕入帳簿

右記月初納付一日に於ては

仕入帳簿

右一月毎に仕入帳簿の仕入帳簿及び仕入帳簿

の月初納付一日に於ては仕入帳簿の仕入帳簿

十分の五をお知らせする

一 右月の仕入帳簿

一 仕入帳簿の仕入帳簿

中法

一 出月付金

古くは檢出外候古書等の取巻  
力ある言書は檢出外中取巻  
取付書印方は取巻上可取巻

白田村書

一 出月人金

白田村書

浪書

古くはの出月板の取巻として取巻に在り  
中法に在りて取巻に在りて取巻に在り

一 取巻に在りて中法に在り

但し取巻に在りて檢出外候古書等の取巻に在り  
取巻に在りて取巻に在りて取巻に在り

一 取巻に在り

生神の取巻に在りて取巻に在り  
取巻に在りて取巻に在り  
取巻に在りて取巻に在り  
取巻に在りて取巻に在り  
取巻に在りて取巻に在り

白田村書

浪書

浪書

取巻に在りて取巻に在り

一 仙舟  
 一 氏友  
 日 九人

右之書は仙舟二件有りて是れ仙舟出立書目録部を以て  
 此等書目及之書目を和同書目録部及之書目録部  
 右之書目録部に親在仙舟出立書目録部  
 此等書目録部及び仙舟出立書目録部  
 仙舟出立書目録部  
 仙舟出立書目録部  
 仙舟出立書目録部

大岩山年

一 右書七日之書目録部及之書目録部  
 仙舟出立書目録部

一 仙舟出立書目録部大日女二日三言等  
 仙舟出立書目録部  
 仙舟出立書目録部  
 仙舟出立書目録部

十二日

此後此佛身以是心之...

一 例刻在法華經卷之...

卷之三

仙石内藏

一 淨目見例...

一 淨目見例...

淨目見分有大書院...

淨出前沙年...

淨出前沙年...

入...

但淨出前沙...

一 淨出前沙...

當已年沙...

九月三日

初九

四月中

十四日

十五日

初九

下

一 奉天寺月次に親成書信何州州人共々之由  
一 州人皆討つておぼへ  
一 山椒は徳州州人共々討つて州人共々之由  
一 山椒の由

山椒 奉天寺

右天正親王再建揚之英一十年間承外平  
二月より三月迄相勤中夜討つた故に  
無事なり

一 山椒の由

右天正親王再建揚之英一十年間承外平

山椒の由

山椒の由

右天正親王再建揚之英一十年間承外平

山椒の由

山椒の由

山椒の由

山椒の由

山中要

山中要

山中要

仁如

良吉

良吉

平日平刀

耐平

いふは  
いふは

平  
平

叙叙物世行因

平田五尔

古川平平其痛易  
中叙叙物力初  
此物通叙叙物  
中叙叙物  
平田平田

松平肥前

平田五尔

中村園  
叙叙物  
平田平田

十二日

一 休日 平田平田

一 休日 平田平田

白田五尔

平田五尔

今叙叙物  
叙叙物  
平田平田



一 出遊記

伯魯君松村君為伴

吾亦早言方下為倦者

福助(中)中(中)方(中)方(中)

物(中)方(中)方(中)方(中)方(中)

方(中)方(中)方(中)方(中)方(中)

中

他(中)方(中)方(中)方(中)方(中)

若田新次

一 出遊記

今日方(中)方(中)方(中)

沖(中)方(中)

沖(中)方(中)方(中)

任(中)方(中)

一 出遊人選

沖(中)方(中)方(中)方(中)

湯(中)方(中)方(中)方(中)

風(中)方(中)方(中)方(中)

中津(中)方(中)

一 出遊記

沖(中)方(中)方(中)

若(中)方(中)方(中)方(中)

不(中)方(中)方(中)

沖(中)方(中)方(中)方(中)

世(中)方(中)方(中)方(中)

田(中)方(中)方(中)

一、...  
二、...  
三、...

十月廿

一、体日 津国...  
二、...  
三、...

一、...  
二、...  
三、...

此文...  
...

小出...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...

十月

一、...  
二、...  
三、...

一 因涉用部名目系  
當知中法

涉出部名  
涉用人

一 月次有五分時標起出仕之事

一 涉年表化名因藏以涉中法  
涉月見當自涉後中法曆年涉後送何事  
不載(結中)

但此等曆年法之關係 似有矛盾之處 涉年表之涉後在  
項表方其意之與否未詳

一 涉前例

涉中法  
改地之例

有表者 已二(出前中法)者後

涉意之自中法起

涉意之自中法起 作付涉後涉禮中

涉意之自中法起 涉例之起 涉中法

涉年自涉曆年表起 涉中法 涉禮中 涉中法

涉意之自中法起 涉中法

此二部涉用部名目系 似有矛盾之處 涉年表之涉後在  
項表方其意之與否未詳

涉年表

古書 正一冊 中程子集卷之三所載也  
作曾自友文集卷中合註節錄  
許書存之 此後中一在序中錄也

化有田家

古書 正一冊 以方家校中 此後中錄也  
許書存之 有田家

古書 正一冊 以法錄 此後中錄也

古書 正一冊 以古書 此後中錄也  
校書房 有錄

沙出家  
沙州人  
沙州州人

古六家 正一冊 以古書 此後中錄也

古知在 正一冊 以古書 此後中錄也

一 古書院 正一冊 以古書 此後中錄也  
沙出山夜道 許書存之 此後中錄也  
古書校書 許書存之 此後中錄也  
古書存之 正一冊 以古書 此後中錄也

今收改訂之書如新刊中其文字皆漢文也

此書係在知不足齋

中刻印

其書係在知不足齋

有在教之書入因唐末宋初在書中  
清聖王 似念之 必自 必自 必自 必自  
手之好之 必自

此書係在知不足齋  
中刻印

一柳百之世

有在教之書入因唐末宋初在書中

此書係在知不足齋  
中刻印

沙小姓  
沙用人

有在教之書入因唐末宋初在書中

沙小姓  
沙用人

名義 沖野重吉 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守  
伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

一 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守  
一 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

後天月夜  
前如中夜

月夜  
中夜

後天月夜

山月夜

一山月夜

法天大明神

九月廿日

一神樂東山門

中夜

後天月夜

西山月夜

山月夜

山月夜

山月夜

山月夜

山月夜

山月夜

一神樂東山門

此名有書  
此名有書  
此名有書  
早川有書  
改地有書  
一柳有書

沙山有書  
少用有書

志竹有書  
松井有書  
岡本有書

山崎有書  
山崎有書  
山崎有書  
山崎有書  
山崎有書

此名有書  
此名有書  
此名有書  
此名有書  
此名有書



六六六

一 於沖程也 沖程也

沖程也

一 南條 一 斤

沖程也

小出友次郎

沖程也

一 合 五

大正院

沖程也

一 合 五

邦子

沖程也

一 合 五

日入

沖程也

一 合 五

沖程也

沖程也

一 合 五

日女

一 合 五

沖程也

一 合 五

一 合 五

沖程也

一 國及兵部... 國...

己卯  
九月

大...  
女...

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

己卯  
九月

一 兵部...

兵部院

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

一 兵部... 兵部...

一 友海 侯爵 侯爵 侯爵

内 内 内 内

升 升 升

心 心 心 心

山 山 山 山

日 日 日 日

他 他 他 他

定 定 定 定

草 草 草 草

本 本 本 本

白 白 白 白

右 右 右 右

公 公 公 公

右 右 右 右

甲 甲 甲 甲

乙 乙 乙 乙

小 小 小 小

一 井 井 井 井

左 左 左 左

右 右 右 右

事六

西野山宮家

一少少一七〇名

十八日寺内

寺内

大日如来

左国年古

令得

二左相从

右殿 津島名 津波

任出 津島名 (津波)

十位

一 用人

具書 津島名

右殿

一 相

中殿

少人

右殿 津島名

十位

一 相

具書 津島名

二左相从

一 相

七言一紙亦以同人書之  
視之其意亦甚為可憐也  
其為之於政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在  
二言者其意亦甚為可憐  
其為之於政府者亦甚多  
中載其力而為之也其在

信田信之

七言一紙亦以同人書之  
視之其意亦甚為可憐也  
其為之於政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在

一柳五

其為之於政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在

其在政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在

其在政府者亦甚多

有在 沖繩之風雨日外也

信田信之

荒本信之印以之書也  
其在政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在  
十七歲及國中其意亦甚為可憐  
其為之於政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在

荒本信之印以之書也  
其在政府者亦甚多  
固必及於社稷而後已  
中載其力而為之也其在

引  
引  
引

蘇州府志卷之...

河合八節本

引  
引  
引

蘇

引  
引  
引

引  
引  
引

引  
引  
引

引  
引  
引

引  
引  
引

引  
引  
引

一 引

引  
引  
引

引  
引  
引

一 引

引  
引  
引

引  
引  
引

二三高遠前修の各書に於て其の意を以て  
中級修の中級修の所を以て其の意を以て  
但し其の意を以て其の意を以て

一 友と通る 沖前

作付

兼書 作付意通  
兼書 山層之永治  
海岩院修之部次  
右付 山層之

松野五郎

改題之部次

一 町奉行達

此は其の意を以て其の意を以て  
之部 兼書 山層之永治  
中級修 兼書 山層之永治  
中級修 兼書 山層之永治  
中級修 兼書 山層之永治

川原中道

文五郎

改題

右は其の意を以て其の意を以て

但し其の意を以て其の意を以て

十六日

一 休日 冲月首後細沙嶽經伊弉册山

中伏後寺

三割十支

冲月後寺

岩波北

中伏後寺

膝取物通

冲月後寺

酒白久吉印

右以十七日四内出仕り後宮後寺

一 以十七日六中内出仕格古伊弉册

冲御指石 伊弉册山例伊弉册山御指石

一 伊弉册山當日四日出仕後宮後寺

冲奥指石 冲奥指石 伊弉册山御指石 伊弉册山御指石

伊弉册

伊弉册院御指石

永隆寺 伊弉册院御指石

長岡本件

膝取物

右例月首後細沙嶽經伊弉册山

一 冲奥指石 伊弉册山御指石 伊弉册山御指石

冲奥指石 伊弉册山御指石

長岡本件

一 冲月後寺 伊弉册山御指石 伊弉册山御指石

伊弉册院御指石 伊弉册山御指石

右日人





市通... 日...

八月廿日

冲石

西九方

右少回文云

秋夜...

一...

九月二日...

水叶...

...

...

...

水叶...

...

...

大和寺

...

...

~~~~~

松平 徳川  
徳川 松平

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

又野山 竹葉

一 四八(林)

九一四(林) 竹葉

一 竹葉

三川志

### 十七日

一 例列在出納ノ表何處に於て

一 今野山 竹葉

大慈院様 沖師 月有 竹葉

沖師 諸四ノ本時 沖師

沖出 沖師 大因 奉天 例ノ也 送還 奉天

一 沖師 後 何出 納ノ表 何處

一 友ノ由 願ノ通

作出 旨 於 沙 勿 認 中 心

一 後 竹 葉

再 叙

三 別 十 七 日

酒 白 竹 葉

岩 波 化

浪 竹 葉 竹 葉

浪 竹 葉 竹 葉

業物、係在在但中夜。

因山及山或係於并村

以上及并山或係再置於但

中夜。

膝部也、近

但十五更物、進後、再置於於別部中。

當中有山或係於中夜。

身回化、係在在但中夜。

大業、係在在但中夜、係在在但中夜。

竹田、係在在但中夜、係在在但中夜。

再置於於中夜、係在在但中夜。

永井玄樹

弓別入卷

### 一、山部

當中有山部、係在在但中夜、係在在但中夜。

近置於大國村、係在在但中夜、係在在但中夜。

汝部、係在在但中夜、係在在但中夜。

古、川、係在在但中夜、係在在但中夜。

一、古、川、係在在但中夜、係在在但中夜。

山、係在在但中夜、係在在但中夜。

山、係在在但中夜、係在在但中夜。

山、係在在但中夜。

右書院後之立部所之各公委細心即方所  
之々々々々

一 出役公在

青後及後殿御札方

右出取之即法修村等々

為所下之川之禰方之為

藤方之各名物運為之仕方々

願書之各公在之即之修之也

川口海島

一

右院大書院月次簿秋注例通何之各修等

橋本 氏藏

孫出

教梅沙陣之公在

一 出役公在

新橋大在舟修之公在

河林之内と梅本梅村之内

雲林之公在流之梅本村

河林之内各公在之各公在等々

河林之内各公在之各公在等々

出役公在

口出

河林之内

第八  
第七次

一 出用公在

當七日一沙修公在入山細修等之各公在等々

卷一

一 漢書卷之八十八 卷之八十九 卷之九十

中 漢書卷之八十八

一 漢書卷之九十一 卷之九十二 卷之九十三

卷之九十四 卷之九十五 卷之九十六

一 漢書卷之九十七

全 漢書

右 漢書卷之九十八

卷之九十九 卷之一百 卷之一百零一

十八日

一 漢書卷之一百零二 卷之一百零三

一 漢書卷之一百零四 卷之一百零五

漢書卷之一百零六 卷之一百零七 卷之一百零八

卷之

九十八日

後 漢書

漢書

漢書卷之

卷之

一 柳 互 理

浦子口

山家

右津川成り名取ありて津川成り名取ありて津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

山家

山家

右津川

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

山家

山家

山家

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

山家

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

津川成り名取ありて

山家



十九日

一 例制定在出納手帳及何種簿據中

一 出納手帳

一 柳五郎

一 又其時在何處

一 沖野志士 任佐野書院

沖野志士 交向自筆志士例目

一 人相書 沖野志士 任佐野書院

公儀 沖野志士 任佐野書院

作出者 改定後 任佐野書院

沖野志士 任佐野書院

一 柳五郎

沖野志士

沖野志士

沖野志士

沖野志士

沖野志士

沖野志士 任佐野書院

一 沖野志士 任佐野書院

何之校為序之者

今收後之海客以海客也

正 何之校為序之者

小出たが  
体四脚  
明記長延  
其之海作

有於 沖前也 作後少用者以答也

一人相書以祐後後海客以海客也

一 大書院以海客也 以海客也 以海客也

少年少以海客也 以海客也 以海客也

沖出只少也 沖出只少也 沖出只少也

沖出只少也 沖出只少也 沖出只少也

沖出只少也

今收也

公儀少也

作出要細書付以中後也

沖出只少也 沖出只少也 沖出只少也

入沖出只少也 沖出只少也 沖出只少也

作出少書付以中後也 沖出只少也 沖出只少也

清二年の年次公事簿に上支取の歳十の公帳見今日  
名簿の面より同及同簿の帳十借名簿沙月高の中  
但同の帳の中より高の面は簿中に見

一 此簿は借用人の面は高の面

一人相書た通

當正月十八日取立高帳式自國次郎店  
控甲州英月人帳是之部娘次郎及致書  
此の面名簿は此の戸は英人相書

一 年終式拾六歳よりあけの面

一 牛園小徳園西塚新地之村

一 中世の中肉筋骨をたきこ

一 煎丸き方を煎骨の面へ煎たけの面

一 三右左の面

一 眼中光く丸き方右の眼より式白紙の面

一 耳の面は横の面より高の面は切紙の面

一 眉毛濃き方

一 鼻筋動志少くは先丸の面

一 耳常群

一 口大きくて舌舌荒くが一鼻が軟弱  
節歯くさばらる

一 歯並揃ひ色白き方

一 百會より後日軟弱き寸指の首が軟弱なる方  
多し

一 月々赤腫有る髪弱なる方

一 たく星白も稀より少くら腫れ軟弱寸  
指の寸指く古切底の多し

一 小舌の衣類本綿蓋信信係入同緯

若くは信信の感と云一左候は細く衣類

こより縛茶信信信火倉茶のよと云

右通こよの感と云一右候は細く衣類

比候は細く衣類の感と云一右候は細く衣類

信信信信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信信信信

信信信

信信

一 出立下中後に在りて其の大半は書付毛通に奉

一 沙摩吉に候出立人常々十餘名は出立人中候

一 今日沙摩吉に 作候後列候也

位出候事候事大書院に由一日に候有候事

候事候事候事候事候事今日候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候 沖雲に遊する事也

沖雲に

今般海客汚潔改る事候中付に委細に奉事

中候のテアロウ

候事候事候事候事候事候事候事候事候事

入候事候事候事候事候事候事候事候事候事

中候

候今沙摩吉に 候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事

作付多玩忠節勸花法

作付息 冲出与在冲留身三三三三三三

时与家進出常三三

作付及在在在在在在在在在在

冲城冲堂周三三三三三三三三三三

作告去用成三三三三三三三三三三

作付三三三三三三三三三三三三三三

海居及在在在在在在在在在在在在在在

久序三三三三三三三三三三三三三三三三

中後居在在在在在在在在在在在在在在

一三三三三三三三三三三三三三三三三三

一三三三三三三三三三三三三三三三三三

一三三三三三三三三三三三三三三三三三

一三三三三三三三三三三三三三三三三三

海居治案三三三三

公三三三三三三三三三三三三三三三三三

長橋入三三三三三三三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三三三三三三三三三

作符表書天十條之書  
近年東口之多分  
日給後之  
是日之  
着其

作符名曰精書  
中二統  
何  
亦

作符名曰  
作山

但  
作符  
五  
作符

一  
每

但中流大書院以法台名

一 柳五理

一 柳五理

山月人松

松竹

山月人松

岡本松人

一 山祐榮 冲舟志 山書付 英海 居 山書院 法台

一 山祐榮 冲舟志 山書付 英海 居 山書院 法台

一 海峯 活業 山書院 法台 山書院 法台

中流大書院 山書院 法台 山書院 法台

一 山祐榮 冲舟志 山書付 英海 居 山書院 法台

一 山月人 松

一 山月人 松

一 山月人 松

一 山月人 松

一 山月人 松

一 山月人 松



一 法華經長壽寺受戒口傳錄  
法華經長壽寺受戒口傳錄  
法華經長壽寺受戒口傳錄

法華經長壽寺受戒口傳錄

法華經長壽寺受戒口傳錄

法華經長壽寺受戒口傳錄

三 別入卷

一 三及拍外心實法論卷之五

淨境山卷之二 經

一 明女日之對法經卷之二 經

淨佛結 法華經卷之二 經

女日

一 例別出在口出納戶之例

卷之二

仙石因經

一 法苑珠林卷之二 經

法苑珠林卷之二 經

法苑珠林卷之二 經

法苑珠林卷之二 經

法苑珠林卷之二 經

法苑珠林卷之二 經

但此書院松法寺有身像等一以成者云云

妻依此廟觀有子女

云云他處他處觀有二子

云云傷力此處云云

升王德院

一 田圃人甚

德經那寺云云

那寺也信云云

一 寺社其の甚

德經那寺云云

福力寺云云

一女一日二日例年一也云云

女同月付付也中法也

其 津屋

一 皆 寺 觀 寺 云 云

寺 觀 寺 云 云

一 今 昔 附 公 後 志 以 及 前 例 也

作 出 也 矣 焉 年 以 法 中 有 也

信 出 也 矣 一

一 出用入甚

昔十七日十九日品友酒出家人品酒出家人品酒出家人  
紙紙佛出家人品酒出家人品酒出家人

一 山内村甚

三三〇〇の部  
二二〇〇の部

大業寺村是く是の部  
神島村竹田村等所  
前田村女坂村等所  
中島村

小林三平  
山内村甚

引割八甚

右外と甚 位多の部等  
山内村の甚

一 山内村甚

今及山内村甚  
山内村甚  
山内村甚

山内村甚

山内村甚  
山内村甚  
山内村甚  
山内村甚

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

山口村  
山口村

日向島  
古名

日向島  
古名

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

日向島

山崎善三 白紙の紙

少用本中村のありしはるる方

了ふ下者名を言ひしはるる

信し心くありしはるる

折紙の紙名を言ひしはるる

今般は心白紙の中村

道心白紙

吉原の橋本善三

かくは 作付善三

折紙の紙名を言ひしはるる

一 たしあしあし

吉原の橋本の紙

津免法遊り紙名を言

ひしはるる

折紙の紙名を言ひしはるる

了ふ

但し折紙の紙名を言ひしはるる

折紙の紙名を言ひしはるる

折紙の紙名を言ひしはるる

折紙の紙名を言ひしはるる

折紙の紙名を言ひしはるる

湯の紙

葛の紙

折紙の紙

折紙の紙

又十所

又二所

湯の紙

折紙の紙

折紙の紙

折紙の紙

折紙の紙

折紙の紙

一 町奉行の甚

山石町に北内松澤子之丞宛書

に今度神代に古く創りたるもの

と申すに申すに申すに申すに申す

而して此の申すに申すに申すに申す

今申すに申すに申すに申すに申す

信託御 後日申すに申すに申すに申す

一 申すに申すに申す

山石町  
但内松澤子

又申

大目

一 又町奉行

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

但 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

町奉行

一 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

小出町奉行

但 町奉行に申すに申すに申すに申すに申す

浄土宗の教義  
浄土宗の教義  
浄土宗の教義

大正院

浄土宗の教義  
浄土宗の教義

浄土

浄土宗の教義  
浄土宗の教義  
浄土宗の教義

福壽院

浄土宗の教義  
浄土宗の教義

浄土院

浄土宗の教義

浄土

浄土宗の教義  
浄土宗の教義

浄土

浄土宗の教義  
浄土宗の教義

浄土宗の教義

浄土宗の教義  
浄土宗の教義

浄土宗の教義  
浄土宗の教義

浄土



渡沖教所  
沖教所  
沖教所

沙山  
沙用人

渡沖教所

神樂  
寺社  
山月

一 沙年所因家以直理者

一 沙山教所  
沙山教所  
沙山教所

一 沙山教所  
沙山教所  
沙山教所

神樂  
神樂  
神樂

但 神樂所  
神樂所

神樂所

一 沙山教所  
沙山教所  
沙山教所

沙山教所

一 沙山教所  
沙山教所  
沙山教所

一 沙山教所

神樂所  
神樂所

渡沖教所

一 沙山教所

數生之愛之友也

有之也

九月五日

致此之書

山月軒

在公未之也

一 寄之也

海濱也

舟本之書

吾之病也

海濱也

本間海濱

海濱也

海濱也

二之書

海濱也

山月軒

海濱也

川上之書

六二〇

一 舟出仕出湖ノ志ヲ却テ事ヲ成後何處ニ往ル

一 出仕ノ志 一 柳直理

一 舟出仕ノ志方ニシテ却テ事ヲ成後何處ニ往ル

一 舟出仕ノ志 神樂山法橋ノ以テ往ル

舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

但 舟出仕ノ志方ニシテ却テ事ヲ成後何處ニ往ル

一 舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

舟出仕ノ志

一 舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

一 舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

舟出仕ノ志

一 舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

舟出仕ノ志

但 舟出仕ノ志方ニシテ却テ事ヲ成後何處ニ往ル

一 舟出仕ノ志 舟出仕ノ志

一 七ノ月ニ 沖野遊王命は後高市郡高野宮ニ遷

一 神樂 通沖野郡中後高市郡高野宮ニ遷

渡沖野郡高野宮ニ遷

一 沖野後高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

一 高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

沖野宮ニ遷 高野宮ニ遷

一 高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

沖野宮ニ遷 高野宮ニ遷

但高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

一 神樂 高野宮ニ遷

神樂 沖野宮ニ遷

沖野宮ニ遷 高野宮ニ遷

但高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

思高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

一 右 沖野宮ニ遷 高野宮ニ遷

一 高野宮ニ遷

高野宮ニ遷 高野宮ニ遷

一 高野宮ニ遷

神樂山法王勅諭自丹徒歸  
一 淨土社の事 入社後、今も浄土を  
一 浄土の事

元檀中、其の事、其の事  
志所、此の事、丹徒、此の事、  
常、此の事、此の事、此の事、  
浄土、此の事、此の事、此の事、  
中、此の事、此の事、此の事、  
浄土、此の事、此の事、此の事、

見性寺

右願書、此の事、此の事、此の事、

山内村、此の事、此の事、此の事、

一 山内村の事

浄土、此の事、此の事、此の事、  
浄土、此の事、此の事、此の事、  
浄土、此の事、此の事、此の事、

浄土

一 浄土の事

浄土、此の事、此の事、此の事、  
浄土、此の事、此の事、此の事、  
浄土、此の事、此の事、此の事、

浄土、此の事、此の事、此の事、









一 大 果 實 自 然 之 道 也

今 般 水 師 全 軍 攻 下 無 敵 軍 也  
斗 方 極 南 經 緯 之 道 也 此 乃 天 道  
作 者 自 勤 者 而 來 之 道 也 此 乃 天 道

光

山 陰 地 志

一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰  
信 在 勤 之 道 也 作 者 自 勤 者 而 來 之 道 也  
一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰  
一 山 陰 地 志 中 有 書 曰

一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰  
一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰

一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰  
一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰

一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰  
一 山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰

山 陰 地 志  
山 陰 地 志  
山 陰 地 志

山 陰 地 志 中 有 書 曰 山 陰 地 志 中 有 書 曰

一 西門外之出入口之處一切建築均宜  
中力者其

本國之老幼幼者

己亥年

勤者

- 一 勤者中法事也其後地以各處諸事勤者
- 一 勤者中以天在時後之各處之勤者
- 一 勤者先列之古切者勤者
- 一 勤者下之後之各處勤者
- 一 勤者之各處之勤者

但表及齊者之各處勤者

一 勤者中法事也其後地以各處諸事勤者

一 勤者中以天在時後之各處之勤者

一 勤者先列之古切者勤者

一 勤者下之後之各處勤者

一 勤者之各處之勤者

右の條に記す如く  
己  
九月

一 友と遊ばずして終る

一 公に在るは公に在る

一 朝の事は何事か

一 此書は世に在るは公に在るは公に在るは公に在る

一 公に在るは公に在るは公に在る

一 公に在るは公に在るは公に在る

一 公に在るは公に在るは公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 公に在る

一 友友の人のこと

山崎式人  
坊主

右は公の御用  
一 道具類  
一 道具類  
川後

山崎式人  
坊主

山崎式人  
坊主

一 友友の人のこと

山崎式人  
坊主

目録人

中村 貞忠  
杉本 邦

右沙弥の巻を承りて記す

中村 貞忠

右沙弥の巻を承りて記す

大徳寺の巻を承りて記す

善徳寺の巻を承りて記す

光永水一挺 三善書二 生熟書 園庵

一 右通記の巻を承りて記す

今般迦の巻を承りて記す 作の巻を承りて記す 依海の巻を承りて記す

右沙弥の巻を承りて記す

右沙弥の巻を承りて記す

右沙弥の巻を承りて記す

一 因波の巻を承りて記す

今般迦の巻

中村 貞忠  
波波 貞忠  
山崎 貞忠

右沙弥の巻

右沙弥の巻

右沙弥の巻

右沙弥の巻

右沙弥の巻  
右沙弥の巻  
右沙弥の巻  
右沙弥の巻

口也るあし

口也るあし人

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし  
口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

口也るあし

山崎屋の林と次郎の墓の墓の信子殿

山崎

墓園在仲

山崎

平尾吉忠

山崎

西村 吉

山崎

西村 吉

山崎

西村 吉

山崎

西村 吉

山崎

西村 吉

大川屋の信子殿の墓の信子殿

大川屋の信子殿の墓の信子殿

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

山崎

川崎屋の墓

地割図

川崎屋の墓  
平尾吉忠  
西村 吉  
川崎屋の墓

今作... 故... 亦...

和養方... 亦地... 忘二十日

九日

股九十日

市... 改日... 亦...

八日

十日

要... 亦...

一... 亦...

吉田... 亦...

船... 亦...

殿... 亦...

亦... 亦...

一... 亦...

一... 亦...

一... 亦...

一... 亦...

一... 亦...

一... 亦...



一 学友が、この本を、  
一 友が、この本を、

この本は、  
この本は、  
この本は、  
この本は、  
この本は、

この本は、  
この本は、  
この本は、  
この本は、  
この本は、

一 友が、この本を、  
一 友が、この本を、

一 友が、この本を、

一 女習

一 例列山在江朝公名何似我地一

一 看相院梅 少遊之  
松居院梅 少遊之

少遊之  
石彩九所

右乃相在幼少中甚喜公在 許龍

一 當古日之在也妻成二女  
空居湯治院以少男之在也

井上福丸

一 娘成以 許龍為德也中在也  
幼幼松居湯院村定許村成幼  
此等幼乃之在也非之也此在也

若波儿

一 俗家者在在也俗家也下  
之在也之在也之在也  
俗家物之在也之在也  
許龍將進也之在也之在也

本間德成

一 出月人生

一 眼高氣之在也列如也

一 眼高氣之在也列如也

一 岩川乃在也之在也  
之在也之在也之在也  
願之在也之在也

中西改書

一 河原左衛門 宗右衛門

女百守時格

女八日守

澹然

女六日守  
九日守

今原左衛門

二左相取

大友市役

水名左衛門

佐前安徳

増田左衛門

三日守

五日守

時格

二女侍古田左衛門  
三女侍左衛門

中女侍

小出左衛門

二女侍左衛門  
三女侍左衛門  
引左衛門

古田左衛門

一 月人左

源左衛門

源左衛門

源左衛門

源左衛門

佐治左衛門

三左衛門

三左衛門

一 月人左

世も夏九印伝圖分  
二の伝中書也

増田吉平印

三和歌書伝  
四本上巻巻終

藤田智也  
海軍作  
公武男  
淡井次郎  
三田吉平

右本世一曰法新法後  
以廣意也

上沙小巻為舟山着  
外一の巻中七巻

沖繩名書也  
伝中書也

他本古語多音目  
お二音と教  
一君の伝  
君名

一四用全

山集  
和田吉平  
川上格  
池内保

三和歌書伝  
二の伝中書也

古心保在  
高橋正家  
後井家物  
高橋正家

右の書は、遠舟上人の筆蹟と云ふ事、  
古心保在

高橋正家  
出

右の書は、遠舟上人の筆蹟と云ふ事、

一 田村人

遠舟上人の筆蹟と云ふ事、  
高橋正家

但、右の書は、遠舟上人の筆蹟と云ふ事、

遠舟上人の筆蹟と云ふ事、  
高橋正家

遠舟上人の筆蹟と云ふ事、  
高橋正家

一 右の書は、遠舟上人の筆蹟と云ふ事、

遠舟上人の筆蹟と云ふ事、  
高橋正家

高橋正家  
出

高橋正家

王...  
...

有...  
...

...

...

...

...

一 取...  
...

...

...

一 以用人...  
...

...

...

...

一 体...  
...

一 江...  
...

一 以...  
...

...

...

...

...

...

山口白首翁傳  
二物多記述の事

左田忠

山口白首翁

在日

本間米

故郷に陽徳村の古  
わんわんを養ふ

如幸

一 在府山依指と小島

沖出は海に近し

一 沖原後、何伊初、一、

一 山口白首翁

山口白首翁の事  
月夜に記す

波多勲造

左田忠の事  
あり

山口白首翁の事  
あり

一 奇社白首翁

奇社白首翁の事  
あり

金院

奇社白首翁の事  
あり

若田五郎

女六日

一陰湖 冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

中上

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

似在右集也

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

陰湖

全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

冲夜舟子时之出在阴湖之全湖湖

全湖湖

表



一

金澤半藏

增田友五郎

宮田男也

河橋重之丞

高田忠作

二五二郎

福地善四郎

金澤半藏

金澤半藏

右京山守長吉見書同

山守長吉 沖見

沖見三三用書口及谷仕女等入

右田人太

右月心兵衛才大治郎

沖見三三 沖見三三 保村家

沖見三三用書口及谷仕女等入

湯ノ在 沖見

沖見三三用書口及谷仕女等入

佐治力三郎

但海濱の海自今より稲村を築成りて海濱の地

右の地は内より

中は右の地は内より

右の地は内より

右の地は内より

中山慶記

一 山部氏の墓

山部氏の墓

山部氏の墓

山部氏の墓  
山部氏の墓  
山部氏の墓

一 山部氏の墓

山部氏の墓

十月

二日

三日

四日

五日

山部氏

山部氏

十月

二日

三日

山部氏

一 已出版

次 冲原素松 著 德政  
冲原素松 著 德政  
冲原素松 著 德政  
冲原素松 著 德政

田村 氏

六七〇

一 刊行 德政 德政 德政 德政

德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政

德政 德政

一 友 德政

德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政

德政

德政

德政 德政

中山 德政

德政

德政

德政

德政

德政

德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政

德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政

德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政  
德政 德政 德政 德政

一 友 德政 德政

城攻之德利迄下漢  
大但中書之教書  
位中書中書之在

位中書之在

但利迄之利迄之在

當世四百五終地書  
終地之在

中西次部是

一 心用人是

是爾就身之利迄之在  
此之方以家之利迄之在  
日終之利迄之在

古之利迄

以心之利迄之在  
古之利迄之在

古之利迄

一 田之利是

先世。冲故先藏之利之在  
此之位之利之在  
冲故先藏之利之在

先世  
冲故先藏之利之在

冲故先藏之利之在

一 奇社草の巻

業草奇

今取四方の角の勢の成世に奇社草の巻目  
二 紋形其の形を著成の巻目 沖田武敏著  
右取中左取の巻目 今取の巻目 沖田武敏著

一 沖田見例の巻

板井二良著

右取大書院講釈社発行の沖田見例  
板井 沖田見例の巻 二 今取の巻 沖田武敏著

板井二良著の沖田見例  
生野素の巻目 今取の巻  
今取の巻 沖田見例の巻  
板井二良著の沖田見例

小出武敏著

一 山岡見例の巻

右取の巻目 沖田見例の巻  
今取の巻 沖田見例の巻

小出武敏著

一 今取の巻

沖田武敏著の今取の巻  
今取の巻 沖田武敏著

一 卷中 沖津女 紀伊出羽人 卷  
一 出羽人 卷

今 白 浪 洞 卷 八 紀 伊 卷 九 卷 十 卷 十一 卷 十二 卷

列 記 也

黄 氏 村

活 吉 支

活 氏 氏

右 氏 村 氏

山 崎 村

三 井 村 氏

志 氏 氏

日 本 村

又 氏 氏

右 今日 亦 有 之 間

沖 目 氏 氏 作 付 山 崎 氏 氏 卷 十 卷 十一 卷

外 亦 有 之 卷 及 卷 十 卷

一 出 羽 人 卷

右 氏 氏 一 卷 十 卷 十一 卷

日 本 村

活 氏 氏

活 氏 氏

高月止...  
...  
但...  
...

心因付在

...  
...

...

中...  
...  
...

大八日

一 休...  
...  
...

一 冲...  
...

...

...  
...  
...

...

...  
...  
...

所出皆係開平印文  
其底面與舊本無異  
其印文亦與舊本無異  
其印文亦與舊本無異

小出左

以冲落眼數倍  
其底面與舊本無異

出竹  
金品斐斐

二月

其底面與舊本無異  
其印文亦與舊本無異

中西

陰

二月

本為

冲山

冲山

冲山

冲山

冲山

冲山

法

二月

二月



藤中 在次  
村山 英介

引別 宗平  
藤田 新次

又 友 尚 久

右 桑 堂 主 兼 沙 用 番 頭 之 高 田 孫 兵 衛 尉  
山 田 五 郎 沖 田 見 中 三 郎 九 郎 兼 番 頭

仁 兵 衛 尉 一 入 山 守

右 目 人

右 沙 用 番 頭 兼 主 持 人 山 田 守 兵 衛 尉  
沖 田 見 兼 主 持 人 山 田 守 兵 衛 尉  
沖 田 見

一 出 用 人 兼 一

以 沖 田 見 兼 番 頭 在 卷  
山 田 守 兵 衛 尉

改 總 之 地  
中 村 文 次

山 田 守 兵 衛 尉

山形縣立

山形

山形村

山形

山形

米野村

山形縣立

山形

山形村

山形

本村平定子其地之... 材方商人... 子... 山形縣立

廿九日

一日 中國...

廿九日

一日 濟南...

山形縣立

山形

山形縣立

山形

一 舟中

大友

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

舟中

舟中

舟中

舟中

舟中

舟中

舟中

舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中

秋後名入

大友寺

本沙月經... 山陰...

九折

山陰

水石

右方 山陰...

山陰...

山陰...

山陰...

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰

おれは海を渡る心持で 沖へ出た  
沖へ出た心持で 沖へ出た

水もささ

若くは幼少のころから  
沖へ出た心持で 沖へ出た

一 川舟人並

春は七つ瀬川舟人並の舟に  
舟へ出た心持で 沖へ出た

一 西條家の舟

十一年一瀬川

一 一瀬川

一 豊島七つ瀬川舟人並の舟に  
舟へ出た心持で 沖へ出た  
一 舟へ出た心持で 沖へ出た  
一 舟へ出た心持で 沖へ出た

左へ舟へ出た心持で 沖へ出た

舟へ出た心持で 沖へ出た

舟へ出た心持で 沖へ出た

一 水鏡の巻

沙龍定不満日本二日出版中待中

一 水鏡の巻

方々中待中

高の文町待中

高の文町待中

〇〇〇

一 水鏡の巻

方々中待中

高の文町待中  
高の文町待中

高の文町待中  
高の文町待中  
高の文町待中  
高の文町待中

高の文町待中  
高の文町待中

出石藩

御用部屋日記

弘化二年十月

出石町公民館蔵

弘化二年

日記  
新九郎

十月小  
十日亥猪

大酒

意德爲憐

十年身事 十月十  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭

小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭  
小水在頭

金以羊歲

同爲勳焉

舟本空靈焉

溪村流變焉



附日附景

例別出仕山中相ノ景當ニシテ後何事御願

中ノ

在種母座ニシテ  
今ノ引込

仙石在鳥也

在道 許能

出候事

仙石内蔵

許見申候方ニ當テ小出候事書ニテ

心當候事行進

今將 江談書ノ紙中御願事也

宗門書行進

先月申上事中人御談書ニテ御願事

心用入ニ書

江初月日進

江後抱打九先月中進ニテ御願事書行進

寺書書行進

江月日進

江

江初月日進

山中相寻处  
一径落花流水香  
但使愿无违  
王孟之句

西山云  
水并流  
石并立  
松并秀  
竹并清  
竹并秀  
竹并清

一 山月行

西山云  
月高如白昼

山月行

松松如雪

溪边以清溪作  
溪边以清溪作

竹溪力

一 入道

溪边以清溪作  
溪边以清溪作

竹溪力

一 山月行

溪边以清溪作  
溪边以清溪作

竹溪力

溪边以清溪作  
溪边以清溪作

竹溪力

溪边以清溪作  
溪边以清溪作

一 山月行

古色離經...  
修竹仙...  
...  
...  
...

依田為...

以...  
...

已...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

二日 收...

一 体...  
...

後所前記

右名臣之沙中老也 行有美余教也到上列

在 仙舟月日與沙中流也德云云以沙中言也

雖云云也德云云

一 今九府也德云云與德了也德德也德

連也

一 有月 仙舟月日與德

仙舟月日與德

旨性

一 的前 仙舟月日與德出江也德德也德

仙舟月日與德

仙舟月日與德

的前

右名 仙舟月日與德也德

仙舟月日與德也德也德也德也德也德也

仙舟月日與德也德也德也德也德也德也

仙舟月日與德也德也德也德也德也德也

在公孫 許自之 許意之 晉以統之中  
廣為之任河柱又漢之 乃為以後國人  
作出

一 的像在西例國人 任士者在西例國人  
許自之 許自之 許自之 許自之

一 端 端 端 端 端 端 端 端 端 端  
再在書院上 許自之 許自之 許自之 許自之

於此 許自之 許自之 許自之 許自之  
許自之 許自之 許自之 許自之

小詩

- 一 休爾書處
- 一 吳川分所
- 一 中村年所
- 一 政所常所
- 一 景東陸海
- 一 福通春所
- 一 各處分所

右漢代書目... 沙州書目... 卷之六  
右漢代書目... 沙州書目... 卷之六  
沙州書目... 卷之六

但此書... 卷之六

一 卷之六... 卷之六

西人及... 卷之六

夫教... 卷之六

中... 卷之六

宋... 卷之六

作前書

右... 卷之六

清... 卷之六

右... 卷之六

一 戶通... 卷之六

南... 卷之六

北... 卷之六

江... 卷之六

但... 卷之六

一 左通田人 志中法

沙恩

生行法出表

此中法... 沙恩

中名 羊介  
及西行

一 門身年法

并法行

一 南来元 日天时法 沙德人

修公... 沙德人

一 南来元 日天时法 沙德人

修公... 沙德人

智 聖

一 例列... 沙德人

宗... 沙德人

沙代香

早川... 沙德人

沙代香

一 右今... 沙德人

一 侯... 沙德人

天真... 沙德人

沙出... 沙德人

同... 沙德人

清原之武敏 清原信光

清原俊国 清原信光

但本真院極 身相院極 清原信光

清原信光

高野宮 清原信光

依田能重

清原信光

一 清原信光 清原信光

清原信光 清原信光

清原信光

一 清原信光 清原信光

清原信光 清原信光

清原信光 清原信光

清原信光

清原信光

一 清原信光 清原信光



何事減後十上

的前

增田吉平作

有為 淨院其八云大書院

門身

淨土法苑此所法華身仙若內經少一國淨院

法在 淨通之 淨目見 淨中丸 淨意堂

淨院其 淨土法苑此所法華身仙若內經少一國淨院

前九再

淨目見 淨意堂之書中廣風之申仕切實

經之後之名為法苑此所法華身仙若內經少一國淨院

一 的經法此例也身人教 經云吉平行於何處

淨目見者為 以問身之的意注

一 三藏經書對一應者入

一再為書院 淨土法苑此所法華身仙若內經少一國淨院

淨院其 淨土法苑此所法華身仙若內經少一國淨院

淨院其 淨土法苑此所法華身仙若內經少一國淨院

小的

••• 卷 本進

••• 橫山靜石印

- 竹村 碧介
- 河所 定遠
- 中村 純介
- 桂松 出雲
- 增田 善九郎
- 一 善所 志文
- 一 志所 俊吉郎

一 志所 俊吉郎 河所 定遠 中村 純介 桂松 出雲 增田 善九郎

下 志所 俊吉郎 河所 定遠 中村 純介 桂松 出雲 增田 善九郎

今

但 志所 俊吉郎 河所 定遠 中村 純介 桂松 出雲 增田 善九郎

志所 俊吉郎 河所 定遠 中村 純介 桂松 出雲 增田 善九郎

志所 俊吉郎 河所 定遠 中村 純介 桂松 出雲 增田 善九郎

增田幸平

柳川と在門史の巻

沖鏡集下 沖鏡上 作月夜

沖意集之巻 沖鏡集下 沖鏡上 巻下 巻中 巻上 巻末

沖鏡集下 巻中

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末 巻上 巻中 巻下

沖鏡集下 巻中 巻末 巻上 巻中 巻下

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末 巻上 巻中 巻下

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末

沖鏡集下 巻中 巻末 巻上 巻中 巻下

沖鏡集下 巻中 巻末 巻上 巻中 巻下

沖鏡集下 巻中 巻末

右 山代官の相為 河所流等

右 修り多段等之 安否所願少様

中書由

一 江表先月書等 並史使の返書

清奥原越 清威藩之 此等の山代家等

今中未列也 清威同族等 此等の山代家等

左 道

九月五日

右田老更

多由山代等  
昔中書等向為所  
留書等之書  
以 清威藩等  
終在江表等  
馬等  
同月十日

日書

陸本物書

本初等 月引込 江表等 今使下江等

清威等 清威等 江表等 江表等

江表等

口上覽

秋後代書

謝厚恩書之序及之序下序亦無以  
行月名也此序之末以載此序全略

行月名之序及之序下序亦無以  
出於左動可也之序及之序下序亦無以

以 謝厚恩公序及之序下序亦無以  
今其序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以  
謝厚恩公序及之序下序亦無以

序及之序

年及之序

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

九月

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

九月

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

九月

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

謝厚恩公序及之序下序亦無以

右今箱 御清代梳香 本動中

日九

真茶院極

清色日片

右因所

右因人

右今箱

清代梳香 本動中

加納影太

河所跡在  
与有止心

右明其京山新子御清代梳香 本動中 馬及長路

右今箱

右今箱

右今箱 御清代梳香 本動中

右今箱

右今箱

右今箱

右今箱 御清代梳香 本動中

右今箱

右今箱 御清代梳香 本動中

右今箱

右今箱 御清代梳香 本動中 御清代梳香 本動中

右今箱

真田 末

江州法書堂

九月十九日

松年大德堂

奏毛利澄信

毛利左京亮

奏細川隆光

澄信

毛利徳之助

後信守其於五大侯更在東元之在妙通送

依今道中子徳之助

在於河内書院後教老年列在山地中後

江州通海之船中船

御舟之御舟中船

中長柄之船

船中載舟之

松桂堂

中長柄之船

船中載舟之

加納新

中長柄之船

船中載舟之

吉田新

中長柄之船

船中載舟之

休庵新  
西村新  
辻新

一 山音類

山音類

平尾七郎

一 山侍共人

一 山徒兼主人

中村源藏

一 山政用所主人

外科員

差侍主人  
金子敬叙

一 貝之教以主人

一 山徒士目月主人

山徒及  
小島安久

仁丹主人  
長瀬又作

小島主人  
長瀬又作

小島主人  
長瀬又作



武安

法  
弓  
纜

大青  
長柄  
貝名  
纜子  
香石  
玉藥石

檢九人  
長柄  
纜子  
香石  
玉藥石  
武安

香石  
大張  
纜子

香石  
長柄  
纜子  
香石  
武安

橫井一平

右大坂表所用の五仕と左所法用表の  
紙中並に及原文の月形並に

評語

此之在推後又良也  
牛所養之在錢之月漸深  
此之在漢 評語物道更何  
難之在以此終之也

核并三斤

七日於友

一 傳

評語是後因評語境出納之良也

但起日之在錢之月漸深

二 町奉行達

第為願海所角分者評語今之良也  
入仕角分在良也

八日

一 評語

評語是月其將出仕出酒之良也

評語境中

高願之月其將出

尾給金四谷法日所事信

仙居因評

出仕之良也

卷之三

但願諸君今日幸勿為俗儒所惑

王維基 詩集

一、夕方之新出樓中甚有甚 詩集(續)

皆自付了中時名

右後諸人出同付了中時名

一、評法

廿二日

月

春為 詩集 大書院

詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

詩目是 詩集(續)

詩集(續) 詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

詩集(續) 詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

詩集(續) 詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

一、評法 詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

詩集(續) 詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

詩集(續) 詩集(續) 因序人之言 為法度或臨上無所

未嘗 廿二日

仕合

次所書評  
伊東政教  
小川多富  
櫻井政隆  
岡中岩所  
福原春所

一 在御殿法用友同之南之方家之在社  
行也少在之在社 神國見  
待去之之也則書也其合仕也

一 仁壽法用部屋之在社之在社  
清境之下社之在社法權中之在社  
一 山部法行也

仁壽為其社行部中之由

石部成之也  
入年中月正也其後  
仁壽中及科了也其後  
按可引也上之也

甲橋方皆也  
仁壽中及科了也其後  
仁壽中及科了也其後  
仁壽中及科了也其後

Vertical text on the far right edge, likely bleed-through from the reverse side of the page.

一 運給軍物

唯九月自志名所往  
皆云乃名之在哉

取并發  
物并口發  
其以文在

卷之三 兵法

兵法

林桂在

同卷三 兵法

同卷三 兵法

一 運道

一 運道

一 運道

一 茲和夏風音

小古江

一 存今方其以江心年法

一 清院之沙樓清園家聲在江心

一 下江心變而之方以北古兵舍化不念度受

一 茲和夏風音

一 清院之沙樓清園家聲

九日 友

一 傳清利之先後河清樓塔出酒會

一 傳清利之先後河清樓塔出酒會

書後二首在江心

一 清院之沙樓清園家聲

一 清院之沙樓清園家聲

并上德名

十日 德

一 清院之沙樓清園家聲

一 清院之沙樓清園家聲

一 清院之沙樓清園家聲

一 清院之沙樓清園家聲

一 詩集卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

仙石在馬助

十

右顧書院所藏武都卷之六 武都 卷之六 武都

詩集卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

一 武都 卷之六 武都 卷之六 武都 卷之六 武都

桂林金陵波水入舟

一 濟南下流文相往來涉用最在早川底面  
改新河以相往來 一 出出河相約之極道

此圖有古中流之圖

一 在沙土流之約無二番此處為是白來流者

一 在細流以舟入此圖中中流

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

此圖有古中流之圖

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在沙土入會所也勢險甚 許能

一 在通河之口也

一 在通河之口也

一 在通河之口也



一 十月十日

萬新九所

以行中

一 右後一柳真程 書收公中 亦收中後

一 唯古備以程 以收書去 以例以人 亦

一 以國入書

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 九月廿九日

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

一 右通以以 院院以 是是 以中 其後

啟極

許菓子

此月版

一打

新雅極

許菓子

此月版

有... 此月版

此月版

仙石

今數...

言...

其...

此...

此...

此...

此...

此...

此...

此...

新修橋石自注

三修橋石自注

山村自序

仙居自序

右於 清修自序

清修自序 延因序

清修自序 延因序 延因序

清修自序

右因

清修自序 延因序 延因序 延因序

右藏之江刺用入者  
正清慈意之清身沙之位乃戴法位  
收能之

十日世法本德法麻卡

一 玄猪沙夜自且平肘麻卡下之用也  
此小细入者沙夜身细沙微境中之一

一 清兄弟极方之沙夜小出在法由者之一  
出位之一  
仙和同德分

一 在国乃清国法之系  
沙夜麻卡之

一 在国别

一 柳真性  
沙小性  
沙用  
因格之面

一 於清法之名沙年身仙在国乃之柳是  
清国乃正磨斗沙夜通身乃以我位之一  
一 玄猪沙夜解沙法之通沙年身乃因是乃是  
沙夜律高沙夜以我位之一

一 大書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 中書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 小書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 右書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 左書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 右書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 左書院

沖出沖上候一沖出候は越沖候候上供養禁  
止小姓類公仕申出候に或人の仕合に載出候人  
以下に候候に或人の仕合に或人の仕合  
に載出候に或人の仕合に或人の仕合  
或人の仕合に或人の仕合に或人の仕合

一 玄緒出化行自乃裁之圖之止權印字書如三組  
札法之入詩境

於印表真因東

以一月之後也皆所  
前為後也中後

法海三三三三三

法海三三三三三

日

世後

一 休爾安寧

一 漸入減之由

義慶

一 印

松林勳

色在

山品

日

地利

夜

修

詩

物

在面之公山及於如為守其標具以古詩法

入詩境中及在願從詩法也其法也

中法多月也例用之也

詩法多願也道詩法也之在也月也

中後

法

法

右溪 清對面所前溪後庭  
清溪之遊名清溪殿無相攝攝其外  
意之矣宣政七年正月  
清溪之遊名清溪殿無相攝攝其外  
一左通山園月夕後

江別  
松居勳

丹後  
山家

日  
佳哉  
有  
佳哉  
恒助

右之向之公區及於其守其操其功

如海後入

清溪中及於遊

位公位之天氣治事

清對面所前溪後庭清溪殿

名也 仰自心養而於其不若境

櫻子與成子之信也此中事

右之後沙年之各公之各事也

十月十日

新九所

中

任以知事之後不能之也中事也  
出以知事之後不能之也中事也  
任以知事之後不能之也中事也

一 右之後一柳五元

十日 快

一 例別出仕出納人等何法減除也

出仕之

仙石内務

以 沖原信休任

雜各名明後法各江表

出仕信休任

因人

右國新法事

國新法事

右國新法事 沖原



葛野長尾

右沙田翁の遺言に於ては、沙田翁用意出果は

為後子孫に遺言に由るに依りて沙田翁に

沙田翁の遺言に依りて

此沙田翁の遺言に依りて沙田翁の遺言に

長尾の遺言に依りて沙田翁の遺言に

沙田翁の遺言

七五五郎の遺言

日野人の遺言

日野人の遺言に依りて

後田翁の遺言

園口翁の遺言

以沙田翁の遺言に依りて

長尾翁の遺言に依りて

後田翁の遺言に依りて

川田翁の遺言に依りて

橋井翁の遺言

長尾翁の遺言

一 右沙田翁の遺言に依りて沙田翁の遺言に

長尾翁の遺言に依りて

後田翁の遺言に依りて

長尾翁の遺言に依りて

沙田翁

右國朝中融進方...  
清海...  
後由...

元...  
江...

# 寶人進

不...  
誰...  
引...  
口...

...  
中山...  
...

# 仙石因...

右明後...  
...

...

...

# ...

右國朝...  
...

長壽表曰公孫

法蘭書公

法蘭書公明後日

法蘭書公明後日

法蘭書公明後日  
法蘭書公明後日  
法蘭書公明後日  
法蘭書公明後日  
法蘭書公明後日

仙石因

右再出制清人

法蘭書公明後日

日人

右 明後日出

法蘭書公明後日

法蘭書公明後日

法蘭書公明後日

法蘭書公明後日

法蘭書公

是初長卷

在 清自見社 竹月蓋 法意也真平

以載、沙禮、法用約分、長、中、進、古、解、自、是

授授沙國書中師

但 以出須自

清真極、何少、極、極、長、卷、一、一、卷、由

一 門 書 大 共 法

板 柱 左 解

書 局 清 覺 大 書 院 之 題

清 出 公 同 同 行 大 書 院 書 局 之 題

清 國 之 清 中 社 書 院 清 覺 所 之 清 志 在 同 行 大 書 院

清 覺 大 書 院 之 題 清 覺 大 書 院 之 題

清 覺 大 書 院 之 題 清 覺 大 書 院 之 題

一 與 清 覺 大 書 院 之 題 清 覺 大 書 院 之 題

清 覺 大 書 院 之 題 清 覺 大 書 院 之 題

清 覺 大 書 院

依 田 大 書 院

德 松 大 書 院

打 書 一

河 原 大 書 院

中 村 大 書 院

板柱在屏

在屏字 中付修屏

一 古在屏中用書何之南之方以依之在屏之屏何也

板柱在屏

古在屏中用書何之南之方以依之在屏之屏何也

屏何也 中付修屏

用書何之南 中付修屏

在屏之友何  
以未入會何

在屏之友何

古在書院為中諸少院一院及載在屏之友何

少院何之南之方以依之在屏之屏何也

在屏之友何  
以未入會何

在屏之友何

古在書院為中諸少院一院及載在屏之友何

在屏之友何

在屏之友何

古在書院為中諸少院一院及載在屏之友何

右在屏中用書何之南之方以依之在屏之屏何也

在屏

在屏之友何

在屏

在屏

有東之青龍潭

紅山之水

清溪之水

石上之流水

山中之水

隱居之水

山中之水

溪中之水

潭中之水

友之道

清溪之水

山中之水

石上之流水

溪中之水

潭中之水

山中之水

石上之流水

山中之水

潭中之水

溪中之水

石上之流水

山中之水

潭中之水

山中之水

石上之流水

溪中之水

潭中之水

一 山崎氏以基

下所為地也皆不見之  
永井氏為跡井氏也其後文書亦不見  
之左之通中自能令之其後中之由

皆之故類

一 之六百拾壹武斗山外谷

本得是村

片岡村  
二本村

曰

之五拾壹武斗山外谷  
增之四百拾壹武斗山外谷  
此後有武斗山外谷之山外谷  
福名村  
高坂村  
六丁村

一 德和武斗山外谷

曰現來山外谷

三本村片岡村  
信光之通

增

百九拾九武斗山外谷 今川村

十一 山崎

一 傳 山崎氏復河津御原山外谷

山崎

高僧

一 佛法 淨境 月 齋 齋 出 定 樂 網 念 念 何  
淨 穢 淨 之 元

佛 是 法 作 有 氣  
從 文 林 古 學 既 成 為  
入 難 今 難 淨 後 亦 如 此 也  
中 正

仙居因象

在 榜 中 月 以 此 為 記  
以 淨 法 為 修 養 之 道  
雖 心 快 今 亦 難 動 月 以 淨 中 正

仙居因象

右 以 上 諸 法 一  
淨 能 以 自 心 淨 中 正 矣

今 相 淨 矣  
出 三 身 中 正 矣  
以 妙 月 淨 矣 中 正

高僧

古 之 高 僧 須 林 古 學 既 成  
難 長 固 心 而 亦 為 高 僧 矣  
今 相 亦 多 矣 古 僧 亦

高僧

一 仙居因象



高麗書院圖書之類

官公書院圖書之類

仕族私書院圖書

仕族私書院

國公書院

仕書院圖書之類

仕書院圖書

仕書院圖書之類

仕書院圖書之類

仕書院圖書之類

仕書院圖書之類

仕書院圖書

仕書院圖書

國門書院

國門書院

書院 書院圖書之類

書院圖書之類

書院圖書之類

書院圖書之類

書院圖書之類

仕書院圖書之類

仕書院圖書

國門書院圖書之類

自來水之管線之修補之工組所至修之也

左道 沖功之也

他修花之中之管線之修補之工組所至修之也

自來水之管線之修補之工組所至修之也

自來水之管線之修補之工組所至修之也

沖功之也

增田慎之  
小林善作  
長谷川一  
田中吉

井上善作  
增田善作

一 自來水之管線

自來水之管線

自來水之管線之修補之工組所至修之也

自來水之管線之修補之工組所至修之也

沖功

一 左道之修補之工組所至修之也

自來水之管線之修補之工組所至修之也

增田慎之

自來水之管線之修補之工組所至修之也

此自派金或百大...

友通於所...

此名德術

清原元正...

清原元正...

此自派金...

此自派金...

此自派金...

三所...

增田是所

差和不及于...

念合...

此自派金...

小倉之...

此自派金...

二宮一...

因石友...

右今日增田...

不念自忘入...

右之通...

与法...

相傑是...

是时...

一柳真...

一 河對面所前於沙度底在標也

一 河度九府等處 河出之處沙地甚多昔年曾見

一 柳五里河人于河邊及河後處均有在河

一 河出之處前邊有海河沙地亦有在昔年於河後處

一 河入之處均有河沙之中

一 相標後之波見為之似河出河人上似昔年曾見  
河沙之也

但沙地茶沙年久直埋上如十沙地等處  
為也

一 在標一式並東面在標其大在標二似在標也

在標其也

但河沙東面似 似在標其也

在標其也

河沙東面似 似在標其也

一 土後河之處似在標其也

在標其也

一 在標其也

在標其也

一 在標其也

沖田不出兵也

右様其外沙廣原に在りし其の東門

より今より町立出者し其の東門

より今より町立出者し其の東門

出くはるなり

一 沖田不出兵也

沖田不出兵也 沖田不出兵也

一 沖田不出兵也

沖田不出兵也 沖田不出兵也

相様相様 沖田不出兵也

今より沖田不出兵也

今より沖田不出兵也

一 沖田不出兵也

沖田不出兵也 沖田不出兵也

今より沖田不出兵也

一 沖田不出兵也

沖田不出兵也

沖田不出兵也 沖田不出兵也

一町分概見在社已至時之在し中終人ノ所清  
部公在公委細中延沙用數馬

齒年換之乞之修月 吉田志之

元中又國ノ多ん 波多島島

町之字村 和山ノ修馬

乞之位年約中ノ之 永年修馬

功ノ門島

高八百七拾七石三年或外石

現石七百拾七石或外石

八百石三年七石石

拾石七年七石石

六拾石七年四石石

印 七石 守村 中石

一長 辰巳五年石門石

一長 七拾七石分或外石

一長 七石分

一長 拾石七年或外石

乙年

一 松石七年甲子春

一 七名

一 松石七年甲子春

一 七名

松石七年甲子春

七

松石七年甲子春

松石七年甲子春

七

松石七年甲子春

七

五

松石七年甲子春

一 松石七年甲子春

一 七名

一 松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春

松石七年甲子春





一 如襟海之石为伴能冲撞以别国者

中

一 如侧以美意冲调冲卷之及款之法推

中

出仕身者  
冲江中道

一 折五理

一 因冲国论卷系  
在国以

冲小性须  
出用  
相格之高

一 如高冲国论卷系  
的相撞也

一 如高冲国论卷系  
的相撞也

一 如高冲国论卷系  
的相撞也

一 如高冲国论卷系  
的相撞也

町

冲物  
冲物  
冲物

十日前

一 傳 清國先後之何休也

一 望表之 遂及之 清國狀之

一 望表之

但丹波路二日之史也

十七日 辨音律一

一 判別出位也

大藏院  
清國有紀  
善見院

早川

古今相お動成中並當  
左之面切之清國部  
作月以中獲清國部

清能

清國有紀

善見院

三

清月山下故人  
三三三  
水邊

山石溪頭  
五

山竹裏  
中馬

山竹裡  
或

山竹

山竹裡  
或

山竹

山竹裡  
或

山竹

山竹

山竹

山竹

一 漢書地理志

左之漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

漢書地理志

一三三

錫 行 但武裝  
清 務 但武裝  
山氣版 二 亥 白 亦 其 持 武 裝 入

毛面  
其 持 武 裝 入  
松 少 口

但 山 氣 版 之 人 亦 武 裝 少 矣 之 終 武 裝

一 全武百丈

東面

國 文

一 日百丈

新 日

相標 清 明 寺 有

一 全武百丈

二 山 子 乃  
世 多 人 更 之

一 山武

新 日 口

一 山武

松 岳 劫 也

一 山武 二 亥

山 氣 版

山 氣 版

海 氣 版 亦 武 裝 恒 助

十 介

一 錫 山 清 山 氣 版 亦 武 裝 亦 武 裝 亦 武 裝 亦 武 裝

一 全武百丈

東 西 大 國 口

一 日百丈

新 日

相標 清 明 寺 有

全武百丈  
同 百丈

新 日  
力 甚

日心集  
日夏

七  
作之解

一 松林集卷之六下之十  
清酒集  
山名版

一 宝殿天保  
清酒集  
清酒集

十

一 傳 清酒集後何所  
清酒集

弘道後集

後集

一 吾後日集

清酒集後何所  
清酒集

清酒集後何所  
清酒集

清酒集

方通昨昔言寸寸有餘交配成中事也

昔也無誤矣幸

不似昨日之有

政以佳而為

但一途之改而為

不若之及何也

萬念子

中政初

科考

十九日 附發

一 休日 冲日 是後 何冲 祇 德 昭 湖 公 公

江蘇定例

如所

如新大所

一 江蘇省 官公 刑 役 房 相 基 公 叙

清 吏 相 益 清 威 德 是 公 清 吏 不 均 旨

以 刑 案 之 官 也 清 吏 司 申 事 也

化 德 而 效 清 吏 司 官

齊 德 德 德

所 官 也 德 德

德 德 德 德

由縣司請於縣簿上書新上江津府方二備  
信法即應之誠止為善長也切一有立可也  
日所共書新是遠水所種新也以此信  
容者予之備之在也方在也  
此言後之南也信也之予居之以此信也之信也

五之二十八年

日五

一 左之道法義流於世之名也  
傳在寶月西村 曹三合在傳中

### 森海門

今收此書之...

但法...

...

一 左之道...

...

### 右頁八

日五

一 左之道...

...

...

...

...

...



松年或為情  
手實之印

林古言

仙不修竹夜  
與古言

一 存形  
一 百步身中  
一月出用

一 區  
專人教  
厚年公  
即有教  
男百  
女百

長國

任養院  
師青

右今  
清公

一 苦  
右  
行  
你

一 左ノ面ニ清見ノ候ニテハ昔ノ時ニテハ...

右ノ面ニ...

此ノ...

大日...

一 例ニ出テ...

信...

決...

一 且...

貞...

清...

例...

清...

南...

中...

是...

一 在通商口岸

吳川門

白板橋

在通商口岸

在通商口岸

一 在通商口岸

在通商口岸

在通商口岸

在通商口岸

今教者 漢代高士國人道

何有禮教

在通商口岸

今日之教

一 在通商口岸

在通商口岸

在通商口岸

在通商口岸

在通商口岸

明書高志... 日... 先入會...

一 右... 津能

一 但... 叔母... 叔母...

一 湯約...

皆... 高... 給...

日... 高... 給...

高... 給...

高... 給...

皆...

高... 給...

高... 給...

高... 給... 山... 高...

山... 高...

山... 高...

高... 給...

高... 給...

高... 給...

高... 給...

高... 給...

御書 松尾忠定公外史(引方)  
此後石松尾忠定公外史

皆奉紙  
高百松尾忠定公外史

日

御書 松尾忠定公外史  
御書 松尾忠定公外史  
御書 松尾忠定公外史

方一 通 少外史

十月 春

其色 少外史  
御書 松尾忠定公外史  
御書 松尾忠定公外史  
御書 松尾忠定公外史

山一 年  
桐所理

上村  
中村  
下村

川方

山一 年 桐所理

上村  
中村  
下村

山一 年 桐所理

御書 松尾忠定公外史  
御書 松尾忠定公外史  
御書 松尾忠定公外史

早川 石

才分所成果則分也

の若ふは左の如き如き海有  
双方懸行して難儀行はれ  
西國之云は口直云云云云

書津助更

一 津助書行書

左し道申付由

山平

十分出たし後来子等  
長年分付はり難

水秀行

利助

女日 其時

一 傳 津國是後因津板娘出酒戸

一 今宜得末思はる

一 津助 津出は 津行後因は酒戸

又

女日 其時

一 傳 津國是後

津國是後因津板娘出酒戸

津國是後



年分

股款

年分

右者係廣東省城... 少... 接...

許國公 許國公...

白昇

右係用銀...

許國公...

會

...

松

右係...

許國公 作

許國公...

會

...

右係...

許國公...

許國公...

...

...

...



古長文歌

同古書

古長文歌

同古書

古長文歌

古長文歌  
古長文歌  
古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

古長文歌

和

宣统元年

位

宣统元年四月廿五日

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

拾石

清江浦 清江浦 清江浦

一月内 清江浦 清江浦

清江浦 清江浦 清江浦

十月廿五日

一 倒刺出仕以出網之...

宣和相府...

清江浦...

松...

...

...

...

右...

清江浦

一 右...

清江浦...

...

...

...

...

一 右...

...

...

...

右...

一 梁姓氏  
梁姓人氏

梁姓人氏  
梁姓人氏  
梁姓人氏  
梁姓人氏

梁姓人氏  
梁姓人氏

一 居合

杜叔人

方方 法法

法法 法法

法法 法法

法法 法法

法法 法法

法法

法法

法法 法法

法法 法法

法法

早月

中村修平  
梅松名作

清江居士

七十五

梅松名作

曲園居士

梅松名作

末

一 古書陳法用書何...  
由...  
清園居士

清園居士

杜松名作

一 古書少用...  
清園居士

一 古書...  
清園居士

一 古書...  
清園居士

一 古書...  
清園居士

古書...  
清園居士

古書

古書...  
清園居士

古書...  
清園居士

古書...  
清園居士

Handwritten text in the top right corner.

Handwritten text in the bottom right corner.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the bottom right section.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the bottom right section.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the bottom right section.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the bottom right section.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the bottom right section.

此乃...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...

...  
...

...

...  
...

...  
...

...

...  
...

...

...  
...

...

...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中

法并公孫龍中



一 沙年考 沙因之免江在後至江師在後以江改中

沙年考 沙因之免江在後至江師在後以江改中

但沙年考以氣在後至江師在後以江改中 沙因之免江在後至江師在後以江改中

於沙年考之間

沙年考  
沙因之免

石 沙因之免 但沙年考在後

沙年考 沙因之免 但沙年考在後

沙年考 沙因之免 但沙年考在後

沙年考 沙因之免

沙年考 沙因之免 但沙年考在後

石 沙因之免

沙年考

沙年考 沙因之免

沙年考 沙因之免 但沙年考在後

一 沙因之免 沙年考

但沙年考以氣在後至江師在後以江改中

一 沙年考 沙因之免

沙年考 沙因之免 但沙年考在後

沙年考  
沙因之免

久米定氏

一 沖野名村針子白糸之糸是產古馬井 在何山江校

一 紙入許覽

但此之老早之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村

沖野名村

沖野名村

右切之沖野名村之糸

沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

一 沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村

右沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

一 沖野名村之糸 亦亦因之

沖野名村之糸 亦亦因之

及接取以經子以日當以爲定在始之也亦如何也  
何之也中經之平也定其法每時其法以經子之  
惟明之也經子以分爲一以之也其人口數年之可  
以見其子以之也一以之也

一 涉定細一以經子以書以經子以分爲一以之  
不也 涉對面所一也中事

但右以與人下之不及也

一 經定以平動定也切之也其力下之也經子以分  
何之也下段在也右之也及後也

### 經定以

各段年中涉定出格涉定也其力下之也  
涉定對面所一也中事  
地而起引一也其法每時其法以經子之  
以經子以分爲一以之也其法以經子之  
一也其法每時其法以經子之  
涉定動故是也其法每時其法以經子之

### 涉定

各段年中涉定出格涉定也其力下之也

既出箱山則其... 出箱之日... 出箱之日...

出箱之日  
其日也

出箱之日... 出箱之日... 出箱之日... 出箱之日... 出箱之日...

出箱之日... 出箱之日... 出箱之日...

出箱之日  
其日也

出箱之日... 出箱之日... 出箱之日... 出箱之日... 出箱之日...

出箱之日  
其日也

出箱之日... 出箱之日... 出箱之日...

常之... 原... 年... 收... 中... 出... 能... 的

今研... 故... 三... 位

一 賢人

山... 新... 地... 有... 組... 織... 者... 也

松... 本... 山... 本... 山... 本...

中... 海... 之... 流... 以... 公... 十... 年... 者

山... 本... 山... 本...

共... 日... 記... 錄

- 一 體... 許... 日... 竟... 友... 何... 以... 小... 組... 戶... 也... 否... 也
- 一 長... 之... 由... 許... 用... 成... 以... 否... 也... 古... 七... 日... 以... 何... 本... 社... 員... 也... 也

山... 本... 山... 本...

山... 本...

山水佳

行東德意  
小林碧清  
山水佳

雖病亦有橫列如平如面如鏡  
若其心動神行若列如平如面如鏡  
若其心動神行若列如平如面如鏡  
若其心動神行若列如平如面如鏡

中瓦次

女七日

例利出仕 汗自覺其何法極短小純

身重口多動於心者乃亡父之面  
身重口多動於心者乃亡父之面  
身重口多動於心者乃亡父之面  
身重口多動於心者乃亡父之面

身動後

言者口下三言皆遠矣私每出同

因以假例為身同化亦私每

松栢五

因以假例為身同化亦私每

出例

因以假例為身同化亦私每

子伯德

因以假例為身同化亦私每

升

因以假例為身同化亦私每

門才九

山地為

右為 汗覺其何法極短小純

...

許國因序大昔一問以成紙卷之

許國又 許中在之其一二名 許國別

許國之遊涉以今西江極都 許國孫之於一頃名別

許國人之名 許家

一 許國之孫之子許國人之名 許家一二名 許國之

許國之 許國之孫之子許國人之名 許家一二名 許國之

許國之

印也

岩波文也

河橋寺也

定百寺也

右方書曰古名也

水也

舟本新也

大山也

山地勢也

右方書曰古名也

右方書曰古名也 許國之孫之子許國人之名

許國之孫之子許國人之名 許國之

許國之孫之子許國人之名

也

右身... 門... 在... 今... 許... 家...

許... 之... 仁... 自... 善... 許... 之... 許... 之... 許... 之...

許... 之... 許... 之...

一 友... 通... 仁... 許... 皆... 許... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

長... 園... 法... 家...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 地... 法... 家...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 仁... 法... 家...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 林... 法... 家...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 法... 家...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

仁... 自... 善... 許... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

山... 之... 許... 之... 許... 之...

右... 月... 善... 之... 許... 之... 許... 之... 許... 之...



何れも歩み毎に歩み人々の心は静かに静かに静かに

竹村信三  
竹村信三  
竹村信三

右の竹村信三は竹村信三の竹村信三

竹村信三  
竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹村信三

竹外清風竹中綠 竹外清風竹中綠

一 竹外清風竹中綠 竹外清風竹中綠

一 竹外清風竹中綠 竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

二月夕石月

竹外清風竹中綠  
竹外清風竹中綠  
竹外清風竹中綠

二月自耕不為

竹外清風竹中綠  
竹外清風竹中綠  
竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

竹外清風竹中綠

廿八日晴

一 体日 汗自出及何似微短者乃以夜及口少烟

一 後 續初 何也

新 亦

一 胡... 何... 王...

一 中... 引... 致... 因...

一 夕七... 有...

一 竹... 步... 作...

一 父... 弟... 弟... 弟...

一 升... 行...

一 小...

一 总... 久... 广...

一 杉... 三...

一 二... 三... 四... 五...

女九日世治

例列出仕出納

奉天院檢出卷百封

張炳文

有書物在卷中

卷中書卷

in-Book

門卷卷

始用

用卷

中卷

右方清卷

清公因房

清卷

清卷

清卷

清卷

清卷

清卷

牛月

田中久藏  
中江野矢

吉野

三浦武久  
中江野矢

吉野

伊藤野矢  
村山英次

吉野

中江野矢

吉野野矢  
中江野矢

吉野野矢  
中江野矢

吉野野矢  
中江野矢

吉野野矢  
中江野矢

吉野野矢

中江野矢

吉野野矢  
中江野矢

吉野野矢

中江野矢

田中  
德政

伊藤  
少佐

右田村植松

中野

田中

中野  
如左  
了  
田中

及田

田中

田中  
軍

田中

田中

田中

右 田中

田中

田中  
田中

田中

田中

田中

江可秋池山流如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭

一、江中流如箭如箭

江中流如箭如箭

上组大花龙花箭如箭  
江中流如箭如箭如箭

上组  
江中流如箭如箭

江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭

江中流如箭如箭  
江中流如箭如箭

江中流如箭如箭  
江中流如箭如箭

江中流如箭如箭  
江中流如箭如箭

上组大花龙花箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭

江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭  
江中流如箭如箭如箭

格列克業書局  
吳芳詩行

右同  
吳芳詩行



出石藩

御用部屋日記

弘化二年十一月

出石町公民館蔵

弘化二年己丑年

御蔵

日記

仙石家蔵

十一月

台平書  
 少壯懷安  
 此意多事  
 少壯懷安  
 少壯懷安  
 何事月  
 元方子勤安  
 少壯懷安  
 少壯懷安  
 少壯懷安  
 少壯懷安  
 少壯懷安  
 少壯懷安  
 少壯懷安

# 火情

定曉以滿三場

仙名在集  
 伴口寶齊  
 少壯懷安  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月  
 如何九月

杯極其齊  
 加意其齊

西山平齊  
 智見其齊

雜言

一 例列先在本館之文以相感於上

一 文章優劣之分

今願 所覽見也任屬部本別為之

一 文章之分類

先月分中分半指成書之分類之由也

一 文章之修飾

先月分中分半指成書之分類之由也

↑ 文章之修飾書之由也

一 文章之分類

文章

一 文章之修飾

一 文章之分類

↑ 文章之修飾書之由也

↑ 文章之修飾書之由也

↑ 文章之修飾書之由也

↑ 文章之修飾書之由也

引名定日行類書

國語彙考  
分并卷之四

一 尔以履之

此乃履公命也... 尔以履之... 尔以履之... 尔以履之...

庚辰年刊

尔以履之... 尔以履之... 尔以履之... 尔以履之...

一 尔以履之

尔以履之

改和

尔以履之... 尔以履之...

尔以履之

尔以履之... 尔以履之...

一 尔以履之

尔以履之... 尔以履之...

言言公言言言

言言言言言言

一 言言

此言行言言言言

元分  
一  
言言  
言言

言言言言言言言言

一 言言

言言言言言言言言  
言言言言言言言言  
言言言言言言言言  
言言言言言言言言  
言言言言言言言言  
言言言言言言言言

言言言言

二 言

一 言言言言言言

一 言言言言

言言言言言言言言  
言言言言言言言言  
言言言言言言言言  
言言言言言言言言

言言言言

清溪二首送高北苑

二日

一 休日 清月竟夜何處在

清溪二首送高北苑

可川

四日

一 例列在

清溪二首送高北苑

清溪二首送高北苑

可川

秀 秋 五 年 多 一 日 清 院

清溪二首送高北苑

可川

清溪二首送高北苑

可川

清溪二首送高北苑

可川

一 竹 之 室

竹之室... 竹之室... 竹之室...

井上 某

信 泰 院 様

大 谷 氏 様

清 佛 院 様

所 以 見 仁 心 所 以 法 道 運 創 也

竹 之 室 之 事

竹之室... 竹之室... 竹之室...

竹之室... 竹之室...

竹之室... 竹之室...

竹之室... 竹之室...

大 谷 氏 様

竹 之 室

口 六 斗

口 六 斗

口 六 斗

口 六 斗

竹 之 室

大 谷 氏 様

竹 之 室

大 谷 氏 様

竹 之 室

以是為事  
大のりて下

在月三度  
大のり

山平の牛

何二二

何三三

何二二

大のり

并原の牧場  
送分の  
景下

其の

大のり

何

何

何

何

何

大のり  
何

大のり

何

何

何

何

何

大のり

何

何

何

何



五回  
五回  
五回  
五回

一 古き教訓を以て訓導せしむ  
古き教訓を以て

五回

一 古き教訓を以て訓導せしむ  
古き教訓を以て

五回  
五回

一 古き教訓を以て訓導せしむ

一 古き教訓を以て訓導せしむ  
古き教訓を以て  
古き教訓を以て

五回

一 古き教訓を以て訓導せしむ

一 古き教訓を以て訓導せしむ  
古き教訓を以て

五回

一 古き教訓を以て訓導せしむ

一 古き教訓を以て訓導せしむ

三下

五回  
五回  
五回

口口人曰 三不

右并各名器并刻为在字者由内之右通切之  
如须是左厚之字之右者之左

一 守身之道

口口口口口口

口口口口口口

口口口口口口

口口口口口口

口口口口口口

口口

一 保身之道

所说不守身之人在中而身以行其德也

口口口口口口

口口口口口口

口口口口口口

口口口口

口口口口

一 守身之道

所说不守身之人在中而身以行其德也

口口口口

清平... 清院所... 山... 德...  
... 清... 德...  
... 德...

抄... 德...

江... 德...

... 德...

末

德...  
... 德...

山... 德...

德...

大... 德...

德...

国... 德...

德...

右... 德...

... 德...

... 德...

德...

右... 德...

... 德...

... 德...



谷地男也為所て此地所て此也  
此 此

口方也

天間

方也

谷地男也  
其地男也

移井丁平并父長記女命

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

田中作也

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

田中作也

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

此内屋原也長記女命

田中作也

六

傳 清見及何我在此

名美阿孫

1870年 5月 10日

吾知地孫

1870年 5月 10日

其外亦

友之助

汝父相勸也

汝父相勸也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

公平用事之語也 汝父相勸也

此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

其外亦

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

其外亦

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

一 此山虎標為當年武裝之用也其字為人所統守也

本至其行及身及事法所由在也到因之  
其至其行及身及事法所由在也到因之  
其至其行及身及事法所由在也到因之

此口牛也

七日

休日 清月竟及何處在也其人云云

他方有口在云云云云云云

其至其行及身及事法所由在也到因之

何因是也

其至其行及身及事法所由在也到因之

清月及身及事法所由在也到因之

何因是也

他方有口在云云云云云云

其至其行及身及事法所由在也到因之

何因是也

此口牛也

何因是也

右身及事法所由在也到因之

清月及身及事法所由在也到因之

一 例列在少物之如何本在

一 甲別後字

加筆字

有 所記之天書院

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

清公 所出之解少物之如何本在

一 清公之如何

虎口

少川

陽田



福壽泉 青島法界 小退 加蓋印信

加蓋印信

右實分銀壹元正  
清細文...

一 四...

信...

右實分... 加蓋印信... 信...

一 四...

信... 加蓋印信

右實分... 加蓋印信... 信...

右實分... 加蓋印信... 信...

小山...

右實分... 加蓋印信... 信...

一 乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也 乃之通於心也 乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也 乃之通於心也 乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也 乃之通於心也 乃之通於心也

乃之通於心也 乃之通於心也 乃之通於心也

乃之通於心也 乃之通於心也 乃之通於心也

一 乃之通於心也

乃之通於心也 乃之通於心也 乃之通於心也

乃之通於心也

乃之通於心也

一 大至三石

一 道 弟三石

一 大至三石

一 弟三石

一 弟三石

大正十四年

弟三石

大至三石

弟三石

此は又平物に同しりかたは

弟三石

但し又平物に同しり

五石三

弟三石

弟三石

弟三石

弟三石

弟三石

弟三石

弟三石

弟三石

此は又平物に同しりかたは  
所定法に見るは  
弟三石  
大至三石  
弟三石  
大至三石

弟三石

弟三石

国清  
弟三石

九日

一 休日 清月 覺悟 何 中 清 人 志 志

一 清 月 覺 悟 何 中 清 人 志 志  
此 非 表 之 所 能 也

不 同 乎 人

有 通

物 不 言 氣 者 亦 以

一 至 後 下 年 為

清 月 也

清 月 在 善 月

清 月 亦 為 善 月 也

矣

一 清 月 亦 為 善 月 也 清 月 亦 為 善 月 也

清 月 亦 為 善 月

清 月 亦 為 善 月 也 清 月 亦 為 善 月 也

十日

一 例 則 亦 在 清 月 亦 為 善 月 也

一 清 月 亦 為 善 月

清 月 亦 為 善 月 也 清 月 亦 為 善 月 也

清 月 亦 為 善 月 也 清 月 亦 為 善 月 也

清 月 亦 為 善 月 也 清 月 亦 為 善 月 也

一 清淨居士何止佛身以上

化内清淨之實證也 口念心行而不可少也

一 亦非虛言也

古語云身如瓦石心則如金銀其質不同

而心之清淨則身亦清淨矣 此言清淨之實證也

清淨居士之清淨也 此言清淨之實證也

此中實

一 亦非虛言也

清淨居士之清淨也 此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

檀田居士

清淨居士之清淨也

此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

高山上意

一 亦非虛言也

清淨居士之清淨也

此言清淨之實證也

清淨

此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

此言清淨之實證也

清淨

清淨

清淨

清淨

清淨

清淨

一 未定書

本居氏傳二万平回中各山書より取選す

本居氏傳書人本相傳の傳也云 本居氏傳書人

少子傳書人

全武書文

作書一冊

作書一冊

本居氏

少子傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

一 少子傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

本居氏傳書人

山崎村之五等ノ下  
五等  
山崎村ノ下

山崎  
三度ノ下

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎

山崎

山崎

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎  
三斗

山崎

山崎

113年

112年

千原村之五三十四年と云々  
此等事死

116年

114年

右ノリノ一ノ多摩川

名所

名所

三ノ多摩川

一 同平合子

右ノ多摩川

千原村之五三十四年と云々

此等事死

名所

113年

112年

千原村

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山





右方より左方に於て同位角の爲に直線と直線とが平行なる事  
常同位角の爲に成る事

一 内角

内角の和が直線角の和に等しい事

不同位角

十二日

二 倒刻正位角の成る事

以て同位角の成る事と同様に成る事

直線と直線と

取付虎  
11年11月

以て同位角の  
成る事と同様に  
成る事

右方より左方に於て同位角の爲に

直線と直線とが平行なる事

常同位角の爲に成る事

一 内角の和が直線角の和に等しい事

右方より左方に於て同位角の爲に

直線と直線とが平行なる事

長久保三郎五郎

仙太郎五郎 川中又左衛門 川右衛門

拒

少右衛門

無名

小島五郎

川中又左衛門

牛尾一右

川中又左衛門  
麻呂五郎

在りぬ川中又左衛門

清原五郎 川中又左衛門 牛尾一右

川中又左衛門 牛尾一右  
川中又左衛門 牛尾一右

牛尾一右

川中又左衛門 牛尾一右

川中又左衛門 牛尾一右  
川中又左衛門 牛尾一右

牛尾一右

川中又左衛門 牛尾一右  
川中又左衛門 牛尾一右

牛尾一右

別案

新刊本署名

大集

正徳二年六月海防  
の成り

正徳二年六月海防

伊豆郡

伊豆郡

伊豆郡

一 伊豆郡

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

名

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

一 伊豆郡

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

一 伊豆郡

一 伊豆郡

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

一 伊豆郡

伊豆郡

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡 伊豆郡

伊豆郡

伊豆郡

伊豆郡

11月

竹友  
心算半片

右

故編此原法達劍中位也一層及の字并に其  
比傳る事即令て以る意ゆき事

十一

三〇〇〇

江東の宮殿の事と申すは  
此の事と云ふ事也

化の事後一有る事也

一 同方名傳る事と云ふは  
竹友

再入す可くは事也

小山地事

化の事後一有る事也

松地事

一 乃く道は竹友の事  
化ありて事也

為林後見  
清月名  
女名

五因  
後文

山家

山井

阿丹

子  
左務

大月

十二日

休日 清月覺後

抄文所

弘道

抄文所  
内  
名

後文

女名

一 山陰風土

大正五年春及山陰郡新志發行  
予之文村と云々は見ず其  
中者之の初見多分其所以と云々  
其為此心と想書云々を云々し

比年志

十四日

一 曾 清月竟及何處在何處

一 乃 進山陰風土の故

清月と云々乃と云々の故

山陰風土

一 今 九の月何處

信東風土

一 今 九の月何處 清月と云々

清月と云々 何處に清月と云々

一 今 九の月何處

十有

山陰風土 清月と云々の故

一 例 別在何處 今何處に清月と云々

一 例 別在何處

一 清月と云々の故

一 田中角梨の心  
者ありき

田中角梨  
の心

一 大馬判官の心  
ゆり月あかり

大馬判官  
の心

一 春と 清原公人 有馬守直

一 月次 有馬守直 有馬守直

一 月次 有馬守直 有馬守直  
有馬守直

有馬守直  
有馬守直

有馬守直

有馬守直

一 春と 有馬守直 有馬守直

有馬守直  
有馬守直

一 清原公人 清原公人 有馬守直

有馬守直

一 有馬守直 有馬守直

有馬守直



仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

一 仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

一 仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

一 仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

一 仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

仙翁の文法格字をたしし斗り多しを以て仙翁の文

歴々として高押の雅功の... 在後先... 心...  
此... 叙... 別... 叙... 叙...  
叙... 叙... 叙... 叙... 叙...  
叙... 叙... 叙... 叙... 叙...  
叙... 叙... 叙... 叙... 叙...

二二

一... 叙... 叙... 叙... 叙... 叙...  
叙... 叙... 叙... 叙... 叙...  
叙... 叙... 叙... 叙... 叙...  
叙... 叙... 叙... 叙... 叙...

法...  
法...  
法...

法...  
法...  
法...

法...  
法...  
法...

法...  
法...  
法...

法...

法...  
法...  
法...

法...  
法...  
法...

法...

法...  
法...  
法...

法...  
法...  
法...

右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

内意

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

免

内意

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

内意

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

右平

右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平 右平

一 少中書院、所中居少中書院之側、自名其居曰少中書院  
清見見中書院為極高北平

但此年書院之名、亦中書院之側、自名其居曰少中書院、  
名也

一 少中書院、所中居少中書院之側、自名其居曰少中書院  
清見見中書院為極高北平

二 少中書院、所中居少中書院之側、自名其居曰少中書院  
清見見中書院為極高北平

一 清見見中書院為極高北平  
清見見中書院為極高北平  
清見見中書院為極高北平

清見見  
清見見

清見見  
清見見

清見見  
清見見

清見見  
清見見

清見見  
清見見

清見見  
清見見

清見見

清見の右見の字は成る

右見

他は右見の字の二つに二つあるが、右見の字は平仮名

右見

一 乃く連なる字は成る

右見

右見

右見の字は成る 清見

右見の字は成る 清見

清見の字は成る 清見

清見の字は成る 清見

免字

右見

他は右見の字は成る

右見の字は成る

右見の字は成る 川

右見の字は成る

右見の字は成る

右見の字は成る

右見の字は成る 又

右見の字は成る 清見

作不素 内巻の記述  
他巻の由 月加み

五年のり 志摩  
左巻を分

左巻の  
二巻を分

名姓屋を分  
左巻を分  
右巻を分

一 左巻  
右巻を分  
左巻を分  
右巻を分

右巻 内巻を分  
作不素を分  
志摩人

右巻を分  
左巻を分  
右巻を分  
左巻を分

三巻を分  
左巻を分  
右巻を分  
志摩人

志摩人

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

信長公遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

一 信長公の遺言に依りて

信長公の遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

信長公遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

一 信長公の遺言に依りて

信長公の遺言

信長公遺言

一 信長公の遺言に依りて

信長公の遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

信長公遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

信長公遺言

一 信長公の遺言に依りて

信長公の遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

信長公遺言

此の書は信長公の遺言に依りて  
世に傳へられたるものなり

信長公遺言

一 信長公の遺言に依りて

信長公遺言

正心誠意格致修齊治平  
何半此說亦為其半

一 古之學者必先其心而後其術  
心者身之主也

一 亦以廣其學也

心者身之主也  
身者心之舍也

國而事之

廣其學也

古之學者也

一 則其心也

心者身之主也

身者心之舍也  
心者身之主也

心者身之主也

心者身之主也  
身者心之舍也

心者身之主也

心者身之主也

一 乃其心也



一

秋夜の寂しき素

清月を其の上にて後身

作らざるは其の意を先好む 此の道徳を

未知せず不修の心より修むは 此の道徳を

修むは 此の道徳を 此の道徳を

此の道徳を 此の道徳を

二

仙居

十六日

一 休日 清月を其の上にて後身

一 清月を其の上にて後身

清月を其の上にて後身

清月を其の上にて後身

六七日

一 劍刺出仕少助少次保家為上

大慈地孫少助少次

清三郎

川成者

三川屋為

一 右方之相動在座之上為人分之内死

一 守主人至

少保乃侍中者之也

内亮之在座者之也

少保之也

國公之也

一 此本座周也

守日者之也

内亮之在座者之也

少保之也

廣保之也

少保乃侍中者之也

内亮之也

清三郎之也

右田人

橋下之也

右田大書院之也

少保之也

清甲... 竹...  
...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

一

清...  
...

...  
...

...

...

...

一

...

...

丁巳年書事續錄丁巳年書事續錄其相公曰  
實人以此為難其相公曰

化人言此何處多此子加此子物致丁巳年書事  
以委身於此

一 家山書局

再書

以多勤之有假

三月十日

在六二年前少假

先二七十月十日

以多勤之有假

一 家山書局

以多勤之有假  
以多勤之有假

一 次文書

丁巳年書事續錄丁巳年書事續錄其相公曰  
實人以此為難其相公曰

以多勤之有假

以多勤之有假

以多勤之有假

以多勤之有假

大横 内免者形以美名  
大横 是乃是乃美名

大田人

右邊 右邊是實人乃乃

十六日

休日 清月竟後何家能作成人之

海新者  
此是夜之...

海新者

五段 不子否否否否否否否否  
八段 不子否否否否否否否否

不子否否否

力之般地 洲内余為...  
力之不子否否...

力之不子否

自出...  
位出...  
位出...

位出...

伯井...  
位出...  
位出...

位出...

清...  
清...

休日 清涼寛後之何休清涼今夏

姉妹丹丸の世の細粒を全うし因縁を  
今秋の世の中は

一文文

一月

五月後に出立は後を今夏

石田

山書

石田今月事多し山書は山書相傳ふ山書は  
山書は山書は山書は

山書

山書は山書は山書は山書は山書は山書は  
山書は山書は山書は山書は山書は山書は

山書

山書は山書は山書は山書は山書は山書は

山書は山書は山書は山書は山書は山書は

山書

山書は山書は山書は山書は山書は山書は

山書

山書は山書は山書は山書は山書は山書は

山書

有之國云 清死云云

清公為孤親也云云 所云之國云云

一 貞泰在極多事有足清 所云之國云云

清佛身狀云云 清月見

清送送海也云云

清清字 清月及清清人云云

一 乃也云云 清月及清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

後清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

在清月及清清人云云

一 右云云 清月及清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

清月及清清人云云

作玉烈心感一問心感書云云

三月廿七日

化月夜中者 内判功中者

所月令者(先)後云云二十月七念念云云三十九日

大(通)少(行)者

一(石)子(目)者(初)者

清(心)

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者

一(石)子(目)者(初)者



張其宗之志也  
清心之石不列後海心在後

一 守約年人乙

羊之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其
日之石	其	其

右方之石... 守約年人乙... 清心之石... 其

一 守約年人乙

其  
其  
其  
其  
其

存道正修... 存道正修... 存道正修...

上下

一 休日 脾胃覺及... 脾胃覺及...

一 解原 清後... 清後...

一 清心... 清心...

一 化清... 化清...

一 補氣... 補氣...

補氣... 補氣...

一 其言... 其言...

一 脾胃 脾胃覺及... 脾胃覺及...

一 脾胃... 脾胃...

一 脾胃... 脾胃...

脾胃... 脾胃...

一 脾胃... 脾胃...

一 脾胃... 脾胃...

一 脾胃... 脾胃...

六 清伊房に在る事一 極楽寺

一 清伊房殿向山名高深少路在り山名遠事行り事也

一 山名高深少路在り山名遠事行り事也

一 山名高深少路在り事也

一 山名高深少路在り事也

一 山名高深少路在り事也

一 山名高深少路在り事也

正字

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

一 御利出仕中御方今以何家在り

右 御利

御利

御利出仕

御利出仕

御利出仕

御利出仕

御利出仕

御利出仕

御利出仕

事... 領... 領...

二... 年...

本... 元... 武... 為... 書... 備... 子... 孫... 承... 傳... 之... 道...

一... 年...

口... 口...

全... 或... 為... 史...

皆... 為... 一... 世...

何... 而... 一... 百...

化... 一... 神... 功... 之... 靈...

實... 入... 實...

六... 公... 孫... 清... 公... 亮...

本... 陽... 地... 及... 清... 江... 年... 國... 之... 功...

所... 任... 修... 在... 清... 中... 興... 三... 之... 國... 之... 功... 也...

清... 月... 分... 之... 功... 也... 清... 江... 年... 國... 之... 功... 也...

清... 江... 年... 國... 之... 功... 也...

中... 興... 實... 入...

實... 入... 實...

清... 江... 年... 國... 之... 功... 也...

清... 江... 年... 國... 之... 功... 也...

清... 江... 年... 國... 之... 功... 也...

清... 江... 年... 國... 之... 功... 也...

一 山崎

山崎の川に大塚の墓あり

山崎の墓あり  
山崎の墓あり

一 山崎

山崎の川に大塚の墓あり

山崎の墓あり  
山崎の墓あり

一 山崎

山崎の川に大塚の墓あり

山崎の川に大塚の墓あり

一 山崎

山崎の川に大塚の墓あり

山崎の墓あり  
山崎の墓あり

一 山崎

山崎の川に大塚の墓あり

山崎の墓あり

山崎の墓あり  
山崎の墓あり

山崎の川に大塚の墓あり

山崎の墓あり

山崎の墓あり

1124

1125

1126

1127

1128

1129

1130

1131

右書中物定是此等物

1132

1133

右書中物定是此等物

1134

1135

1136

1137

1138

一 何事

右書中物定是此等物

天谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

小谷

入卒極免

此物所引  
五六

山前集

山前集

在平海。字平。以平。清。清。

清

在平海。字平。以平。清。清。

在平海

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

山前集

師

内

公

...

...

...

其六

例

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



有 清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

一 大書清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

一 清溪在東山之北

不矢信し

程と程程又

口法袋年

口大袋年

少川多子

國石屋心

口田袋年

一 清溪在東山之北

清溪在東山之北

清溪在東山之北

清心之學堂 三國大經合海歌

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

白田學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂

白田學堂

清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂

白田學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

清心之學堂 清心之學堂 清心之學堂

廿七日

一 例列在牛浦舟中以何家船上

一 症候均除之其人多出此名

一 右方舟舟者多也

仙名名

可川名

右之舟正 清化

一 清化之舟以舟者多

一 舟名舟舟

舟名名

舟名名

一 舟名舟舟

舟名名

右之舟正 舟名舟舟

一 舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

舟名舟舟

志月神宮... 志月神宮... 志月神宮... 志月神宮... 志月神宮...

任... 任... 任...

一 江... 江... 江... 江... 江...

比... 比... 比...

少... 少... 少...

一 志... 志... 志... 志... 志...

比... 比... 比...

志... 志... 志... 志... 志...

志... 志... 志... 志... 志...

一 比... 比... 比...

志... 志... 志... 志... 志...

比... 比... 比...

志... 志... 志... 志... 志...

一 志... 志... 志... 志... 志...

志... 志... 志... 志... 志...

志... 志... 志... 志... 志...

一 少くも此の世に生かす  
はるかに

元年  
三月

中元月

景下り

不慮

行也

元年  
五月

六月

元年

一 此の世に生かす  
はるかに

中元月  
景下り  
不慮  
行也

元年

六月

一 清見友  
自是者

万有

一 清見友  
自是者

坂口

例刻在牛府人改刻成在土

志元地味

口名

池

去乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

牛府人改刻成在土

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

此乃知身自之至多入全 所成

秀 清溪水口亦在牛府人改刻成在土

清溪水口亦在牛府人改刻成在土

清溪水口亦在牛府人改刻成在土

一

清江渡下 内山在望 舟行 舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下

舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下

舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下 舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

舟行渡下

一  
寶門

亦林臨平元之系後大為平  
之及子之在在江表之原也  
昔河之在在存存存存  
清惟也存存存存存存  
其存存存存存存存存存存

白丹後



出石藩

御用部屋日記

弘化

二

年

十二月

十一日

出石町公民館蔵

弘化二年巳年

御在城

日記

早川彦書

十二月小

九日



朔日

一 何到公仕出小统产美青運後成相沙微學

一 沙定牙梅方上表自沙發發出出公建美華元

一 田沙用錄地

田沙用錄地  
田中人

一 沙定牙梅方上表

今籍 沙城

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

全以半

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

如同

一 沙定牙梅方上表

仙石古馬助

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

一 沙定牙梅方上表

律法經部... 成在... 律法經部... 成在... 律法經部... 成在...

一 寺... 律法經部... 成在... 律法經部... 成在...

律法經部

律法經部

律法經部... 成在... 律法經部... 成在...

律法經部

律法經部... 成在... 律法經部... 成在...

律法經部

律法經部

律法經部

律法經部

律法經部

律法經部

律法經部

律法經部... 成在... 律法經部... 成在...

律法經部... 成在... 律法經部... 成在...

一 寺社名目

本年 寺社名目 寺社名目

天真院 九月四日 十二回忌

信巻院 九月四日 二十回忌

正光院 九月廿日 百回忌

照意院 九月廿日 二十回忌

惠賢院 九月廿九日 百回忌

信巻寺

二 月入

名教物とありしに...

荒本寺の...

河合八郎...

...

...

...

二 日言

一 休日 月言...

一 休日 月言...

一 休日 月言...

一 月言

...

...

...

...

...

...

一 休日 月言...

義倉上出所花以作修葺秋  
出所六枚

取野六部次

此四日六半附以休物古修葺年字校等  
許佛指法 何名以長自其申也

四日書

一 偏利心在出山細戶之取何作威德也

寶圓院指法意曰身

許代者

取野六部次

右今細戶初以屋中進者入心進 許性

一 四半許出包修寺守心修寺

許清修修遊 許出言之二百許通也

許月見心通 許出許通心武或也

許出後出心細戶之取何作威德也

去處自正家公二女修修若他業  
取海月月修也十枝

合次牛意

先年悔日正家公年林瑞等許也  
亦修元在親元正修而任度身  
其意以戶者為月修十支也  
少刺人之心也

白井原意

古之也小年名修君年人

許月見心通

取同修意

古之也男史以在自以

真野修意

許佛指法

手末有九修也取度修修  
古之也中名止名取以何人為意  
一系自以修也取以修也  
古之也今一人取以修也取以修也

田修修意

取修修意

少知... 中... 修...

一 官...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

二 少...

三 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 少...

一 沙... 日...

平尾七...

久保...

佐...

小...

若...

津...

山...

山...

平尾七...

津...

山...

佐...

久...

佐...

一 山...

一 山...

一 山...



一、...

一、...

十月十三日

仙石...  
...

右...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

1. [Faint handwritten text]

1. 此土乃... [Faint handwritten text]

1. 右... [Faint handwritten text]

平尾七兵衛

辻 勘平外

吉田 五右衛門

西村 勇

麻布市津町 [Faint handwritten text]

[Faint handwritten text]

[Faint handwritten text]

[Faint handwritten text]

[Faint handwritten text]

[Small handwritten mark]

長島 友伸

[Small handwritten mark]

平尾 七兵衛

辻 勘平外

吉田 五右衛門

西村 勇

山崎 土間守

口 恒平兵衛

山崎 八郎

東 三郎

[Faint handwritten text]

任後學事 中後...

諸君及在江左...

今春年上...

但為...

亦有...

一丈之...

中...

一...

新市...

...

...

右...

去月十六日

長...

...

...

一...

...

...

右...

...

一...

...

...

...

麻布市... 仙石... 仙石...

仙石...

平七...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...

仙石...



平尾七郎  
 中村徳光  
 山口良一  
 山口良二  
 山口良三  
 山口良四  
 山口良五

山口良一  
 山口良二  
 山口良三  
 山口良四  
 山口良五

山口良一  
 山口良二  
 山口良三  
 山口良四  
 山口良五

山口良一  
 山口良二  
 山口良三  
 山口良四  
 山口良五

山口良一  
 山口良二  
 山口良三  
 山口良四  
 山口良五

山口良一  
 山口良二  
 山口良三  
 山口良四  
 山口良五

及延以成之... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

正月十九日

正書給... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

伯子... 伯子... 伯子...

此情亦不知不覺之... 後下任中... 汝不名教中...

十集

一身社... 此情亦有...

十月五日

一身通... 此情亦有...

七史助... 此情亦有...

此情亦有...

此情亦有... 此情亦有...

此情亦有...

十月七日

此情亦有... 此情亦有...

此情亦有...

十月十日

一身通... 此情亦有...

此情亦有...

此情亦有...

此情亦有...

此情亦有...

十月十一日

一身通... 此情亦有...

此情亦有...

此情亦有...

此情亦有...

此情亦有...

十月十二日

一身通... 此情亦有...

此情亦有... 此情亦有...

此情亦有...





七日 音

一 物別出は山小納戸の何れに依りて

凡そ何れに依りて

破産の事

右に 許し 許意有之 許清法依りて

（各名有然るも其元未年以  
許月之何れに依りて）

本間源兵衛  
志保作左衛門

（其元未年以許月之何れに依りて）

垣田左衛門

（其元未年以許月之何れに依りて）

岡田有定

（其元未年以許月之何れに依りて）

伊東徳兵衛

一 本月十日何年、通山権地取廻りて、山小納戸に依りて

（其元未年以許月之何れに依りて） 信正の何れに依りて、山小納戸に依りて

（其元未年以許月之何れに依りて）

八日 音

一 本日 許月何れに依りて、山小納戸に依りて

（其元未年以許月之何れに依りて）

若 新九郎

一 寺社に依りて

山小納戸  
山小納戸

一 右に何れに依りて、山小納戸に依りて、山小納戸に依りて

（其元未年以許月之何れに依りて）

一 有：自日爲中... 唯其... 達

一 以用入至

干涸既大... 考

中... 考

休之回本意

右... 爲... 也... 以... 後... 考

一 山... 考

中... 考

正... 考

右... 化... 也... 考

考... 考

一 考... 考

考... 考

一 考... 考

一 文... 考

考... 考

考... 考

考... 考

考... 考

一 考... 考

九日 考... 考

一 考... 考

一 考... 考

浙佛物遊記 仁出山月對中道

母方叙又林出有依病時多苦  
去年生不知付以月十日死在後院  
方為一方中誠有定或定後信  
中至日教過有今日一日在道任月者由人心中

城溪化

十日 快信

一 何利出仕山小細戶及何往後橋中上

凡利應是今日日出仕及合

破野六部次

右至 許融

去年九月十日

山月對中道

國口角處

修田古帝所  
修不修處

一 常真院在沙志日家門 許出免修處

許佛物遊記 許出之言二日而後 許通誠

許自免修之道 許出許佛物 許出免修處

許出後山小細戶及何往後橋中上

許出通所為否否此月對中道

許出勤沙佛名沙何許出家以家來肯中

許出家修處 仁出信之來此十日對山月對中

出家人出仕其外悲代及沙後及一修處

十二月十日

山月對中道

山月對中道

一 凡利出仕山小細戶及何往後橋中上

身十三日... 月日... 出入... 外... 成... 事...  
の... 句... 後... 通...

右... 函... 名... の... 事... 甚... 矣...

十二月十日

以... 同... 封... 中...

子... 列... 氏... 姓...

後... 江... 家... 出... 役... 者... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...  
少... 子... 而... 後... 大... 久... 保... 出... 雲... 霧... 似... 存... 於... 心... 以... 有... 定... 月... 十... 六... 日...  
少... 川... 渡... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

右... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

十二月十日

以... 同... 封... 中...

子... 列... 氏... 姓...

右... 山... 崎... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

右... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

田... 中... 伊... 姓...

其... 氏... 文... 氏...

河... 崎... 氏... 姓...

右... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

右... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

酒... 向... 久... 氏... 姓...  
河... 崎... 氏... 姓...

右... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣... 此... 後... 之... 事... 亦... 甚... 矣...

一 厚徳堂月報中後

一 夫者之友を名物に著し列記するが如き事知れぬ  
よふふはありを致ししは是れ其の如しと云ふ事

文のり中身  
但色色各一箇に記ししは其の如し

ありあり

口説き

ありあり

小説人

ありあり

小説家

右の如き中身は其の如し

十二月

ありあり

四月

右の如き中身は其の如し

一 同人誌

當り年報納付の如きは他所集合の如き事知れぬ  
附くは是れ其の如し

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

一 同人誌

ありあり

同人誌

古田  
一 朱三石  
一 大豆三石  
一 并三石  
一 大豆

一 朱三石  
一 同七石  
一 并三石  
一 大豆

右六石新平物

朱三石

朱三石

右二石新平物

大豆三石

大豆三石

朱三石

朱三石

一 朱三石

他方物三石

一 大豆三石

他方物三石

大豆三石

一 出用入

白浪十

瑞媽 二石

右今候定後等正出和為肉菜有右

他方物如右等白浪十瑞媽字樣一石

十一日

一 本日 許自定付何送候為出小細戶

出用入

此本原委  
沙香真  
武定

每本收銀

本道山後... 武定

十二月 吉星

例別出仕... 武定

武定

武定

右在 武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

武定

蜀子分之二... 彼年... 亦... 正... 此... 此... 此...

子列...

一 知竹七...  
 一 四七年...

一 武城...  
 一 亦...

一 亦... 之... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

亦竹...

一 亦... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

亦竹...

一 亦... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

亦竹...

一 亦... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

十二月...

一 亦... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

亦竹...

亦竹...



一 候年之通河香之拾二門口也

一 河城河教向山煤納之在河教後山香結事以十年也

一 山煤納内煤木出產本秋山香之創進也

一 山煤納通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

中道

一 河之表當月初果別便力也

一 河奥福之在河教後山煤納之在河教後山煤納之紙的也

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

後

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

大月

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

己未月

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

土月

長石

山煤納

一 河之通河煤納之在河教後山煤納之紙的也

山煤納

井之河

右款

許晉

何有之

上列位下

取帖

秋元仙馬哥

名代

板君任務書

初列山形

正結

水地金全印

名代

水并任務書

右口 何有之 於其家商老中列位

已地... (illegible)

十有百

世書

子國公 子何... (illegible)

... (illegible vertical text)

甲山年長

岳初後印

河山年長

中村年長

林和年長

長原年長

是原年長

... (illegible)

... (illegible)

六本村

岩

... (illegible)

山行會誌

山行會誌

古肥志  
河津海  
二屋越次  
國台意

所用一紙以留山中  
新紙三函其人因知此紙  
紙紙皆其福自其往來  
紙紙之信其人如右代其  
信書

荒木致市

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

十月廿日

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山行會誌

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏

山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏

山崎氏

山崎氏

山崎氏

山崎氏

山崎氏

山崎氏  
山崎氏

山崎氏

山崎氏

十一 二 二

山小姓

山小姓了去者组入  
组中村年去者组入  
组分国台管会上

山小姓  
三改

地方改

山小姓  
山小姓了去者组入

山小姓

山小姓  
山小姓了去者组入

山小姓

山小姓  
山小姓了去者组入

山小姓

山小姓  
山小姓了去者组入

山小姓  
山小姓了去者组入

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

山小姓

右表口 山小姓

山小姓 山小姓 山小姓 山小姓 山小姓 山小姓 山小姓 山小姓 山小姓 山小姓

山小姓

111

右西の梅影は花を依 許意は春宵月に入  
許意力之口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
ゆき夜通る

但許意多し果しは春宵月に入は成下は用着は花を依は海屋元はは

乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
即其本手因り

右切の連月歌は山月白歌は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
志は情也

乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは

乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは

乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは

乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは

乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは  
乃其女子の口類汁は成下は用着は花を依は海屋元はは

米子傳

山内守

目三斗

山内人

目三斗

山内下

有、山内守中、名、山内守、

十二月廿六日

山内守

山内守

山内守、山内守、山内守、

山内人

山内守、山内守、山内守、

山内守

山内守、山内守、山内守、

山内守

山内守

山内守

山内守

山内守

山内守、山内守、山内守、

山内守、山内守、山内守、

山内守、山内守、山内守、

山内守、山内守、山内守、

山内守

山内守、山内守、山内守、

山内守、山内守、山内守、

十六日 晴

一日 沖國方在何法後極止納戶言云

一 出陣

居免山破後休中進也

梶田助

一 出陣

進中何言云

沖次以後心建所為意云

山口助

一 出陣

沖國方在何法後極止納戶言云

十七日 晴

一 出陣 沖國方在何法後極止納戶言云

大意院極法也

松村九郎

右分相 沖國方在何法後極止納戶言云

沖國方在何法後極止納戶言云

松村九郎

沖國方在何法後極止納戶言云

沖國方在何法後極止納戶言云

沖國方在何法後極止納戶言云



一 某十人日... 某十人日... 某十人日...

村山太郎

一 山内人達

一 山内人達  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...

一 山内人達

一 山内人達  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...

山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...

一 山内人達

山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...

一 山内人達

一 山内人達  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...

山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...  
山内人達... 山内人達... 山内人達...

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

山崎三孝

宗室後守正名如高承之等能以此事為

但十分化名在島而若意及以是意及上亦有用名札之

以上中會

一 以中在帝一故皇親八君前

一 以用八八之君及之在島由之使方名有在信之有也

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

十八日

休日 宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

十九日

休日 宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

宗室後守正

大目面

一 御刺出仕は小納戸より御成帳へ

せり是程物書成書在帳中

若新九郎

一 六七分 沖出包二ヶ寺如言寺

沖佛指沙遊 沖出二ヶ寺より

沖通を沖見付道 沖出沖佛より式部

沖出九ヶ寺より 沖出後小納戸より御成帳へ

一 沖出橋末より入りの日 何れは沖出より何れは

沖出の月日出入の月日 道のり次第

但し高きより出言法より出言法は御成帳に記入

一 九一 通 御成帳用紙に

せり是の上はに及ぶと書長

何れは在り常しく出言法に

之を

年預みより月次先は

浅村

左田忠吉

出言中

吉田

出言中

名代

留田

佐之

出言  
法に

各段門書月日大書、原く在信致一古紙  
之より信致の月日法に成下りて

波平の流は、何れも、但貴福の書

貴福  
波平の流は、何れも、

右田の 貴福の書

貴福  
百々々

貴福の書

山小姓の書

右田の

山小姓の書

金武の書

各成、各務の言、藤洲、波平、右田、山小、  
貴福の書、何れも、但貴福の書

山小、右田、波平、  
竹村、山小、  
波平、山小、  
山小、右田、  
山小、右田、

山小、右田、波平、  
山小、右田、  
山小、右田、  
山小、右田、  
山小、右田、

山小、右田、波平、  
山小、右田、  
山小、右田、  
山小、右田、  
山小、右田、

山小、右田、波平、  
山小、右田、

一、以列人進

一、通當十八日、後、...

以紋付、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

以先、...

右、...

以先、...

出、...

以先、...

一、...

以先、...

右、...

一、...

以先、...

朱文修

家後寺

正氣如志近化一品修來多事之始以道好信住心此  
善善物務到之收 思善本在自來其下事以  
但先編十卷一編一其以爲一編心之善也

一 心用入世

乃通言 仁賢方十信之如江統十事也

中助定言修德

言修年六事

席卷之世

世之修中改

言修年六事

中修年修

席卷之世

後田澄船

中修年修

席卷之世

乃天梯便

修善年

席卷之世

中修年六事

中修年修

席卷之世

中修年修

席卷之世

中修年六事  
修年六事  
修年六事

右今日禮以三竹中用入正色以月修善年六事以修德十事

沙來表乃修德

乃通言入十修

沙來表乃修德

右此功在修德之手修之如心好修文治十三事年

大月之法乃在修德之手修之如心好修文治十三事年

出納お勤りの事

右の通りお勤り下り法は比叡天皇の御代より

以後通じての事

一 出納の事

右の通りお勤り下り法は比叡天皇の御代より

出納の事  
比叡天皇の御代より

一 出納の事  
比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より

出納の事  
比叡天皇の御代より

出納の事  
比叡天皇の御代より

出納の事  
比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より

出納の事

比叡天皇の御代より



一 派 了 局 乎

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎

一 派 了 局 乎

一 派 了 局 乎  
南 秋 出 矣 了 柳 松 列 柳 景  
一 派 了 局 乎  
派 了 局 乎

一 派 了 局 乎

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中

一 派 了 局 乎  
日 之 中  
日 之 中



大書院標

涉忘白有經書

涉代者

涉在右馬

志人今將抄錄以成中道善人合道 涉施

坊四白 書

佛利出仕小細戶之似何法漢學士

松壽御儀

涉忘白有經書

涉代者

實相御儀

月以有

室操書

新九所

右乃親友知以法中道善人合道 涉代

涉忘初 天保十二歲三月廿九日也

右乃遠向之人心如中道善人合道 涉代

一 涉代者 涉代者

涉代者 涉代者

涉代者 涉代者

一 涉代者

涉代者

涉代者

涉代者 涉代者

涉代者

涉代者 涉代者

一 涉代者

涉代者 涉代者

常之出形如新  
口更行定行  
字無入數  
以取之派以表其原

古林苑井  
五五五

廿六日

一 休日 冲月竟存何法  
一 涉海橋

廿六日

一 休日 冲月竟存何法  
一 涉海橋

廿六日

冲月竟存何法

廿六日

涉海橋

休日

涉海橋

冲月竟存何法

涉海橋

冲月竟存何法

涉海橋

冲月竟存何法

涉海橋

冲月竟存何法

涉海橋

江戸山崎屋

一、

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

表

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日

江戸表五月十日



右通於... 此用者...

但此... 似有...

右通... 似有...

似有...

似有...

似有...

似有...

似有...

似有...

右月...

似有...

似有...

似有...

似有...

似有...

右月...

似有...

右月...

似有...

右月...

似有...

右通...

未言...

右通...

似有...

右通...

似有...

右通...

目録は中絶し候事  
此は在り書寫候事  
和川候へ書候事  
照看忌不候事

古波赤石

岩本

新垣

小林

河合

半日候人  
夜中

市野

坂田

吉野

本日候人  
夜中

古波赤石

岩本

新垣

印者

如律下  
夜中

西川

新井

結

井上



前通

小泉通

小泉人

信直

信士

己丑月

信直信直信直

信直信直信直

信直信直信直

信直

信直

信直

信直信直信直

信直信直信直

信直信直信直

信直

信直

信直

信直信直信直

信直

信直

信直

信直信直信直

信直信直信直

信直

信直

信直

信直

信直

信直

信直

小倉三郎  
倉本繁

酒由多  
中  
長  
類

治政當由國體  
為非徒處方條  
亦非徒處方條

金百七

取名包

此項以中  
此項以中  
此項以中

此項以中

加

此項以中  
此項以中  
此項以中

加

此項以中  
此項以中  
此項以中

加

此項以中  
此項以中  
此項以中

此項以中  
此項以中  
此項以中

一 出月八

一 友通云 何曾言一德 必一礼中

一 山松急节

一 日新以人新  
而方是之也

一 有云

一 山松急节 手山松急节  
山松急节 山松急节  
山松急节 山松急节

一 有云  
山松急节 山松急节  
山松急节 山松急节

一 有云

一 山松急节 山松急节 山松急节

一 有云 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

一 有云

一 山松急节 山松急节

一 有云 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

一 山松急节 山松急节

在日

一 厚道 何曾出利路中後身

在日

厚道 何曾出利路中後身

在日

厚道 何曾出利路中後身

在日

一 厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

一 厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

一 厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

厚道 何曾出利路中後身

許能日房中... 出... 卷...

卷八十四

一 諸子下... 許能日房中... 出... 卷...

一 許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

一 柳... 互... 許能日房中... 出... 卷...

一 許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

一 許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

一 許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

許能日房中... 出... 卷...

右... 許能日房中... 出... 卷...

此後中道

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此後中道

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此後中道

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此後中道

此乃張龍氏本回本內本

此乃張龍氏本回本內本

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此後中道

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此乃張龍氏本回本內本

細說人入中道

此乃張龍氏本回本內本

一 今蒙府內兩縣沖孔口各教海之德志出政  
任事也

一 今晚出門去札後前之通之平法或取回國信也  
中後

一 昨日沈院外去吉法者因相持處成山制司人引路  
沈用者自亦取去通

沈用者  
沈者一姓

沈用者  
沈用者  
沈用者  
沈用者

一 友通此自持處成山沈姓路中法古例  
沈用者自亦取去通

一 昨日之沈院外去吉法者因相持處成山制司人引路  
沈用者自亦取去通

一 沈用者

沈用者  
沈用者  
沈用者  
沈用者

己年大橫竟

一 沈院之府九卷之石  
沈用者

己三月六日七月  
己三月六日七月

一 月四日沈院七台七卷之石

己七月八日十二月  
己七月八日十二月

一 沈院之府九卷之石  
沈用者

沈用者  
沈用者

沈用者

三原縣知事王致和

教習王致和

一 張百中書院

王致和

王致和書院

一 王致和書院

王致和

一 王致和書院

王致和書院

王致和書院

王致和書院

右 王致和書院

一 王致和書院

王致和書院

王致和書院

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和

王致和